332.71
Ka439g

*0022911000*

0022911-000

３３２．７１－Ｋａ４３９ｇ

# 濠洲

兼松商店調査部・編

国際日本協会

1943

ADC

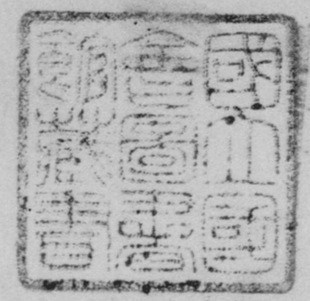
エF-50

# 濠洲

株式會社　兼松商店調査部著

東京　國際日本協會　刊行

332.71
Ka439g



30987

# 序

昭和十六年十二月八日、畏くも米英に對する宣戰の大詔が渙發せられるや濠洲聯邦政府は英本國政府に盲從して對日宣戰を布告するに至つた。

爾來、御稜威の下、忠勇無雙なる皇國陸海空軍の精鋭は忽ちにして香港を攻略し、比島、馬來、緬甸、蘭領印度、南洋諸島嶼に進攻して東西南北向ふ所敵無く、敵が豪語して鐵壁を誇つたA・B・C・D線は脆くも壞滅し、彼等の對日進攻據點は悉く之を喪失し、濠洲、新西蘭土、亦南太平洋の孤兒と成り果て、其の運命は將に風前の燈火に等しき狀態に在る。然かも迷夢今尙ほ醒めず、東條首相屢々の聲明に耳を藉さずして、英本國賴むに足らずと觀るや媚を米國に送つて救援を求め國土の防衞に狂奔しつゝあるが、今にして皇國の實力を認識し聖戰の意圖と八紘爲宇の大精神を理解する具眼の士の現れて、國論を纏めて徒に米英に依存するを放擲し共榮圈の一環として欣然參加を表明せざる限り、近く兵火の濠洲本土に及ぶ可きことを覺悟せねばなるまい。既に濠洲の前哨據點と恃むニュー・ギニヤのポート・モーズビ

ーは我が無敵空軍の連爆下にあつて余命幾何も無かるべく、本土北門のポート・ダーウィン、北西洋のウィンダム、ダービー、ブルーム、ポート・ヘッドランド等の群小諸港亦空爆の洗禮を受け、更らに東岸に於てもタウンスヴィル、ニュー・カッスル、シドニー港亦我が襲撃の經驗を嘗め、皇軍の濠洲本土進攻に戰々兢々たる有樣が眼に見える樣である。

由來濠洲と謂へば、廣袤たる草原に羊群が點々と牧草を喰み、一望千里の沃野に小麥の穗が黃金の波を搖がせ、或は荒漠たる沙漠に袋鼠の跳躍するを思はしむる所であるが、我國としては從來一般的に交涉が薄く關心の尠かつた地域で、大東亞戰爭の進展と戰果の濠洲近邊に及ぶに隨ひ玆に急激に重大關心を喚起するに至つた。然し乍ら濠洲は地理的にも經濟的にも我國にとつて頗る重要なる地位に在るのみならず、太平洋の永久的平和を希ふ皇國として濠洲を敵の制壓下に殘存さすべきでない、況や大東亞共榮圈の確立に絕對不可缺の一大陸であるに於てをやである。

我兼松商店は明治二十三年濠洲シドニー市に始めて店舖を開設して以來五十有余年、昨年八月鹿島丸にて社員の大部分が引揚げ歸朝する迄、日濠通商の開拓、發展に努力を傾倒し來つたものであるが、玆に永年濠洲に在つて研鑽蒐積せる智識經驗を集約し、濠洲の自然、文





化、政治、經濟等の全般を江湖に紹介して濠洲に對する認識を新たにする事は敢て徒爾に非ずと信ずる。弊社内編輯委員が去る五月稿を起して昨今漸く脫稿せるを知り玆に一書として刊行、各位の閱覽に供するものである。願て大東亞共榮圈の一環として共助的活動を開始する場合に備へて此書が諸賢の參考の一助ともなれば幸甚である。

昭和十七年九月

株式會社兼松商店

專務取締役　林　莊太郎

# 凡　例

一、本書中濠洲各州に付左の略字を用ひることあり

| | |
|---|---|
| ニュー・サウス・ウェールス州 | N. S. W.(New South Wales) |
| ヴィクトリヤ州 | Vic.(Victoria) |
| クィンスランド州 | Qld. 又は Q'land. (Queensland) |
| 南オーストラリヤ州 | S. A. 又はS. Aust.(South Australia) |
| 西オーストラリヤ州 | W. A. 又は W. Aust(Western Australia) |
| タスマニヤ州 | Tas. (Tasmania) |
| 直轄北部地域 | N. T 又は Nor. Ter.(Northern Territory) |
| 直轄首都地域 | A. C. T. 又は Cap. Ter. (Australian Capital Territory) |

二、金額は特に指示なき限り總て濠洲磅を以て表示する。因に英磅一〇〇は濠磅一二五にして日英爲替相場一志二片として邦貨に換算すれば約一三圓七一錢である。濠洲の外國貿易統計は輸出は濠磅、輸入は英磅を以て表示する習慣のあることを念の爲附記する。

三、濠洲で使用されてゐる度量衡は英國式のヤード・ポンド法にして各種單位を米法又は尺貫法と對比すれば次の如くである。

(一)度

1碼＝3呎＝0.9144米＝3.0175尺

1呎＝12吋＝0.3048米＝1.0058尺

1哩＝1.6093粁＝14町45間

1海里＝1.852粁＝16町58間

風光明媚なボート・ジャクソン灣及びシドニー市。手前がシドニー市の商業街、先はポッツ・ポイント、エリザベス・ベー、ポイント・パイパー、ローズ・ベー等の住宅街。

凡　例

(二)量

1ガロン=4.546立=2.5201升

1アッシエル=2.0161斗

1立方呎=0.0283立方米=1.0176立法尺

(三)衡

1英噸(Long ton)=2,240封度=1.016瓲=270.946貫

1輕噸(Short ton)=2,000封度=0.9072瓲=241.916貫

1封度=0.4536瓩=120.96匁

1オンス=$\frac{1}{16}$封度=16ドラム=28.35グラム=7.56匁

1centl.(cental)=100封度

1cwt(hundredweight)=112封度

(四)地　積

1エーカー=4840平方碼=0.4047ヘクタール=0.4081町歩

1方哩=2.5899方粁=0.1679方里

1方碼=0.8361方米=9.1054方尺

四、本書に掲ぐる統計表中

—　は皆無又は妥當するものなきことを

0　は當該單位に滿たざることを

…　は不詳又は未詳なることを示す

風光明媚なボート・ジャクソン灣及びシドニー市。手前がシドニー市の商業街、先はポッツ・ポイント、エリザベス・ベー、ボイント・バイパー、ローズ・ベー等の住宅街。



(二)量

1ガロン=4.546立=2.5201升

1ブッシエル=2.0161斗

1立方呎=0.0283立方米=1.0176立法尺

(三)衡

1英噸(Long ton)=2,240封度=1.016瓲=270.946貫

1輕噸(Short ton)=2,000封度=0.9072瓲=241.916貫

1封度=0.4536瓩=120.96匁

1オンス=$\frac{1}{16}$封度=16ドラム=28.35グラム=7.56匁

1centl.(cental)=100封度

1cwt(hundredweight)=112封度

(四)地　積

1エーカー=4840平方碼=0.4047ヘクタール=0.4081町歩

1方哩=2.5899方粁=0.1679方里

1方碼=0.8361方米=9.1054方尺

四、本書に掲ぐる統計表中

—　は皆無又は妥當するものなきことを

0　は當該單位に滿たざることを

…　は不詳又は未詳なることを示す

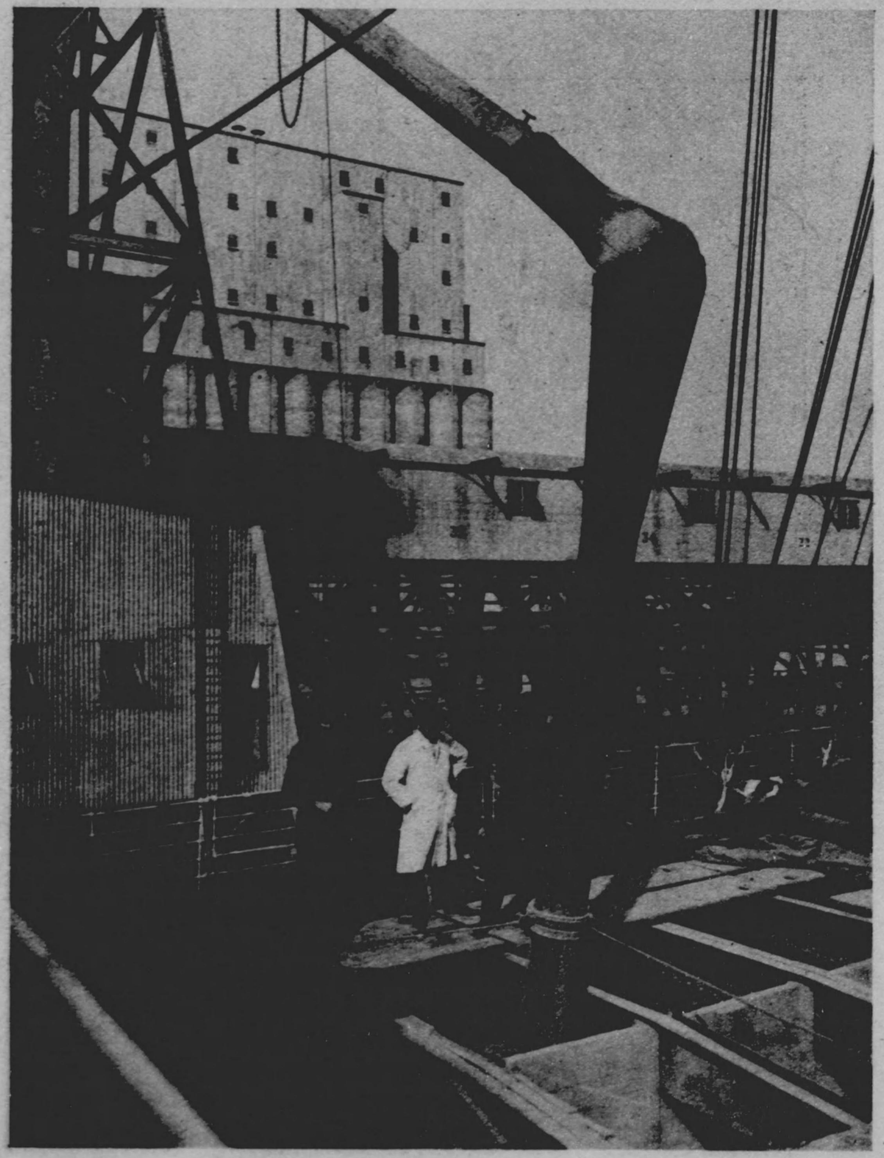
メリノ種母羊及び仔羊（ニュー・サウス・ウエールス州　マッヂー地方）

市場へ送らるゝ食用牛の群（ニュー・サウス・ウエールス州　ハンター地方）

メリノ種母羊及び仔羊（ニュー・サウス・ウエールス州　マッヂー地方）

市場へ送らるゝ食用牛の群（ニュー・サウス・ウエールス州　ハンター地方）

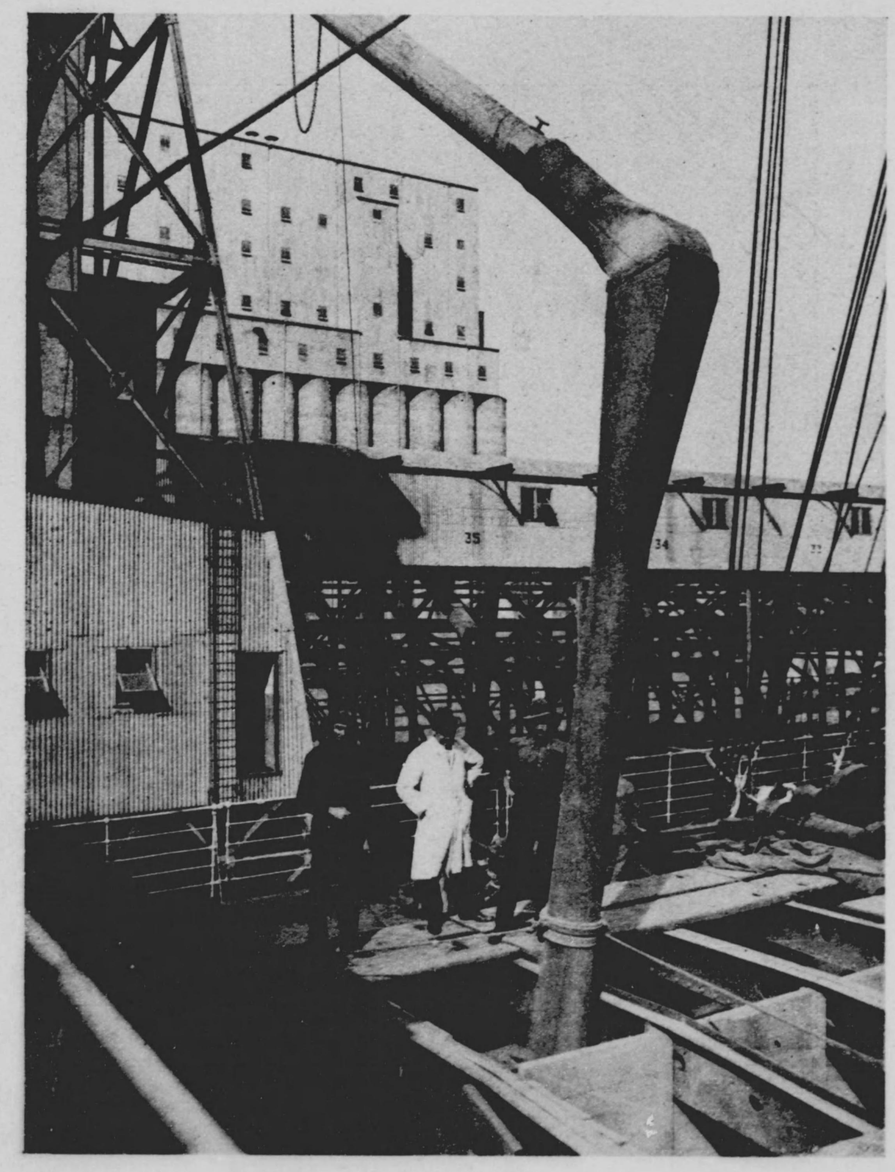
奥地に於ける羊毛の運搬。廣漠たる大平原に一度び降雨を見ると、道は泥土と化して交通を阻害することは甚大である。



撒小麥の積込み。向ふに見えるコンクリート倉庫は小麥のサイロである。

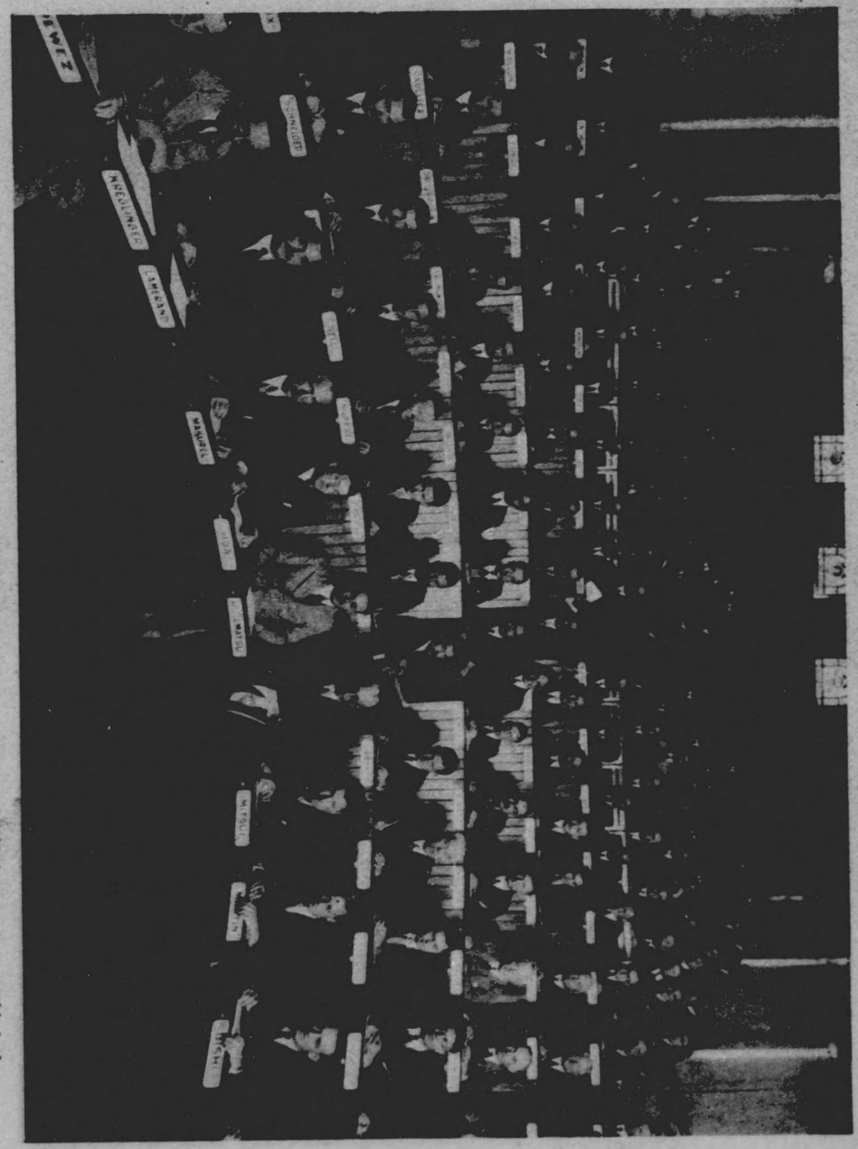
（ベー・トワホ港ーニドシ）

奥地に於ける羊毛の運搬。図実たる大平原に一度び降雨を見ると、道は泥土と化して交通を阻害することが甚大である。



撒小麦の積込み。向ふに見えるコンクリート倉庫は小麦のサイロである。

（シドニー港ホワイト・ベー）



一九三三——三四年度シドニー羊毛蓋開競市初日。過去五ヶ年の買付實績により、買付多き商社が競賣人に近き場所、即ち前列中央を占め、少き者程後列横端へと席が定められる。

# 目次


精密地圖

序文……一

凡例……一

第一篇 國情一般……一

第一章 歷史……二

第一節 大陸發見……二

第二節 植民時代……一六

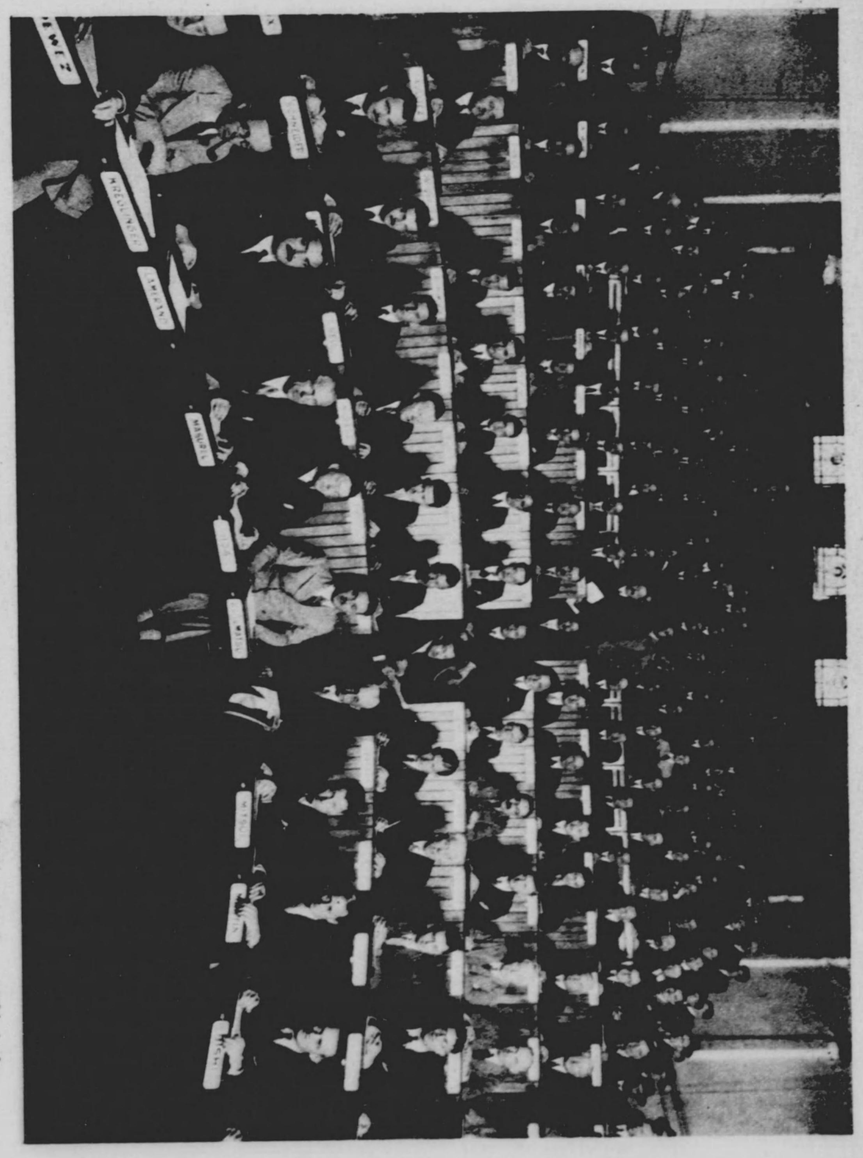
第三節 內地探檢……二三

第四節 國土發展……三三

第二章 風土……四六

第三章 人口……五〇

第四章 原住民族……六四



一九三三——三四年度シドニー羊毛品評會競市初日。過去五ヶ年の實付實績により、實付多き商社が競賣人に近き場所、即ち前列中央を占め、少き者程後列横端へと席が定められる。

# 目次


精密地圖
序文……1
凡例……1
第一篇 國情一般……1
第一章 歷史……1
第一節 大陸發見……1
第二節 植民時代……1
第三節 內地探檢……1
第四節 國土發展……1
第二章 風土……1
第三章 人口……1
第四章 原住民族……1

第二篇　政治・經濟・交通……七九
第一章　政治力及び行政機構……八〇
一、濠洲政治の理念……八〇
二、デモクラシー……八〇
三、白濠主義……八〇
四、行政組織……八二
五、議會及び政黨……八七
六、政界の近情……八八
第二章　財政……九二
一、戰前の財政……九八
二、戰時財政……一〇五
三、濠洲の國債……一〇八
第三章　經濟・金融……一一三
第一節　經濟構造……一一三
一、原始產業……一一三
二、製造工業……一一四
三、產業分布……一一六
四、濠洲經濟構造の特徵……一一八
第二節　貨幣・金融……一一九
一、貨幣制度……一一九
二、金融組織……一二三
三、外國爲替……一二五
第四章　鐵道……一三二
第五章　海運……一三六
第六章　道路……一三七
第七章　航空……一四一
第八章　通信……一四五
第三篇　文化……一四九
第一章　教育……一五〇
第二章　宗教……一五三

目次


第三章 衞生……一五五
第四章 文學・美術・音樂……一五六
第五章 スポーツ……一六一
第六章 生活樣式……一六六
第七章 新聞……一七一
第八章 ラジオ……一七四
第九章 娯樂……一七五
第四篇 原始産業……一七九
第一章 牧羊……一八〇
第一節 牧羊の歴史……一八〇
第二節 牧羊業の世界的地位……一八二
第三節 牧羊業の國内的地位……一八五
第四節 緬羊の種類……一八七
第五節 主要疾病及びそれが對策……一九六




目次


第六節 飼育頭數並にその分布狀態……一九八
第七節 ブリーダー種羊飼育者……二〇一
第八節 牧羊の經營形態……二〇三
第九節 産毛量並にその狀況……二〇六
第一〇節 羊毛取引組織……二一〇
第一一節 羊毛徵發制度……二一三
第二章 牧畜……二一五
一、牛……二一五
二、馬……二三一
三、豚……二四〇
四、家禽……二四一
五、兎……二四三
六、牧草……二四八
第三章 農業……二五〇
第一節 概說……二五〇
第二節 小麥……二五五
一、植付面積……二五五

二、生　産……二六六
三、國內消費……二六〇
四、輸　出……二六一
五、積　出……二六一
六、第二次歐洲大戰と小麥對策……二六四
第三節　乾　草……二六八
第四節　果　實……二七〇
第五節　砂　糖……二七四
一、甘　蔗　糖……二七四
二、甜　菜　糖……二七六
第六節　米……二七七
第七節　棉　花……二七八
第四章　鑛　業……二八一
第一節　概　說……二八一
第二節　金……二八八
第三節　銀・鉛及び亞鉛……二九一
第四節　銅……二九三





第五節　錫……二九七
第六節　鐵……二九九
第七節　石　炭……三〇九
第八節　輸　出……三一七
第五章　林　業……三二〇
第一節　概　說……三二〇
第二節　森林地帶……三二〇
第三節　面　積……三二一
第四節　生　産……三二三
一、木　材……三二三
二、特殊林產物……三二八
三、生產金額……三三一
四、勞力關係……三三一
五、設備能力……三三二
第五節　輸　出　入……三三二
一、輸　出……三三二
二、輸出數量……三三二

三、州別輸出高並に主要輸出港……二三六
四、輸　入……二三八
五、輸出・輸入比較……二四〇
六、單　寧　皮……二四〇
第六節　日本に於ける濠洲材の輸入狀況……二四五
一、堅　材……二四五
二、中　間　材……二四六
三、軟　材……二四七
第六章　漁　業……二四八
第一節　概　說……二四八
第二節　漁業の發展……二四九
第三節　漁獲狀況……二五一
(イ)一般魚介……二五一
(ロ)牡　蠣……二五三
(ハ)海　鼠……二五四
(ニ)眞　珠　貝……二五四
(ホ)其　他……二五七
第四節　輸　出　入……二五七
第五節　結　語……二五八
第五篇　製　造　工　業……二五九
第一章　羊　毛　工　業……二五九
第一節　羊毛工業の歷史……二六〇
第二節　羊毛工業の現狀……二六三
第三節　羊毛工業分布狀態……二七三
第四節　羊毛工業の將來……二七九
第二章　製　粉　業……二八〇
第一節　小麥と小麥粉概說……二八〇
第二節　國內製粉業……二八一
第三節　小麥粉の輸出……二八四
第四節　製粉工程・品種及び包裝……二八五
第五節　主要製粉工場名……二八七
第三章　綿紡・織布・莫大小工業……二八七
第一節　綿　紡……二八七

第二節 織　布……三八八
第三節 莫大小編物工業……三九〇
第四章 食肉工業……三九二
第一節 牛　肉……三九二
一、濠洲牧牛の目的……三九二
二、牛肉生産及び消費狀況……三九二
三、輸　出……三九四
四、冷凍牛肉……三九五
五、冷藏牛肉……三九八
六、濠洲牛肉の英本國に於ける地位……四〇〇
七、牛肉の等級及び種類……四〇〇
第二節 羊　肉……四〇三
一、屠殺狀況……四〇三
二、消費狀況……四〇四
三、輸　出……四〇五
四、英本國市場に於ける濠洲羊肉の地位……四〇九
五、羊肉の等級……四一一





第三節 豚　肉……四一一
第四節 屠殺場……四一一
一、公立屠殺場……四一五
二、民間食肉會社及び其の資本系統……四一九
三、オツタワ協定の濠洲冷凍業に及ぼしたる影響及び第二次歐洲戰爭以降の狀況……四二三
第五章 酪農業……四二五
第一節 酪農業概說……四二五
第二節 バター……四三三
第三節 チーズ……四三六
第四節 カゼイン……四三八
第五節 粉末乳・煉乳・乳糖……四四一
第六章 皮革工業……四四四
第一節 原　皮……四四五
一、牛　皮……四四五
(イ)生　産……四四五
(ロ)品質上に於ける特徴……四四七
(ハ)種類並に等級……四四八

(四)包裝……四五一
(五)輸出入……四五一
(六)最近事の情……四五二
二、羊皮……四五三
(一)生産……四五三
(二)輸出……四五五
三、其他……四五五
(一)馬皮……四五五
(二)毛皮……四五六
(三)最近事情……四五六
第二節 製革業……四五七
第三節 製靴工業……四六一
第七章 重工業……四六二
第一節 鐵鋼……四六二
第二節 非鐵金屬……四六八
第三節 船舶、車輛、機械、電機……四六九
(一)船舶……四六九







(二)車輛……四七四
(三)自動車・飛行機……四七五
(四)農具機械……四七六
(五)電氣機械器具……四七八
四、軍需工業……四七八
第八章 油脂製造業……四七九
第一節 牛脂(タロー)……四七九
第二節 豚脂(ラード)……四八〇
第三節 椰子油……四八一
第四節 ユーカリ樹油……四八五
第五節 白檀油……四八七
第六節 油脂製品……四八七
第九章 釀造業……四八八
第一節 麥酒……四八八
第二節 葡萄酒……四八九
第六篇 貿易……四九一

第一章　貿　易……四九六
第二章　輸　出……四九八
第一節　原始産業と輸出……四九八
第二節　輸　出　先……五〇〇
第三節　輸　出　品……五〇二
第四節　主要仕向國別輸出内容……五〇四
第五節　東亞諸國への輸出……五〇七
第三章　輸　入……五一〇
第一節　製造工業と輸入……五一〇
第二節　輸　入　先……五一三
第三節　輸　入　品……五一四
第四節　主要仕入國別輸入内容……五一五
第五節　東亞諸國からの輸入……五一九
第四章　關税と對英特殊關係……五二〇
第七篇　日濠交涉史……五二五





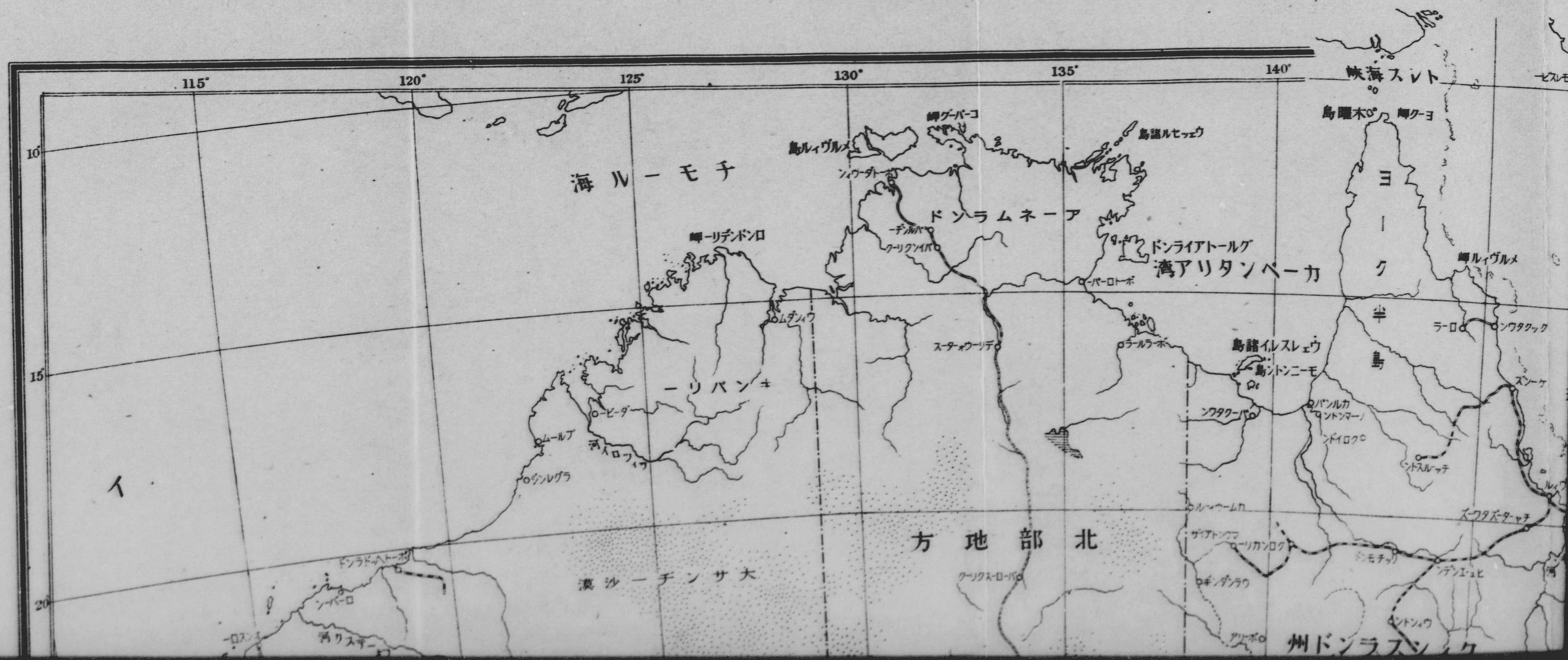
第一節　緒　言……五二六
第二節　日清戰爭と濠洲……五三六
第三節　日英通商協定……五三八
第四節　日濠通商の揺籃時代……五三九
第五節　日濠貿易の開拓者兼松房治郎氏……五四〇
第六節　二種の對日輿論……五四三
第七節　一九〇〇―一九二〇年……五四四
第八節　太平洋に於ける集團保障制度……五四五
第九節　日濠通商の發展……五四六
第一〇節　世界不況と日濠貿易……五四九
第一一節　日濠通商紛爭……五五一
第一二節　日濠暫定通商協定成立……五五四
第一三節　第二次歐洲大戰勃發及大東亞戰爭……五五六
附錄一　年譜……五六五
附錄二　統計表牽引……五七七
附錄三　濠洲對共榮圈内及圈外貿易關係……五九一

目次

一、濠洲對共榮圈內及圈外國別輸出入總額表……五九五
二、濠洲對共榮圈外物資交流表……五九五

編輯誌……

125°
130°
135°
140°
155°
10°
15°
20°
海ルーモチ
峡海スレト
島曜木°
ヨーク半島
海瑚珊
南太
珊瑚礁
ドンラムネーア
ドンライアトールグ
灣アリタンペーカ
州ドンラスシイク
方地部北
漠沙ーチンサ大
ーリバンキ
島諸ルセッェウ
島諸イルスレェウ
島トンニーモ
ンウタクーバ
ンウタクック
ンウタダーヤチ
ンデンエュヒ
ンヨウボ
ンヨーラク
ンヨーケ
ンヨーク
ンヨーロ
ンヨーロトーボ
ンヨーロトーポ
ンヨーロンイバ
ンヨーロンイパ
ンヨーロンバ
ンヨーロンバ
ンヨーロンバ



115°
120°
125°
130°
135°
140°
10°
15°
20°
海ルーモチ
ドンラムネーア
ドンライアトールグ
湾アリタンペーカ
ヨーク半島
ーリバンキ
方地部北
漠沙ーチンサ大
州ドンラブシック
峡海スレト
島曜木
岬クーヨ
岬ルィヴルメ
島諸ルセッェウ
岬グーパーコ
島ルィヴルメ
岬ーリデンドンロ
ムダンィウ
スーターォウーリデ
ラールラーボ
島諸イレスレェウ
島ントンニーモ
ンワタクーパ
バンルカ
ントンマーノ
ンドイロク
ントスルーッチ
ラーロ
ンワタクック
スンーケ
ズーワタズーターッチ
ドンモチッリ
ンデンエュヒ
ントンィウ
ルーィウームカ
ザイアトンウマ
ーリカンロク
ギンダンラウ
アリーボ
クーリクスーローバ
ドンラドッヘトーボ
ンーパーロ
ーロスンス
河クステー
ムールブ
ジンレグラ
ービーダー
河イロフィウ
ンィウーダトーボ
ーデンルバ
クーリクンイバ
ーパーロトーボ

州ドンラスシィク
州アリラトスーオ南
州スルーェウスウサーエニ
州アリトクィヴ
州アニマスタ
太平洋
湾大アリラトスーオ
島ーデンサ大
島ーニドシ
島ーベスリブ
島ールガンカ
島グンキ
峡海スバ
島スーダンリフ
島シレーバブーケ
島アニマスタ
湖ドルナドクマ
湖スーェチマア
湖アイエ
湖リゴレグ
湖ムーロフ
湖ナドーガ
トーレンス湖
河ーパーク
河ーバーマ
河ーリバ
スヴンリブススリア
スヴンリブスェウヴンラトス
タッダナドーオ
アリーボ
チーリグンロ
ルーオクッラブ
トンモーラク
ドルラメエ
イヲカッマ
ンボーモトンクマ
ムールタ
ルィヴルッチ
ーピリキ
ルェチッミ
マロ
スルイマ
ラムナンカ
ジョジトンセ
ビルタ
パンウッ
クッリーオウ
ーリモ
ナリアールブ
クーバ
クロイバー
アニンカルィウ
リブラーナ
ンガンニ
ーブロ
ルヒンクーロブ
ーロボータービ
リービーボ
ンソブリ
ンーカンリトーボー
ンボタ
ンリボドンコ
ンソルヒ
ラデンラーナ
ラデンムターク
ラウコ
ンバルーコ
ンゴンロオウ
ラブムケトーボ
ラバンキ
ルヒンクス
カウガウ
ンラブコ
ーゴィデンバ
ルートス
ンルボルメ
ルギラウ
ンロボ
ンルーデスーバ
ンーリルエ
ンーコスアンコ
ラバンボ
ンリバルオ
ラナベ
ンルーブナース
ンーバルア
ンスーダンリフ
ンレーバブーケ
ンスーカーニ
ンーニドシ
ンーベスリブ
ンーモスク
ンナーリバ
ンーフラグ
ンーインルグ
ンーリーコマトーボ
ンーボスク
ンーロボ
ンーロ
ンーバラトス
ンーアニマスタ
ンーパルトス
ンーパルトス
ンーパルトス

州アリラトスーオ西

州アリラトスーオ南

州ドンラスシィク

州スルーェウスウサー

州アリトクィヴ

州アニマスタ

漠沙アリトクィヴ

漠沙ンソブギ

湾大アリラトスーオ

峡海スバ

洋

一千三百万分之一

0 50 100 150 200 250 里

0 200 400 600 800 1000 Km

20° 25° 30° 35°

110° 115° 120° 125° 130° 135° 140°

# 第一篇

# 國情一般

# 第一章　歷史

## 第一節　大陸發見

全智全能の造物主が、思へば酷い氣紛れをしたものだと考へられる事の一つに、北氷洋近くに凍結し切つた圖體を持て餘し氣味に年中雪と氷の重壓に喘ぎ續けて居るグリーン・ランドがある。滿洲國の二倍に近い面積を持ち乍ら若干のエスキモー達と白熊を養ふ能しか持つて居ない。誠に以て勿體無い話だと或る人が嘆いた。然し、これとは反對に南太平洋に豐饒な土地と豐かな資源を包藏する大陸、それも歐洲大陸を持つて來て入れても尙餘りある程の野放圖もない大陸が、今から一五〇年前迄人に知られる事なく、『置き忘れられた大陸』としての存在を持ち續けた。思へば奇妙な對蹠的現象ではないか。

此『置き忘れられた大陸』こそ今や太平洋の孤兒となつて嵐の中に戰いて居る濠洲なのだ。太平洋の『隱し兒』濠洲が如何にして陽の目を見るに至つたか、私生兒がどの樣な道順で庶子となつたか、話は此處かち說き出されなくてはならない。

傳說めいた事を云ふ樣だが希臘に於ては紀元前から南方の海に大陸が有ると云つて居た。アリストテレス（紀元前三八四―三二二）がそれであつて、彼は赤道に南の陸地ありと信じて居た。又、歐洲と亞細亞洲それにリビアとを圍繞





して居る大洋の存在を唱へたテオポムパスは、其大洋の向ふに巨大な陸地が橫はつて居るに違ひないと考へて居た。プトレミーは、この『未知の大陸』Terra Incognita は阿弗利加洲及び印度との陸續きであつて印度洋は一つの內海だと述べた。地球が圓體である事は當時既に云はれて居た。聖オーガスチンは『我々と反對側の地球上を歩いて居る人間の脚は我々の脚の反對の方向に向いて居るし、我々の側で太陽が沈む時、先方では日の出』になるのではないかと云つて之に反對した。

中世紀の闇黑時代に於て信ぜられた處によると、熱帶の海洋は沸騰して居て通り拔ける事が出來ない。從つてその向ふに住んで居る人間には基督贖罪の知らせが永久に傳へられないだらう。然し基督は全人類を救ふ爲めに死んだのであるから假りにも左樣な境遇に置かれた人間の有る可き筈が無いではないかと言ふのである。然し聖アルバート（一一九三―一二八〇）とローヂャー・ベーコン（一二一四―一二四九）とは別の考へを抱いて居た。熱帶が通り拔けられないと云ふ事を否定すると同時に、エバの子孫が立派に地球の反對側にも住んで居るのだと主張した。

こんな具合で南に大陸のある事と其の大陸に人類の住んで居る事とが先哲によつて論證せられたのであるから、殘る仕事は南へ航海して此の大陸を發見する丈けである。

歐洲と南方大陸との最初の接觸は一四八六年バルトロメ・ディーアスによつて行はれた。彼は此の年阿弗利加洲を廻つて印度へ出る航路を發見したのであつて、葡萄牙の水夫を率いて阿弗利加洲の西海岸を南下し現在のケープ・タウンの稍〻南に出た時暴風雨に遇ひ吹き流されて、大陸の南端をくるりと廻り現在のボート・エリザベスの位置邊り迄漂流した。漸く歸途に就くと又候大暴風に遇ひ危く沈沒する處だつたので彼等は『暴風の岬』と名附けた。葡萄

牙王の宮廷で彼ディーアスは報告の席上『數多い私の成功の中に唯一つの誤りを仕出來しまして御座りました。誠あれは暴風の岬で無うて善き希望の岬でがな御座りました』と叫んだのであつた。

第二陣としてヴァスコ・ダ・ガマの指揮する葡萄牙の探檢隊が間も無く派遣された。彼等は希望峰を迂廻し、ナタールを探檢の後カルカッタに向つた。かくて印度の富は葡萄牙の足下に置かれたのであつた。

然しそれは南方の大陸に取つても同樣『善き希望の岬』だつたに違ひなかつた。濠洲の西の門が開かれたからだ。だから、印度と東印度に向ふ船が濠洲の西海岸に達するかも知れないと言ふ事は今や只時間の問題に止ると言ひ得る樣になつた。

一四九三年法皇は世界の未發見の部分を二つに分けて、これを海洋に活躍して居る二つの國、西班牙と葡萄牙に與へた。其境界がアゾーレスの西三七〇リーグ（一リーグは約一里八町）の地點に劃せられ、其線の西は總て西班牙に、東は葡萄牙に所屬する筈になつた。現在の西經四五度三七分が此の境界線だから西班牙はブラジルを除いた阿米利加大陸を領有し太平洋に出る事が出來ることゝなつた。葡萄牙の方は阿弗利加。印度及び東印度に於ける探檢なり貿易なりを自由に爲し得た。此の法皇線に依る分割が正しく實行されてゐたら濠洲は丁度中央で南北に切れ目が入る事になるのであつて、西班牙が比律賓を領有したのは實際には葡萄牙の領域へ喰ひ込んで居るわけだ。

扨て初期に於ける葡萄牙人の航海に就て見るに、彼等が印度及び東印度との貿易を開發したのであるから、彼等の船の內の或るものが濠洲の海岸にぶつかる樣な事が無かつたとは云へぬのではあるまいか。葡萄牙の航海士の資料に依るものだとして、佛蘭西や和蘭の地圖屋によつて作られた奇妙な地圖が見受けられ、其の內の或るものには所謂南





の大陸が妙な形に畫かれては居るが、或部分では濠洲の北方海岸線に酷似して居る。之は巧みな想像によつて畫かれたものかも知れぬが、同時に又實際に行はれた葡萄牙人の探檢の記述に基いたものかも知れぬと思はれる。一五八〇年から一六〇四年迄葡萄牙は獨立を失ひ西班牙の一州となつた爲め自然葡萄牙人の活躍は多くを見ずして終つた。然も西班牙は阿米利加に主力を注ぎ、葡萄牙人の貿易路の如きは顧る事をせず忘れられてあつた。一六四〇年漸く自由を取り戻した葡萄牙は、東洋との通商の再建を企圖したが、到る所で和蘭の爲めに妨害せられた。

それならば西班牙人自體は反對側から濠洲に近付いたであらうか。マガヂァーネスが一五二〇年に太平洋に入り、之を橫斷して比律賓に到達したのであるから、此の時濠洲への東の門は開かれたのであつた。十二年後ピサーロはペルーを侵略し、爾來西班牙船の太平洋橫斷が頻繁に見受けられた。彼等は一人として『南の大陸』の存否に就て疑問を懷き、南へ進路を向けて之を發見しやうとしなかつたのであらうか。否、それに就ては色々な事實が判つて居る。一五六七年メンダーナはペルーから出掛けてソロモン島を發見し、一五九五年には同島に西班牙植民地建設の目的で再度壯途に上つたが、肝腎のソロモン島を見失ひ、其の代りにマルケーサス島を發見したのであつた。士官デ・キーロスはメンダーナの第二回の航海に從つたのであつたが、南の海には廣大な大陸が發見を待つてゐるとの確信を懷くに至つた。メンダーナの死後彼は西班牙に歸り、發見せらるべき大陸によつて如何に大なる富が王國に齎されるかを強調し、フィリップ王に對し探檢の爲めの船艦を請願したのであつた。彼の熱心に動かされた王は遂にペルーの總督に命じて、デ・キーロスの爲めに必要な船舶と乘組員を整へさせたのであつた。一六〇五年ルイス・デ・トーレスを副長とするキーロスの部隊はペルーを船出したが、乘組員の中に一部仕事を面白がつて居ない分子が混つて居た。數

ヶ月の航海の後彼等は山の多い魅力ある陸地に到着した。デ・キーロスは之こそ彼等の求め來つた大陸だとて直ちに、ティエーラ・アウストリアーリア・デル・エスピリト・サント Tierra Austrialia del Espiritu Santo 卽ち『聖靈の加護ますオーストリア王家の國』と、云ふ意味の長い名を之に付けた。所がこの Austrialia の文字だが、之は時の西班牙を治めて居たのがハップスブルグ王家、卽ちオーストリア Austria であつたので此を取入れたのであるが、Australia とは南方と云ふ意味の語で『南の大陸』を Terra Australis と呼び來つたのだがら、今待望のこの大陸を發見して之に直に『テラ・アウスラーリス』と呼び掛けたのは至極尤もであるが、この二つの意味を持たせて Austrialia なる新語を作り出した處は仲々に頭が良い。但しそれも束の間で、三日間沖繫りをして居た處暴風に吹き流され、暴動を起した乘組員はデ・キーロスを船室へ監禁した儘メキシコへ歸つてしまつた。

殘されたトーレスは更に探檢を續けた結果先に大陸だと思つたのは單なる島に過ぎず、三日も掛れば一周出來る程度のものであつた事を發見した。只今もニュー・ヘブリデス諸島の中にエスピリト・サントの名で殘つて居るのがこの島である。これにも挫けず彼は更に進路を西に取り稍北寄りに進み乍ら探檢を續けて行つたのであつたが、恵まれないと云へば彼程恵まれない者も無い譯で、彼は目の前に濠洲大陸を見乍ら通り抜けて了つて居るのであつた。それは濠洲の東北端のケープ・ヨークだ。彼はこれに副ふ海峽を通り抜け、トーレス海峽の名を殘して居る。彼は北上して比律賓に至り『南の大陸』は結局神話に過ぎぬと宣言した。

然し乍ら一方、デ・キーロスは南方大陸の存在に就ては尙確信し續け、遂に再度探檢の許可を獲たのだが、今度は彼の生命が云ふ事を聞かなかつた。『アウストリアーリア』大陸が彼の來るのを待ちつつありと固く信じた、此の老





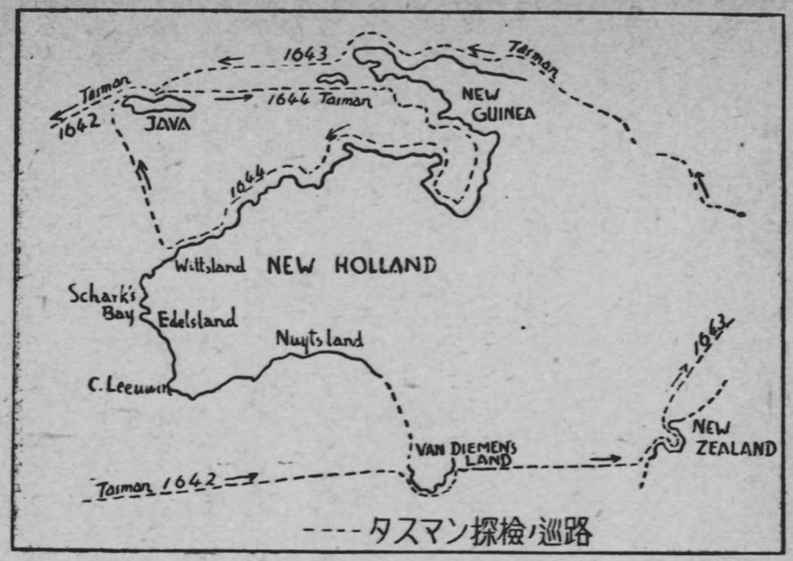
いたる航海士はペルーに着くのを待ち得ずパナマに於て客死した。彼は西班牙の持つ最後の大航海士であつた。一六〇〇年以來西班牙の勢力は凋落し初め爾後再び斯樣な南海探檢の事業は企てられなかつた。

扨て次は、和蘭の登場の番である。彼等は手始めに、東洋に向ふ阿弗利加廻りの航路を葡萄牙の手から奪ひ取つたのであるが、印度には目を呉れずヂャワとスバイス島とに貿易の本據を置き、富裕な東印度の地に帝國の建設を始めたのであつた。他國の介入に對しては何時如何なる場合と雖も寸毫の假借もしなかつた。流石强引の英國東印度商會すらも、遂に旗を卷いて退場、印度迄の後退を餘儀なくされ、『東』なる文字は只特許狀面と株券面丈けに名殘りを止めるに立至つたのである。

和蘭船は喜望峰を迂廻、東北に進路を取りヂャワに赴くのであつた。彼等は間もなく『南方大陸』の存在を知るやうになつた。和蘭船 Duyfken 號は其の名の小鳩と云ふが如く小さな船だつたが、トーレスが一六〇六年トーレス海峽を發見した二、三ヶ月以前にニュー・ギニヤの沿岸を探檢し乍ら遂にカーペンタリア灣に到達したのであつたが、乘組員の內九名の者が狂暴、慘虐な黑人に殺害された爲蒼惶裡に退却した。

ヘンドリック・ブルウワーは後に東印度の總督に迄成つた人物だが、航海術にかけても仲々の手練家であつた。喜望峰を出て北東向ヂャワに直航すると、その中途印度洋の眞中で屢々風に出會ふ事に氣が着いた。そこで眞東に三、〇〇〇哩追風に乘つて進み、其處から眞北に上る方法に替へて見た。果してこれは成功だつた。最短航海日數の記錄を建てた。そこで和蘭東印度商會は所有船の船長に此の新しい航路に由るべき事を命令した。

一六一六年ディルク・ハルトッグは右に述べた三、〇〇〇哩を越えて東進し、西オーストラリヤのシャーク・ベイ




に行き當つた。斯様な怪我の功名式の發見は、規定の航路を踏み外した船長により一再ならず行はれた。現在濠洲の北西岸に殘る和蘭語名の岬とか島とか港のあるのは、難破又は避難した和蘭船の名に因縁を持つものなのである。一六二七年ヌイツは更に南下して遂に濠洲南岸の大灣の一部を發見した。斯る報告は其都度バタヴィアなり、和蘭なりの役人に提出されたのではあつたが、一六四二年に至る迄誰一人組織立つた探檢をやつて見ようとしなかつた。

一六四二年愈々南方大陸調査の遠征隊がヂャワから出帆した。指揮官はアベル・ヤンツ・タスマンと云ふ勇敢且熟練な船乘りで濠洲沿岸探檢の和蘭人中のぴか一で、探檢隊を組織したのは時の東印度總督アンソニー・ヴァン・ディーマンであつた。一番乘氣になつたのは實は總督であつて、彼はタスマンに向つて、土人と仲善くし、貿易の可能性の程度を研究すべきを命じ、金や銀を無暗と漁らず只人民に注意深く且見拔かれない様にして訊ねるのだと教へて居る。『その金屬に對して何も價値なんか認めない風を裝へ』と申し渡して居る。





タスマンは非常に遠廻りの航路を選んだ。二隻の船で彼はバタヴィアを出帆、印度洋の亞弗利加寄りに在るモーリシャス島に先づ向ひ、そこから航路を南東に取り、數週間追風を受けて航行し南緯四九度の點に出て來た。若し彼が其儘に航海を續けて居たら濠州の南方五〇〇哩の點を通過し、濠洲を見逃して了ふところであつたが、彼は溫い潮を求めて北上と決心した。そして方向を變へた途端見張りが『陸地だ！』と喚き立てたのであつた。嶮岨で鬱蒼と樹木の繁つた海岸に船を寄せ、一隊の部下を上陸させた。處が上陸した連中は天を摩して聳えるとても無く大きな樹木に先づ驚した。この調子だと此處に住んで居る人間は物凄く巨大で、力が强いに違ひないと連中は色を失つて船へ逃げ歸つた。夜になつて彼等の恐怖は愈〻募つた——恐ろしい化物が大跨にのそりのそりと海岸を歩いて居る。船に向つては、何か叫び、大きな石を投げ付けるのだ。翌朝大工が許されて岸に泳ぎ着き、和蘭國旗を建てた。だが、タスマンはこんな氣味の惡い場所を避けて南へ移り遂に和蘭國王の名に於て全部を占領し、彼の後援者であり且親友の名を取つてヴァン・ディーマンス・ランドと呼んだ。約二〇〇年間此の名が殘つて居たが一八五三年、眞の發見者の名を紀念してタスマニヤと變へたのであつた。タスマンが最初に上陸したのはフォレスティヤー半島（森の半島）に近い東方の海岸であるが嵐にでもなると忽ち、和蘭水夫達を震へ上らせた例の幻覺の妖怪が出て來る。

タスマンは更に東へと進み九日目に再び陸地を見たが外貌は中々印象が良い。本國の沿岸縣に倣つて『ニュー・ジーランド』と呼ぶ事にした。二隻の和蘭船は海岸傳ひに航行、マオリの爲めに三名の乘組員が殺害されたので進路を北に變へざるを得なかつたが、最後に見た地點に、總督夫人の名を附けて、マリア・ヴァン・ディーメン岬と名付けた。

新西蘭が二つの大島と數多の小島とから成立つて居る事實に對してはタスマンは全然考へ及ばず、南方大陸の北端の一部だと許り信じて居た。新西蘭と其の南方大陸との間には狹い海狹が有る事を確め、之に『アベル・タスマン水路』の名を與へたのであつたが、これは大變な間違ひであつた。だが未だに其の名を殘して『タスマン海』と呼ばれて居る。

彼は太平洋及びニュー・ギニヤの北岸を經てバタヴィアに歸つて了ひ、彼等が當時ニュー・ホーランドと呼んで居た濠洲の東海岸を究明しようとはしなかつた。が、何れにせよ彼は世界地圖に二つの國土を描き添えた事になつたのである。第二回の航海では彼は、ニューギニヤとニュー・ホーランドとが陸續きか否かを見究め樣との試みにまんまと失敗したが彼はトーレスが行つた四〇年前の航海を全然無視して掛つたのだ。彼がバタヴィアに於て死ぬる迄數次の探檢を指揮した。

一六四五年ニュー・ホーランドと新西蘭とは當然和蘭國の領土に加へられるべきであつた樣に考へられる。若しこれが實現して居たなら、和蘭の其後の發展は想像に餘るものがある。それでは何故それが實現しなかつたか。一體これ等數々の探檢は凡て東印度會社の業務擴張を唯一の目的に爲されたのであつたが、新大陸發見は結局費用倒れになる處れが甚だ濃厚である。一六四五年バタヴィアの總督は和蘭東印度會社から、利益にもならぬ未開の荒蕪地の探檢の如きは卽刻中止、全力を東印度の貿易に集注すべしとの痛い文句の手紙を受取つて居る。會社の欲するのは發見ではなくて配當だつたのだ。濠洲大陸の中で最も魅力のある地域卽ち東部と東南部を除いた以外の地を探檢し終つた。誠にきわどい瀨戸際に立つた時に探索を打切つたのであつた。一六四五年以後和蘭に取つて、ニュー・ホーランドはチャワ航路の目印しの役目をなすものとしてのみ役立つて來た。





事實タスマンの航海以後一二五年間と云ふものはニュー・ホーランドの歷史に就ては全くの沈默時代であつた。濠洲に初めて登場した英國人はウィリヤム・ダムピヤーとて農場主で、小說家でオマケに海賊だと云ふ代物である。ディーン・スウィフトは彼の冒險譚に惹かれて之を『ガリヴァー旅行記』のねたに使つて居る。一六八八年彼ダムピヤーがニュー・ホーランドを訪ねたのは實は海賊の資格に於てであつて、西班牙の町及び大平洋上で稼いだ掠奪品を滿載の船を修理の爲めに、ニュー・ホーランド西北岸の靜かな灣內へ逃げ込んだのであつた。ロンドンへ歸り着くと彼は冒險譚を公刊したが、未開發の儘殘されて居ると云ふ南方大陸に關する記述は大いに世人の注意と興味を惹いたのであつた。數年の後ダムピヤーは一隻の船を與へられ、ニュー・ホーランドの調査の使命を受けた。西海岸から西北にかけて約一、〇〇〇哩を航行したが、只單に通つたと云ふ程度で、其報告たるや極めて淺薄で一時逃れのものであつた。彼は丁度大旱魃期に行き合せたものと見えて、彼の見聞を綜合すると、結局この大陸は全くの沙漠である事になり、世間の期待を裏切る事最も甚しかつた。彼は其報告書の一節に『今回の航海に於て私の覺えた只一つの喜びは、この宇宙間に於て最も憐れむべき住民の居る、地上の最も荒廢せる地點を發見したと云ふ事である』と大見榮を切つたものである。

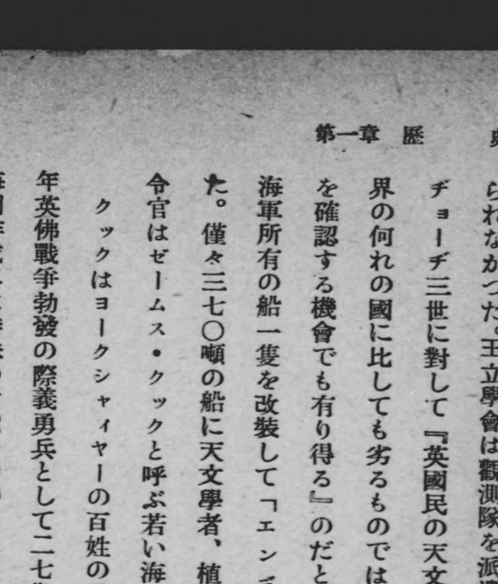
此の事は折角起つた探檢熱を冷却させる結果となり、事實南方大陸調査の企ては何れの國によつても取り上げられる事無く七五年の歲月が經過した。

一七六九年六月三日はハレーの計算によると太陽の面を金星が通過するのであつたが、地球から太陽迄の距離を正確に計算するには最も良い機會なので、その觀測に一番良い條件の場所は太平洋に出てタヒチ島迄出掛けなくては得

られなかつた。王立學會は觀測隊を派遣するに決し船舶の貸し下げ方を請願したが、チョーヂ三世に對して『英國民の天文學の智識は學界に於て賞讃を博して居り、世界の何れの國に比しても劣るものではない。であるから今度の如き機會は此の名聲を確認する機會でも有り得る』のだとの意味の事を述べて居る。王は心大いに動き海軍所有の船一隻を改裝して「エンデヴァー」號と名を改め貸し與へたのであつた。僅々三七〇噸の船に天文學者、植物學者と水夫が乘組み司令官はゼームス・クックと呼ぶ若い海軍士官であつた。

クックはヨークシャイヤーの百姓の子息であるが、一七五五年英佛戰爭勃發の際義勇兵として二七歳で海軍に身を投じた。海圖作成には特殊の才能を持つて居り、拔擢されて今回の探檢隊の司令官になつたのであつた。

扨て一行は一七六八年八月二六日出帆、マデイラ島を經てリオ・デ・ヂャネーロに行き其處で海賊に間違はれて居る。何しろ當時英國人と云へば兎角海賊だつたものらしい。クリスマスの日には南米大陸の南端ホーン岬に達し、目的のタヒチ島に着いたのが一七六九年四月一三日。實驗は完全に成功した。そこでクックは本航海の目的の第二段即ち南極を中心とせる大陸の周緣の調査を熱心に續けた。タヒチの眞南二、〇〇〇哩の點から西に進路を變へ航行更に二、〇〇〇哩の後新西蘭の海岸に到達した。此處に六ケ月滯在して海圖の作成探檢測量に從事し、優秀なる地圖を完成した。タスマンが新西蘭を目して南極大陸の突角であるとした主張を覆した。



キャプテン・クックの新西蘭及び濠洲東岸探檢順路

キャプテン・クックの新西蘭及び濠洲東岸探檢順路





一七七〇年三月彼はニュー・ホーランドの沿岸の內未だ知られて居ない東海岸の探檢を決心した。新西蘭を出帆後二〇日目卽ち一七七〇年四月二〇日黎明に、現在のヴィクトリヤ州の東海岸を望む位置に達した。初めて之を望見した當直士官の名に因んでポイント・ヒックスと呼んだ。此の地點は大陸の東南隅に當り、海岸線が急に銳く北に曲つて居る箇所である。彼はヴァン・ディーメンス・ランドと大陸との間に介在する海峽を見殘して北上した爲め、ヴァンディーメンス・ランドは本土の一部なりや否やとの古くからの問題の解決に更に其後二〇年の日子を要する結果になつたのであつた。それは兎も角、四月三〇日素晴らしい灣に到達し、直ちに上陸、エンデヴァー號の打ち出す禮砲と共に英國旗を建てたのであつた。この上陸の際二人の土人が『わら・わら』（Warra Warra—あつちへ行けの意味）と叫び立てゝ反抗の示威をしたが、鐵砲を一發ぶつ放したら、何處かへ飛んで逃げて了つた。これがボタニー灣である。ボタニー（植物の意味）と何故名附けたかに就ては、同行の植物學者であるバンクスが上陸して、新種の花草、珍奇の草木を發見したが爲めであつたと一般に云はれて居るが、これは其後九年經つて植民地の候補地としてバンクスが政府に建議した際彼の思ひ付きで此の名を附したのではないかと云ふ者もある。クックは其報告書の中に『斯の如く美しき草原は未だ嘗て之を見ず』と述べては居るが其後何人も之を見た者はない。水夫共はこれをスティングレー・ハーバー（あかえひ灣）と呼んだ。永い航海の後美味い魚のあかえひを見付けたので、此切實な名を付けたものと思はれる。然しバンクスが航海中の記錄ではボタニー灣に有利な記述は一つも無く寧ろ不利な說の方が多いに拘らず、數年後に及んで逆な說を述ぶるに至つた心境の變化は面白い問題だ。事實彼が新西蘭を調査しての結論はクックと同じく、新西蘭こそ植民に好もしい地だとしたのであつた。

五月七日クックはボタニーを解纜北上したが、同日の正午最も安全な錨地と思はれる灣の中に入り込んだ。時の海軍大臣の名に因緣を求めて、ポート・ヂャクソンと名を附けた。

更に北上五月一七日モートン・ベーと命名した灣に到着した。現在のブリスベン市を通る川の流入して居る灣である。彼は海岸傳ひに北進したが六月一一日、突然大堡礁（東海岸沖に海岸線と並行し一、二五〇哩の長さに帶の如く連る珊瑚礁）の彎曲部の中へ艮に掛つた様な具合になつた。危險を感じて突嗟に避け様としたが、船は珊瑚礁に接觸、下から串差しになり、其儘ものの二十四時間も坐り込んで居たら（この海岸では何時も二度目の滿潮に當る時刻に初めて滿潮になる）自然に浮き上り皆を驚かせた。六月二二日漸く濱へ引き揚げるのに成功した。檢べると船底包板が引き破られて大穴が明いて居る。ボムプが倍有つても、とても追ひ付かず沈沒して居た筈だが珊瑚の塊が巧く其穴を塞いだ様な事になつて居た。現在クックタウン町の在る、クィンスランド州のずつと北寄りの地點で、エンデヴァー號は出來る丈けの修理を施され、船の陸へ引き揚げられて居る間隊員の自然科學者は、土地の狀況、植物や動物の調査研究に寧日無かつた。バンクスは此處で珍獸カンガルーを見たと云つて居る。

クックの冷靜な書き振りの記錄にすらも夢魔の如く、と書いて居る所を見ると、この大堡礁を縫ふての航海には流石の彼も餘つ程苦しんだものと見える。物凄い難儀をして、錯綜した島と淺瀨とを拔けて、やつと『大きな穴のある海』に出る、すると必ず珊瑚岩の城壁に向つて、潮流に押し返されるのだつた。

數萬の珊瑚礁の小島の間をどんな風に拔けて行つたか知る由も無いが、兎に角十五日間でクックタウンから濠洲の最北端の岬（彼は之をヨーク・ケープと命名したが）、に辿り着いて居る。斯くして彼はこの海岸一帶の地にニュー・





サウス・ウェール、なる名を附した。

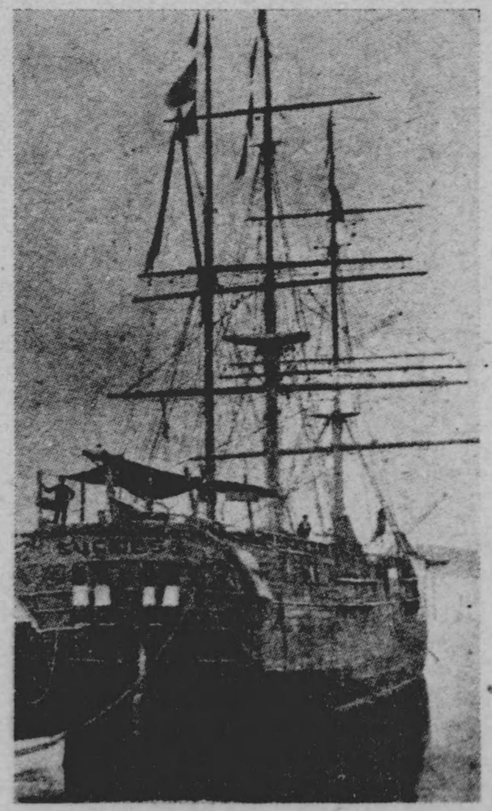
エンデヴァー號は緩々とニュー・ギニヤ、チモール、バダヴィア、喜望峰を經て一七七一年七月一三日英國に歸り着いた。クックの意見によれば『此の大陸はそれ自體今殆んど人間の食ふ様なものは産出しないが、植民には適する。土人は農業に關しては全く無智ではあるが、勤勉なる人手により播種し栽培するならば穀物と云ひ、果實と云ひ、一として育たざるは無く、此の地には四季を通じて秣があり、他の國から如何に數多く家畜が搬入さるるも不足を來すが如き事は無い』のである。冷靜なクックが此處迄に云ふのは粗暴に近い熱狂振りであつて、結局熱の無かつたバンクスを遂に動かし自分の熱意の中へ引き込んだものと見られる。事實バンクスは終始この新大陸には好意を見せて居ない。彼が濠洲に就て最も良く云つたのが『ニュー・ホーランドは個々に就て云へば私の今迄見た内で最も荒廢した國ではあるが、全體として見れば左程悪くは無い。難波船の乘組員達は、私が見た丈けの資源によつてでも、陸と海の産物で生命は繋げるであらう。今少し長く滯在し、更に違つた方面に出掛け得たなら更に多くの物を發見したであらう』と云ふのが精々であつた。

佛蘭西が探檢隊を派遣するらしいとの風評に驚いた英國海軍省は大いに驚き、クックを再度南方に派遣する事に決めた。一七七二年六月出發したが濠洲には赴かず、南極探檢の歴史の第一頁を書く様な結果になつた。希望峰から極地近くに赴き氷山の危險と闘ひつつ新西蘭（クックの部下が切り倒した木の株が未だに其處に殘て居ると云はれるが）に其處からタヒチに赴いた。更に新西蘭に引き返し再度南極を訪ね、一七七五年歸國した。

一七七六年クックは第三回目の探檢に出帆したが恐らくは彼の念願であつた如く、太平洋の海岸で死んだ。

## 第二節　植民時代

濠洲の植民は囚人によつて創められたのである。從來英國は流刑地として北亞米利加を使用して居たのであつたが獨立の結果其の途が塞かれた。國內の監獄と云ふ監獄、監獄船と云ふ監獄船には囚人が溢れ、囚人達は世にも悲慘な狀態に放置され、由々敷い社會問題を起すに至つたのである。政府は遂にバンクス卿（クック探檢隊員で植物學者）の案を容れニュー・ホーランドを新しい流刑地に選定した。事實本國を隔る一三、〇〇〇哩の暗黑大陸は流謫の地としては正に理想的であつた。只此の動機は人間社會の屑の處理方法として計畫されたのであつて、別に帝國の一翼たらしむる爲めと云ふ目的は直接なものでなかつた事は事實である。其證據には第一回の入植者達が英本國から忘れられて難澁したと云ふ事實からでも判る事だ。



入に港トーバホ號セスクサ船獄監港す

扨て第一回の流刑隊が編成され、フィリップが總指揮官に任命された。フィリップと云ふのは一七三八年百姓の伜





として生れ、一七五五年候補生として海軍に入り、一七六三年には退官して百姓になつて居る。葡西戰爭の時葡萄牙艦隊に乘組んで從軍したが、一七七八年の英佛戰爭勃發と共に英海軍に復歸、戰爭が終ると共に又田舍に引つ込んで百姓をして居た。社會的地位は持つて居ないし、金も無い。そんな男が一七八六年ニュー・サウス・ウェールス總督兼司令官に任命されたのだから、凡そどの位に此の新植民地を考へて居たか容易に想像が着くであらう。尤も囚人の隊長なんて職務は一向に有難くないとて社會的に相當な地位に在る人物が就任を肯ぜなかつたとしても、一介無名の退役軍人を引張つて來たのは如何にも不可解だと、今に及んでも尙不審がつて居る向もあるが。

斯樣な穿鑿は兎も角、新任總督は準備に奔走したに拘らず仲々思ふ樣には行かなかつたが、兎にも角にも一七八七年五月一三日スピットヘッドを出帆と迄に取運んだのであつた。扨て其陣容如何にと見れば、誠に威風堂々と云ひたいが、舳艫相啣んだのは一一隻のぼろ船斗りで、其噸數總計四、〇〇〇噸に滿たない。旗艦シリヤス號及サップライ號の他に六隻の輸送船と三隻の補給船から成り、旗艦の噸數は六一二噸、シリヤス號は一七〇噸であつた。扨てこれに詰め込んだ人間は男囚五五八、女囚一九二、外に未成年囚一三、計七六三、これに船員二一二名とその妻二八名を加へ總勢一、〇〇三名であつた。囚人達は既にそれ迄に數ヶ月間暗い不潔な監獄船の中に監禁せられて居たのである。航海中の給與は惡かつたに拘らず、一三、〇〇〇哩、九ヶ月の大航海を極めて小數の犧牲者（流刑人二四、水夫一死亡）を出した丈けで押し切つたのは彼の人德、手腕もさる事乍ら、如何に囚人を人間的に取扱つたかを物語るものである。政府に於ても囚人の二割から三割は輸送の途中死ぬるものと見積られて居た。事實其後の輸送に於ては毎回夥しい犧牲者を出して居る。

斯くてアーサー・フィリップの一隊は一七八八年一月二十日目的地點ボタニー・ベーに到着した。然るに聞くと見るとは大違ひで美しい花の咲き亂れて居ると宣傳された——バンクスの嘘吐き奴——とは案に相違して沼澤地で明け放しの地勢は臨時の幕營にも適しない事を發見した。適當な入江は無いかと一隻の船に乘り數哩北進し、クックが氣が着きはしたが調査迄立入らなかつた入江を探索に出掛けた。狹い入口の兩側には斷涯があり、通り抜けると忽ち眼前に世界に於ける最も美しい港が展開したのだ、彼はヂャクソン灣と命名し、千隻の優秀船と雖も最も安全に入港出來ると喜んだ。海の深く、從つて樹木の生ひ繁つた濱に近く碇泊出來るし、小さな灣はひとでの手の如くに四方八方に入り込んで居る。船隊は直に錨地を移動し、國旗は掲げられ、森の中には斧の音が響き此處に新しい國家が胎動を始めたのだつた。此の小邑をシドニーと呼んだが、上陸地點は現在のシドニー植物園の位置に在る。時に一七八八年一月二六日である。日本に於ては天明八年家齊公が十一代將軍に就任の翌年

## 流刑地設定問題

（流刑地を如何に求むべきか）

英國は過去數十年間長期刑の囚徒をアメリカ大陸に送り出して來たのだが、これが獨立した爲め持つて行き場が無くなつた。一七八二—一七八八の七ケ年間に罪人の數が倍加し、監獄は超滿員となり監獄熱病が發生するに及んで問題は喧しくなつた。產業革命の爲めに職を失つた者達、土地を剝奪された窮民達が皆都會に集つて來た事が犯罪者の數を增す有力な原因となつたのであるが處刑者二十人中十八人迄は二十一歲未滿の少年少女だつたと云はれて居る。兎に角適當な流刑地を見付け出さねばならぬ。政府は西亞弗利加のガムビア（Gambia）を候補地に擧げたのであつたが、バークが議會で指摘した處によると、疫病・鼠疫と飢饉との巢であつて、晝と云はず夜と云はず地獄への門が開け放たれて法の犧牲者を待ち設けて居るのだと云ふ。これでは考へざるを得ない。囚人共が地獄の門とやらを通り抜け樣が、通り抜けまいが、どう成らうとも一向政府の意に介する處ではないのであるが、囚人を護送する役人なり看守共が果して左樣な地へ行く事を肯んずるか何うかが甚だ問題である。それならば看守達は陸に上らずに船に殘つて沖合に居る事にしたら良いではないかと言ふ者もあつたが、そんな勤務では一年間に乘組員十人中九人迄は死んで了ふであらうと當局の言で、此ガムビア案は思ひ切らなくてはならなかつた。





である。十日後、二月七日植民地開設宣言が正式に行はれた。

濠洲建國の第一頁は斯樣な悲慘な物語りに始るのである。シドニー灣に上陸した先驅者達は領土征服の熱意に燃えた遠征隊でもなく、信仰によつて團結した人達でもない、只法の犧牲者との烙印を受け、故國を追はれた人達の群だつたのである。

然らば、これ等流形囚はどんな種類の者であつたか。何れも殺人、强盜等の狂暴なの許りかと一應は思へるが、決して左樣では無く、全體の八割迄は只今なら精々輕い罰金か拘留で濟む程度のものであつたと云はれて居る。大體一八〇〇年代の英國の刑法は最も野蠻で、死刑又は流罪（勿論ニュー・ホーランドへ）に該當する犯罪が二〇〇種も定められて居た。家宅侵入で捕つた勞働者、腹が減つて店頭からパンを一片盜んだ者、主人の寶石を盜んだ女中、掏摸になつた若者等は何れもニュー・ホーランドへ遠島七年乃至一五年の刑を受けて居る。一七九八年から一八〇五年の愛蘭叛亂の時の如きは多數の監獄船は政治犯人で滿員になる。或者の如きは餘程周章て、送附せれたと見え、シドニー當局に名はおろか刑期さえも判らぬのが居たと云ふ。

ヴァン・ディーメンス・ランドに於ける典獄の記錄によると次の樣なのがある。

三八五號囚。ウィリヤム、一八歲、洋服屋の息子。終身流刑、判決申渡し一八二七年五月三一日。罪狀、半巾を窃盜す。初犯。

八四二號囚。ジョン、二一歲、大工、終身流刑、判決申渡し一八二七年二月一五日、罪狀。無斷にてスケートをな

したり、初犯。チープサイド區ブレッド街、某氏の邪邸に於てスケートを爲したり。

三八四號囚。ヂェームス、二三歳、勞働者、終身流刑、判決申渡し、一八二七年四月九日、大麥一ブッシェル窃盗。

五四號女囚。マーガレット、二〇歳、流刑七年、罪狀、牛酪窃盗。

以上は極端な例を述べたのであつて、誰も彼もが斯様な譯では無いが、犯罪人と云ふよりは寧ろ運の悪い人間と呼んだ方が適當と思はれる人達の數が非常に多かつた事は事實であつた。

ニュー・サウス・ウェールスへの航海は最低六ヶ月掛つた。船中の悲慘な狀態はホーキンの奴隷船に優るとも劣らぬと云はれて居る。請負者に囚人の輸送を一人當り二五磅で請負はせる事にしたが、これは大變な結果になつた。船と云ふ船はぎつしり詰め込まれ、死亡率は恐ろしく高く、一七九〇年のネプチューン號では五〇〇名の内一六〇名の死亡者を出したが決して之は例外的事件といふ譯ではなかつた。政府は遂に各請負者の船

## 地名シドニーの起源

新和蘭 New Holland 即ち濠洲を英國の植民地にすべしと政府當局に建白したのはヂェームス・マリオ・マトラと云ふ若い男だつ　。彼は士官候補生として乘組み、キャプテン・クックの探檢旅行に參加したのであつたが、一七八三年『ニュー・サウス・ウェールス新植民地建設案』を提出した。失はれた亞米利加大陸に代るべきものなる事を熱心に主張した。亞米利加に殘つた勤王黨の連中は今頻りに行き場を探して居るが、彼等に加へるに英本國からの移住者を以て此新植民地の建設を爲さうと云ふのである。彼は更に支那及び日本との貿易の發展を豫想し、且つ東洋に於ける海軍基地の必要を豫見して居る。

何處でも同じと見えて、此の創意に滿ちた建白書は役人によつて丁寧に附箋され書類綴りに入れ込まれた丈けだつた。偶〻ヂョセフ・バンクス卿が濠洲に罪人を送る事に思ひ付き、マトラの建白書が取り出された。マトラの意見はそつくり無斷で用ひられ、一七八六年の當時の植民相ロード・シドニーによつて實行に移さ





に監督官を乘組ませ、無事に着いた囚人の數によつて奬勵金を支給する方法を採用して見たが思はしくなく、又候政府の手で海軍士官の指揮により輸送する方法を復活した。

一八〇三年ヴァン・ディーメンス・ランド（即ち後のタスマニヤ島）に監獄を構築した。此處には未成年者用の監獄があつて數百名の子供が七年から一四年の刑期に服して居た。刑期滿了者又は模範囚は解放されるのであるが、彼等は入植者に割宛てられ、農場勞働者又は僕婢として勞働を許されたが、勞銀は煙草又は食料の定量增加の形式で支拂はれた。

以上の記述によると濠洲の入植者は役人に非ざれば囚人許りの樣に思ふかも知れないが、決して左樣ではない。一七九三年以後自由移民の流れは本國からこの新大陸に渡來し、農業は起り牧畜は始められた。自由移民の數が增加するに從ひ囚人送附の停止を要望する聲が次第に高くなつた。英吉利自體に於ても刑罰の非人道性に漸く氣附いた。一八四〇年以後流刑人は本土を避けてヴァン・ディーメンス・ランドにのみ送る事にした。が結局一八五三年で停止した。

然るに西オーストラリヤには未だ一度も流刑囚を送つて居ない。極度の勞働力欠乏を救ふ爲めに十年間に五、〇〇〇人の囚徒を移したが、結局世論の硬化に遇ひ一八六七年の最終船を以て打切りとした。斯くして約八十年間に英本國が濠洲に移した流刑囚の總計は一六〇、〇〇〇人で、男四十二人に對し女囚一人の割合になつて居る。一八六七年卽ち最後の流刑囚到着の年に於ける濠洲の總人口は一、五〇〇、〇〇〇人であつた。之で見ると久しい以前から自由移民が人口增加の重大要素になつて居た事が判る。斯る際何を好んで囚人を入れる必要があるかと云ふのが新大陸側の

れた。此の因緣でニュー・サウス・ウェールスに最初に建設された町をシドニーと呼んだのであらうが、街の一つか二つの一つにでもマトラの名が殘つて居相なものなのに、一向それが無いのは如何にも殘念な話だ。

言ひ分だと思はれる。

## 第三節　內地探檢

一七八八年シドニー灣に第一回の入植以來、人々は奥地は一體どんな事になつて居るのか、內海なのか、地下に寶が隱れて居るのか、或は又豐かな牧草地帶なのだらうかと不審に思ひ初めた。冒險家はシドニーから西へ出掛けて見たが間もなく山脈で通れないと云ふ事が判つた。囚人達も此の問題に付ては漠然と何か考へて居たらしい。甘く脫獄さへ出來ればヂャワなり支那なりへ歩いて行けると信じて居た者が居た。何人か試みたらしく山の中で骨になつて發見された者があつた。冒險談の主なものを左に摘記して見よう。

### バス及びフリンダースの冒險

第一回入植の八年後軍艦リライアンスがヂャクソン灣へ到着した。其乘組員に兵曹のジョーヂ・バス、三十二歲と候補生のマシュウ・フリンダース、二十一歲とが居た。バスはトム・サム號と云ふ長さ八呎の小舟を軍艦に持ち込んで居たが、彼は之で以て未開地の探檢をやる心

タスマニヤ島ホバート市外ポート・アーサーに今尙殘る監獄の內部、右手前の鐘は如何に多くの囚人に戰きを與へた事であらうか。



算だつたのだ。休日には彼等二人はシドニーの附近の海岸線を調査して遂にボタニー灣の海圖を見事に作り上げた。總督は非常に喜び一隻の捕鯨船に乘組員六名及び充分な食糧とを與へて更に探檢を進める事を期待した。フリンダースは折惡しく軍艦リライアンスに乘りノーフォーク島に行かねばならぬ事になつたので、バス單獨で乘出し南下、甞てクックが新西蘭出帆後初めて望見した、ポイント・ヒックに到達した。更に九〇哩（ナインティー・マイルス・ビーチ）濱傳ひに南に進む中に數個の岬と入江を發見し奥深い一つの港に入つて行つた。ウェスターン・ボート（西の港）と名を付けたが、彼は西南方から絕えず大きなうねりがやつて來るのに氣が着いた。これは興味ある發見であつて、從來考へられて居た如く、ヴァン・ディーメンス・ランドが陸續きであるならば斯樣な現像は起り得ないのだ。此處から引返してシドニーに歸つた彼は此の新說をフリンダースに話したのであつた。彼等は直ちに此の問題を解決すべく總督に小さな船を要請した。單檣帆船一隻が直ちに與へられた。彼等は直ちにヴァン・ディーメンス・ランドを一週し正確なる海岸線の地圖を作り上げ一氣に問題を解決したのであつた。タスマニヤと本土との間の海峽は今に之をバス海峽と呼んで居る。

バスはこの探檢を最後として舞臺を降りた。彼は勸められる儘に或貿易船に乘り組んだが、それは南米邊りへ密貿易に出掛けるものであつたらしく、彼亦遂に捕へられて銀山勞働にでも追ひ遣られたものか、消息を絕つたのであつた。色々探索の手は盡されたが今尙彼の失綜は謎として殘されて居る。

一方フリンダースは英國に歸り海圖及び探檢譚を發行したが非常に世の注意を喚起し、遂に英國政府は彼に一隻の船を與へ、濠洲の全海岸の調査に派遣した。喜望峰を迂廻したインヴェスティゲーター號は大陸西南隅のリーウィン岬から東に進路を取つた。測量し、地圖を作り、命名し乍らシドニーに辿り着いた。彼は更に北に進み北方海岸を調

査し、作圖し乍らリーウィン岬に還り、再度シドニー迄進み、遂にこの大陸は疑ひも無く大きな島である事を立證したのだつた。彼の使用した船は、出發の時でさえも相當な代物だつたから、此の長い航海を終ると恐らく最早使用に堪へない程度に破損して居たに違ひない。

彼は更に此の國を呼ぶに、ニュー・ホーランドの名もニュー・サウス・ウェールスも適當ではない。須らくAustralia とすべきであると提唱した。尤も之に對しては英本國に於て相當の反對があつて、矢張り古くからあるTerra Australis が良いのだらうと云ふのであつたが、漸次フリンダースの提唱した新しい名が新聞等に使用され遂に世界的に受け入れられるに至つた。

## 濠洲内地探檢

**一八〇〇年**　植民地設立後二七年にして始めて、ブリウマウンテンの彼方に沃野を發見せらる

**一八一五年**　入植後二七年にして始めて、ブリウマウンテンの彼方に沃野を發見

**一八三〇年**　キャプテン・スタート二大河の合流點を發見すヒューム・ホーヴェル兩氏陸路ポート・フィリップに往復す

**一八四〇年**　ミッチェル南方を開く、エイヤー大陸の中心部に突入せんとし中途より南岸沿ひに西進す

**一八五〇年**　ライヒハルト中央北岸部に達すケネディー・トレス海峽に達すスタート大陸の中心部に達せんとし其の祕密を發見す

**一八六五年**　マックドウァル・スチュアート南部より北部に直行し中心部の祕密を發見すバーク・ウィルス東岸地帶を探檢す

**一八七五年**　中部に僅かの未探檢の部分を殘すのみとなれり其後一九〇五年迄に全部探檢されたり





一八〇三年フリンダースは彼の貴重な海圖を携へて英國向け出帆したが途中珊瑚礁に坐礁した。彼は持前の強引さで直に生存者の爲めに臨時基地を設けると同時に小さな短艇を裝備して同僚二名と共にシドニーに引き返し、直ちに救援隊を組織した。二九噸のスクーナー、カムバーランド號で再度英國向出發したが、迚も大洋を渡れる代物ではなく、阿弗利加海岸のモーリシャス島に乘り入れざるを得なかつた。當時英佛兩國間には戰端が開かれて居たが、フリンダースは佛國政府發行の特別旅券を所持して居た。然るにモーリシャスの總督は彼等一行に疑ひを持ち訊問追及辛辣を極めた。憤慨した一行との間に口論となり遂に彼は監獄に於て六ケ年間の服役を餘儀なくせられた。

思はぬ道草を喰つた彼は一八一〇年釋放せられて英國に歸つた。次の四ケ年は濠洲旅行の原稿の整理に專念した。一八一四年、美事に作成された海圖を收錄して發刊されたのであつたが、病に斃れた彼は、彼の手許に先發本が屆いた時は既に意識不明に陷つて居り、其翌日死去した。漸く四十歲になつた許りであつた。

奥地の探檢は華々しくはない。獨逸の軍人でルドウィヒ・ライヒハルトは若い逃亡兵であつたのだが、植物學に專念し、濠洲の新植物發見に興味を持つて居た。勿論彼は訓練された探檢者と云ふ譯ではなく、藪森に就てはずぶの素人に過ぎなかつたので彼が成功したのは全くの幸運と彼の意志の力とによるものであつた。一八四四年シドニーを出發密林を過ぎ、豐饒な草原地帶を横斷し、五つの大河を渡涉し大陸中央部北端の海岸迄到着した。海岸へ到着すると、其處には一隻のスクーナー船が待構へて居て、シドニーへ連れ歸つた。彼は二、五〇〇磅の賞金を贈與された。人々は熱狂して奥地植民可能の報を受け取つ

此の成功に力を得た彼は大陸を東西即ちブリスベンからバースへ横斷と云ふ野心的企てを建てた。一八四八年數人の同僚と共に出發し、數百哩の奥地から有望な報告をアリスベン宛に遣したが、それ以後ふつつりと消息を絶つた。數年後Lの頭文字を刻んだ三本の樹を發見したが、恐らく彼の辿つた道筋だつたものと想像される。失綜の時僅かに三十五歳であつた。

ライヒハルトの第一回探檢の數年前エドワード・ヂョーン・エイヤが大陸の中心部を探檢しようとの華々しい試みが爲された。一八四〇年若冠二十五歳の彼は南オーストラリヤ探檢隊を組織した。費用の大部分は彼が自腹を切つたが、主な目的は奥地に牧場適地を發見するにあつた。五人の白人は三人の土人と一群の馬と羊を携へアデレードより北に向つて進んだ。然しものの三〇哩も旅を續けて行つた彼等一行は、砂礫の沙漠と大鹹湖から成る、なんとも手の附けられぬ地帶に入り込んだ。此等湖水の水は鹽の層でギヲギラ輝いて居た。彼等は强行突破、トレンス湖、エイヤ湖等と名を附け乍ら、更に二〇〇哩進んだ。甚だしい渴の爲めに一行は全滅するかに見えた時、突然緩かに彎曲を描いて流れて居る河を見附けた。彼等は脫兎の如くに駈け降りたが矢張りこれも死海の如くに鹽分を含んで居る。エイヤは遂に退却せざるを得なかつた。最後の望みに若しや良い土地が見えはせぬかと彼は岡に登つたが、見ゆるは只凄寂な砂原と鹽のみであつた。彼は此の岡を『絶望の山』と呼んで、アデレートへと引き返した。然し彼は何とかして成就せねばとて、其儘の引揚を肯んぜず、突然西に向つた。彼はバックスターなる白人、從僕の土人ウィリー及び土人二名とを伴つた。彼等は海岸線に近く沿ひ乍ら進み、萬事は極めて順調であつたが、食糧が欠乏するに及んで破局が到來した。時に彼等は水無しで一二〇哩以上の强行軍は屢々であつた。遂にエイヤが馬の世話をして居た留守の事





二人の土人はバックスターを射殺し、殘りの食糧を攫つて逃亡してしまつた。然しエイヤとウィリーは强引に進んだ。愈々斃れるの外無なしと見えた時灣内でフランスの捕鯨船に出遭つた。船中で親切な看護を受けて健康と力とを取り返した彼等は充分な食糧を與へられて旅行を續けた。西オーストラリヤのアルバニー市の郊外にエイヤと土人の從僕が現れた時市民の熱狂は凄じかつた。ウィリーの獻身的行爲は今に小學校の教科書に迄殘つて居る。殘念な事には彼等の通過した地域は荒蕪地帶であつた爲、此の探檢は實際には効果が無かつたが、彼は後新西蘭の副總督、次いでチャマイカの總督となり一九〇一年八十五歳で英國に於て沒した。

濠洲の探檢家の内で最も膽玉の太いのにチャールス・スタート大尉がある。彼は印度在住の判事の息子として生れ半島戰爭に從軍した經歷を持つて居るが、ダーリング總督の副官として赴任した。着任と同時に彼の目を惹いたのは、奥地の川が全部大陸の中心へ向つて流れて居る事で、恐らくは大きな内海に注いで居るのではあるまいかと云ふのであつた。此の川に沿つて行かうとの企ては忽ち沼澤地帶によつて阻まれた。二ヶ年旱魃の有つた後、恐らくは沼澤は千上つて居ると思はれる一八二八年に出發した。不幸にも川迄が殆んど千上つてしまつて居て折角の携帶艀舟が役に立たない。探檢隊は枯蘆と乾燥した粘土の中を數哩も强引に衝き進み、遂に魅力ある地域に到達した。彼等は西南に流れる美しい五つの川を發見した。總督に因んでダーリング河と名附けて、結局内海は發見せずにシドニーへ歸つた。

同年彼は更に南の地點から出發した。マラムビヂー河で、囚人を乘組員とする船に乘つて流れを降つたのであつたが、ものの百哩も行くと突然廣い河の悠々たる水面に流れ出た。彼は之をマレー河と呼び更に二〇〇哩を下つたと思

はれる地點で更に他の大きな河が北から流れて合流して居るのを發見した。一年前に彼がもつと川上で發見したダーリング河が之だらうと考へた。彼は方向を變へて此の新しい河を遡り調査しようとしたが間もなく、魚を漁る爲めに土人が河中に設けた柵に遮ぎられた。彼等は好奇心を以て之を調べたが、壞すよりはとて引返した。この人間味のある振舞ひは覿面な驚くべき結果で酬ひられた。隱れ場所から之を眺めた數百の土人は忽ち近寄つて滿足の叫びを擧げて探檢隊員を歡迎した。スタートの一行は川堤に幕舍を張り、土人と交歡したのであつたが、土人達は誰一人として敵意を示す者は無かつた。

マレー河を更に下るに從ひ川幅は益々廣く、愈々水深を增し、遂に大きな入江と思しきものに灌いで居るのであつた。然し乍ら、詳しく調べるとこれは全くの湖であつて、太洋への口は砂で完全に閉塞されて居る。其後之を破壞する樣幾度か試みたが、一度壞しても砂の堰が直ぐ出來上る。この爲め海への出口が無いので折角の大河であり乍ら舟運に適せぬのだ。扨てスタートの一行は又候ボートに乘つて二千哩を溯江して出發點に歸つた。此の時假りにも指導者がへたばる樣な事があつたら、此の一行は迚も歸り着けなかつたであらう。幾度となく彼等はボートの中に倒れ死ぬるかに見えたが、スタートは彼等を賺したり宥めたりして漸くシドニーに近い部落迄連れ歸つたのであつた。扨て此の二つの探檢は最も重要で而も成果を擧げた、卽ち第一に奥地の河は中央に在ると信ぜられて居る海へではなく、南へ向つて流れて居る事と、第二にマレー・ダーリング流域は何十萬エーカーと云ふ豐饒な牧草地帶を抱いて居る事が發見されたからである。此の流域は佛國と西班牙を併せたものに匹敵する面積を持ち濠洲に於ける最も肥沃な地域なのである。





スタートの健康は此の難澁を極めた旅行の爲め著しく損はれ遂に一眼を失ひ、數ヶ月間は彼は大旅行の記錄を摘記する事すら出來なかつた。そこで彼は南オーストラリヤに居を定めたが、一八四〇年にはアデレードの登記監督になつた。然し彼の胸中には尙探檢に對する情熱が炎へて居た。彼は濠洲大陸の中心に至る途を發見すべく、更に探檢を劃策した。アデレードの若い一人の娘は、彼が最終目的地點に達した時打ち建てて呉れよと絹の國旗を作つたりした。彼はエイヤの遭遇した困難を詳しく研究し、寧ろダーリング河に沿ひ西北に到達する路を選ぶに決した。尙又彼は無數の鳥類が濠洲の中心に向つて飛ぶのは、必ずや良質な草原地帶がこれを呼び寄せるに相違ないと觀察した。彼は冬の間に遮二無二進み、赤土と石との荒蕪地帶を通り拔けた。然し彼は其處迄來てはたと行き詰つた。

夏が來、川と云ふ川は干上り、彼が知つて居る乏しい水源から一步も離れる事が出來なかつた。其夏は特別に烈しかつた。暑熱は一三〇度に昇り、探檢隊員の爪は割れて拔け落ち、インクは端から乾いて文字を書く事が出來ない。彼等は穴を掘り其の中で雨期の到來する迄閉ぢ籠つて居た。スタートは北進したがこれ以上進めば死ぬより外無いと云ふので引返す事にした。其の地點は濠洲の中心を距る一五〇哩であつた。愈々引返すと決心した時一群の鸚鵡が、恰も良い土地がもう少し遠方に在るのだと嘲笑するかの如く、鋭く叫んで北に飛んだと、記錄は云ふのである。彼等は蹌踉として我が足跡を辿り乍ら歸路に就いた。スタートはアデレードに送られたが、力は全く喪失し、視力は全く失はれた。斯くて彼の探檢生活は玆に全く其幕を閉ぢたのであつたが、彼が探して求め得なかつた決勝點は幾何もなく彼の若い隊員ヂョン・マックドウアル・スチュアートによつて獲られた。

運の悪い探檢者としてロバート・オハラ・バークとウィリヤム・ヂョーン・ウィルスは廣く知られて居る。一八六

〇—六一年の出來事である。

ヴィクトリヤの王立學會は輿論に應へて奥地開發の爲め大掛りの探檢隊の組織に着手した。寄附金は一二、〇〇〇磅を超え、駱駝は特にアラビヤから輸入する等萬事大規模に運ばれた。一行の指揮官としてバークが選ばれた。彼は名の示す通り愛蘭人で元々警官であつて、メルボルンでは警部を勤めて居た。年は四十歳で、彼の協力者ウィルスはデヴォンシャイヤーから渡來した年齡漸く二十六歳の若い氣象學者であつた。此の探檢は學者、駱駝御者の印度人を加へる等濠洲探檢としては前例の無い大規模のものであつた。メルボルンの王立公園を發足した一行は北岸のカーペンタリヤ灣に出るのを窮極の目的とし、其間牧草地を沿路に發見するのを狙つたのであつたが、マランビヂー河迄は何事も無かつた。然るに間もなくバークと云ふ男は短氣者で指揮者としての能力の缺けて居る事を暴露し、喧嘩が勃發した。基地を設けて其處に分隊を殘置し、身輕で動き易い小部隊で次の地點へ推進すると云ふ方法を採用した。最後の基地をクーパース・クリークに置き、ブラーと稱する男に同僚五、六名を附けて三ケ月間待つようにと命令を與へた。バーク・ウィルス及び他の二人はカーペンタリア灣に達すべく强行軍をしなければならなかつた。若し三ケ月經つて尙彼等がクーパース・クリークに歸還せねば死んだものと考へて後戻りをして南の次の基地、ダーリング河のメニンディーに居る事に取極められて居た。ブラーは四ケ月半も待ち糧食が殆んど盡きたので止むなく移動した。

バークとウィルスは二人の男、六匹の駱駝と一匹の馬を連れて急ぎ北進した。六週間は順調に過ぎたが、間もなく糧食が乏しくなつたが海岸へは未だ一五〇哩もある。駱駝は斃れたが二人の探檢者は遂に海岸の沼澤地にあるマングローブ林に辿り着いた。然し海は結局見ず仕舞ひに歸路に就かねばならなかつた。歸路の旅は一層の困難が待ち受け





て居た。糧食は盡き、一人の男は死に、遂に馬を屠つて食ふに立至つた。やつとの思ひで彼等はクーパース・クリークの基地によろめき込んだが待つて居る筈のブラーは何とした事か其の朝、南へ立つた許りの處だつた。然し乍ら衰弱し切つた彼等が追付く事は思ひもよらぬ事だつた。附近の樹皮に DIG（掘れ）と彫られて居たので、土を掘り返すと僅か斗りの食物が出て來た。彼等は其處に數日休養の後、一五〇哩隔つた、エイヤの名附けた『絶望の山』の傍の牧羊場指して出發したが、目的地の五〇哩近く迄行き着き乍ら道を失ひ絶望して引き返した。

一方ブラーは救援隊と共にクーパース・クリークへ引き返したがバークもウィルスも何の手懸りが無いので又南へ引き揚げた。數日後ウィルスは基地へやつと辿り着いたが、誰も居ないし、ブラーが引き返した樣子も見えない。彼等二人は生殘りのキングと共に基地の附近を歩き廻り木の實を食べて生命を繋がうとしたが、其の木の實は土人には榮養のある食物だつたが白人には有害なものだつた。バークとキングは病氣になつたウィルスを殘して土人の部落を見付けに出掛けた。ウィルスは沙漠に獨り取り殘された儘死んで行つた。一方土人の部落を探しに出掛けたバークも衰弱して死んだが、キングはよろめきよろめき歩き續け遂に土人に發見されたが其時は殆んど意識不明であつた。

探檢隊が行衞不明になつたとの報がメルボルンに傳はると、人々は仰天して直ちに捜索隊を編成した。其一隊はクーパース・クリークに沿つて進み土人に出會ひ小さな小屋に案内され、物を言ふ事も出來ぬ程痩せ衰へたキングを發見したのであつた。直ちに看護され、元氣を恢復した彼はバークとウィルスの遺骸捜査に加つた。遺骸はメルボルンに移送され市民葬を以て手厚く葬られた。

此の探檢は明らかに失敗であつたが捜索隊が跋渉した地域は相當な面積に上り、ダーリング河からカーペンタリヤ

灣に至る地方に關する重要な報告が得られたのは、思はぬ拾ひ物であつたと言ふ可きであらう。バーク・ウィルス探檢隊の悲劇が行はれて居る時他の一人の熱心な探檢家は南から北へ拔けやうと企てゝ居た。チョーン・マックドウアル・スチュアートがそれで、彼は十五年前の有名な中部濠洲探檢隊スタート一行の生き殘りである。バークやウィルスとは反對に彼はその奥地に關する知識を基礎にして科學的に此の問題と取組んだ。又彼は巧みな山男でもあつたのだ。彼の計畫はアデレードから小人數で出發し、スタートにとつて大障碍物となつた沙漠地帶の西に出て、先方に良い土地の有無を確めようといふのであつた。彼の順路の一部に就て前年調査して置いて充分知識が出來て居るから今度の探檢の成功に就ては自信があつた。彼の自信は正しかつた。彼は沙漠地帶を通り拔けて豐沃な牧草地帶を發見した大陸の殆んど中心地點に赤い砂岩から成る山を見出すと彼は其頂上に國旗を建て『スタート中央山』と名を附けた（一八六〇年）。彼は更に北へと押し進んだが土人に襲はれ暫時前進を阻止された。食糧が缺乏するに及んで彼は殘念乍ら引返さざるを得なかつた。

翌年彼は再度計畫し、今度は前回より更に北進し得たが通り拔けられ相もない竅に行手を阻まれた。之を切り開くべく大いに奮闘したが又候食糧が怪しくなつたので、一、七〇〇哩の元來た道をアデレードへ引返した。一八六二年南オーストラリヤ政府の後援を得て三度目を試みたが、今度は眞直に北方海岸へ突き拔け印度洋に臨む地點に達した。彼は同じ道を二、〇〇〇哩引返してアデレードに歸着した。バーク・ウィルス捜索隊によつて二人の遺骸が市に齎されたのと同日だつたのも奇緣であつた。スチュアートの旅行によつて濠洲中央部の謎は解かれ、土地の情況に關する貴重な報告を齎した。大陸横斷の電信線はスチュアートの路筋と殆んど同じに敷かれて居る。旅行中の無理が祟つて酷く健康を害した彼は旅行完成の四年後五十一歳で死亡した。





斯樣に濠洲の奥地の探檢には征服すべき民との劇的な戰爭の場面は無い。然し探檢者達は自然が待つ害意と其の無慈悲な暴力とに向つて挑まねばならなかつた。

## 第四節　國土の發展

濠洲建國の礎石は流刑囚であつたが、やがて時と共に此の制度は消滅した事は前章で述べた。ボート・チャクソンに第一回の監獄船到着後は八十年の間に探檢家達の海に又は陸に於ける冒險に就ては既に觸れて置いた所である。其の間他方に於ては植民地は次第に膨脹し新しい州が生れた。此の地に特有の産業も生れ、探檢家が有望な土地を發見する度に其足跡を傳つて發展した。各州から自治政體の要望が起り、許可された。南の大陸に對する熱情が濠洲人の胸に湧いた。彼等は聯邦によつて彼等自身を繋ぎ合せた。濠洲は今尙母國に對しては强い友情を持つてゐるが、既に濠洲は英國の屬國若くは植民地以上の存在であるとの考へが起つた。立派な一箇の國家に成長したのだ。此の經緯を述べるには矢張りニュー・サウス・ウェールスの初年に遡らなければならぬ。

植民地の歷史創つて以來最初の三十五年間は英國王により任命された總督によつて治められて居た。總督は普通多くの場合海軍又は陸軍の將校であつたが植民地に對する殆んど絕對至上の權力を與へられたものである。彼は總ての任命をしたが裁判官に關するものも其の中に含まれて居た。取引と歲入を調整し、個人に土地を割當て、又は全住民に對する法律又は布告を發する事も出來た。四人を赦免する事も出來たのだ。此の何れの

場合にも彼は誰にも相談する必要は毫も無い、只彼の獨斷あるのみであつた。全くの獨裁政治であつたのだが、大部分が自暴自棄の人間から成る社會に於ては政府を作る等といふ事は危險至極な企てと云はなくてはならない。手腕と之に加ふるに公正にして決斷力ある總督の下であるなら萬事甘く行くであらうが、若し反對に彼が弱く、不必要に專横ならば混亂と悲劇とが捲き起るであらう。

シドニー市俯瞰圖、右の橋が御自慢のハーバーブリッヂ

色々な難しい問題が有つた。本國に於ける正規聯隊の兵隊達は濠洲勤務に廻される事を嫌がつた。そこで政府はシドニー勤勞の爲めにニュー・サウス・ウェールス部隊と呼ぶ特殊部隊を編成した。然し間もなく此の一團の兵士達は芳しからぬ世評を得るに至つた。總督が交替のため雛任して新總督が着任する迄の間植民地の支配權を持つた彼等は酒類の販賣を始めた。將校連中は酒類販賣の專權を握つて巨額の利得を占めた。此の影響は推して知るべく、騒々しい世間になつた。部隊の將校は囚人と兵士にラム酒を賣り付け、ラム酒はシドニーに於て通貨として用ひらるゝ迄に立至つたのであつた。

斯る狀態のさなかへハンター總督が着任し、大いに改善する處有つたが弊害の根底は遂に拔き得なかつた。一八〇六年ブライ總督はこの酒類の惡用を根も枝も共に一切拂拭してしまはうと決心したが其の遣り方が如何にも威壓的且峻烈であつた爲め遂に住民の謀反となり英國に追ひ歸されるに至つ





た。次の總督マッケーリーは在住一、二年治績大いに擧つた。就任間もなく英國政府はニュー・サウス・ウェールス部隊を廢止し、正規兵を送る事にした。獨裁總督としてはこのマッケーリー總督が最後で、次の代からは地元住民の有力者より成る顧問會議を置く事に定められ、完全なる自治政府に向つての萠芽を見た譯である。

一方濠洲の大産業亦漸く始まらうとした。其頃デヴォンシャイヤー一身で、チョーン・マッカーサーと云ふニューサウス・ウェールス部隊附の若い將校が居た。退職して農業を始めたが間も無く非常に有力になつた。才能大ではあつたが又頗る我儘な短氣者であつた。或時キング總督は公文書の中で半ば氣紛れだつたかも知れぬが、マッカーサーに關して『植民地の半分は既に彼の所有に屬して居る。彼が殘りの半分を獲るのは左程遠い先の事ではあるまい』と零して居る。それは兎も角として、マッカーサーは羊に興味を持ち、濠洲將來の發展に重大な役割を持つ可き羊の飼育の實驗に投資した。彼はベンガル産の羊と英國産のものとを交配し、更に其の出來たものを南阿から到來のスパニッシュ・メリノと交配した。滿足な結果を得られないので英本國に赴き純血種のスパニッシュ・メリノの牡羊數頭を買入れた。之との交配によつて遂に早魃にも暑熱の氣候にも堪へ尙且驚くべき深厚なフリースを持つ丈夫な濠洲メリノを創造したのであつた。

初期に於けるニュー・サウス・ウェールスの將校達は土地を得て所謂紳士農になつた。此の事實は自由移民の將來に拍車を入れ、更に又立派な緬羊が育つと聞いては渡來熱は愈々昂らざるを得なかつた。彼等將校が土地で成功した事はやがて本國から彼等の友人知己を呼び寄せる結果になつた。

同時に牧羊が職業として一般的となるに及んで濠洲の他の地點亦入植者を吸引し、シドニーを遠く離れた地域に小

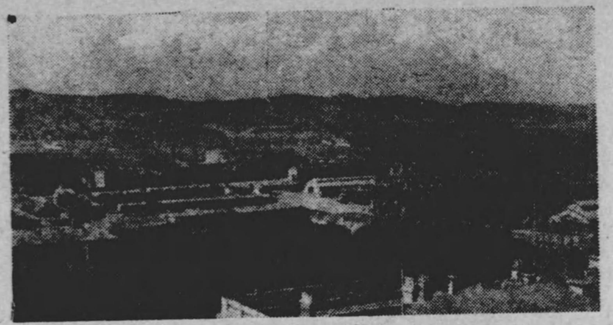
人口の村が起つた。其等地點が次第に發展して地方となり、やがて州に成長したのである。其情況を以下少しく述べて見よう。

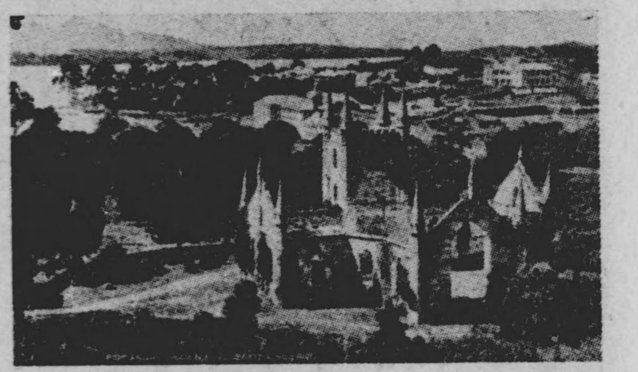
## 一、ヴァン・ディーメンス・ランド

奈翁の野心が歐洲を攪亂して居る時、佛蘭西の探檢隊が濠洲の南海岸を調査して居るのが見受けられた。正しく佛蘭西が彼地に植民地開發の意圖を有して居る事が判つた。尤も之丈けが原因で無かつたが、英吉利は先づ第一に之を手に入れ樣と決心した。一八〇三年ヴァン・ディーメンス・ランドの南部に在るストーム・ベイ(嵐の灣)を占領すべく一隊の者がシドニーから派遣せられた。佛蘭西の探檢隊が特に此の灣を推賞した事實を聞き込んだ英國側は先づ之を押へ樣としたのが眞相である。ささやかな植民地が拓かれた。現在濠洲の最も美しい都會の一つとなつて居るホバートの其の上(かみ)の姿である。ニュウ・サウス・ウェールス當局は囚人の中惡質の者を選んで此處に移送した。英本國も之に續いて、ポート・アーサーとマックーリー・ハーバーの二箇所に囚人收容所を開設したが、囚人取扱ひの苛酷を極めた點で有名であつた。囚人の或者は脫獄して山に逃げ込み强盜、匪賊となつた。此等の者は土人に對し最も慘酷な方法を以て臨み、郊外に出ては白人入植者を虐殺する等狼藉を極めた。此等匪賊に打勝つには住民全體が團結するより他に策が無かつた。ヴァン・ディーメンス・ランドの悲劇の一つは土人の物語りである。匪賊によつて示された白人の所謂正義なるものに驚いた土人は相手と時とを問はず怖ろしい復讐を敢行した。其結果彼等は見付かり次第白人によつて射殺され或ひは他地域へ追ひ遣られ、其數は著しく減退した。學問的に興味あり且不當に虐待されて居る









(上) タスマニヤ州首都ホバート市
(中) ポート・アーサーに於ける流刑植民地全景
(下) 當時の鐵鎖刑

此の土人の絕滅を防ぐ何等かの方策を採らうと氣の付いた時は既に遲く、一八六〇年只一人の生殘り土人が遂に死んでしまつた。

一八五三年流刑制度廢止と共にヴァン・ディーメンス・ランドはタスマニヤと改名された。此の小さな島はやがて農業と果樹栽培によつて富裕となつた。

## 二、モートン・ベー（クィンスランド）

圖瞰俯市ベンスリブ

シドニーが拓かれて間もなくオックスレーと云ふ探檢家が五〇〇哩北方に良港ありと報告した。一八二四年に監獄の支所を設置したが其孤獨と無慈悲な懲戒方法とで、其後十五年間モートン・ベーと名を聞く丈けでも囚人を震へ上らせたものであつた。然し乍ら一八四〇年其周圍は牧羊、牧畜に恰好の土地である事が發見せられると共に自由移民がやつて來出した。奥地へ二〇〇哩は草のある高原であつて今では最も優秀な牧草地帶となつて居る。ダーリング・ダウンと呼ぶ此の高原は無主地であつた爲め、政府から貸下げを受けて牧畜を營む、squatter と呼はれた連中が殺到した。一八四四年には此高原に二〇〇、〇〇〇頭の羊と六〇、〇〇〇頭の家畜が飼育されて居り將來の有望性が確認されたのであつた。モートン灣に臨むブリスベンは次第に發達し今日はクィンスランド州の首府である。植民地の擴張に伴ひ土人との面倒な問題が起つた。此等北部の土人は南部の者より男性的で狂暴であつた。其後有名なるモルガン及びヂムピー金山の發見はクィンスランドに巨額の富を齎したが、土地及び氣候其物も亦砂糖、棉花及び熱帶果實の耕作に適して居る。

西オーストラリヤ州パース市。ウイリヤム街を向ふへ抜けるとスウォン河に出る

此等諸産業の發達は北部地域の繁榮の增進を意味するもので、金、銅、家畜、バナナ、密柑、パインアップル、砂糖、煙草、棉花及び材木はクィンスランド資源の主なものであるが、此の州の將來は仲々に輝しいものである。

## 三、ウエスターン・オーストラリヤ（西オーストラリヤ）

ヴァン・ディーメンス・ランドに佛蘭西が植民地を求めて居るらしい氣配に驚いて英吉利は先手を打つたのであるが無防備の西オーストラリヤに就ては左樣な事は無かつた。佛蘭西は何も動きを見せなかつたが一八二九年英國の探檢隊西南の海岸に上陸し後續の入植者の船荷の爲めに場所を準備しようとしたのであつた。和蘭人が曾て『黑い白鳥』（とは又妙だが濠洲の名物である）が水面を埋めて居たとてスウォン・リヴァー（白鳥河）と稱した美しい河の入口を選んだ。指揮官たる英人ヂェームス・スターリング准男爵には此場所は餘り氣に入らなかつたのだが、よく調査の行屆かぬ内に入植者が到着した。數ヶ月の間は明日をも知れぬ不慥かな生活を送り後數哩奥地へ河沿ひに移動し河幅の非常に廣い地點にパース市の基礎を置いた。

多くの入植者は、地主になり住宅と大きな農場を持つものと信

じて來たのであつた。政府は彼等に對し三磅の價格に相當する物品を持つて來たら之と引換へに土地二〇エーカーを與へると申出て居た爲め入植者達は身分不相應な高價な家具類を身柄と一緒に持込んだのであつた。上手に描かれた地圖の上では垂涎三尺に値する廣大な一劃の土地が、扨て買取つて實物を見ると荒漠たる砂原に過ぎない。役人は月俸の代りに一年に付何エーカーと云ふ風に首府の附近の土地を與へられたのであつた。だから普通の入植者の如きはうんと遠方で無くては土地は手に入らず、加之手に入れて見たら全然手の着けられぬ樣な飛んでもない代物であつたりした。

彼等の高價な家具類はフリーマントルの海岸で陽に晒され雨に叩かれる儘に拋り出されてあつた。間も無く彼等は所謂『農場』を見棄てゝパースの町に集つて來たが彼等の資本は燒石に水の如く滅つて行つた。或る男の如きは、現金五〇、〇〇〇磅百姓三〇〇人他に高價な道具を持つて來たのであつたが、數ヶ月後には全くの破滅に陷つて、多くは東部へ移住し他は本國へ歸つた。植民地は四十年間發展の機會も繁榮の緒も得ず苦鬪した。一八四九年窮餘の策として流刑囚植民地と爲さん事を請願し、約二十年間囚人の移送を受けたのであつた。然し其時には肥沃な土地が發見せられ伐材と農業を主とする産業が漸く根を下し始めた。

一八八五年に至つて初めて此の植民地に芽が出た。それは突然奥の沙漠から金、それも驚くべき多量な金が發見されたからである。一八八六年から一九〇五年の間に西オーストラリヤは總計五八、〇〇〇、〇〇〇磅の金を、主としてカルグーリ附近の有名なゴールデン・マイルから産出して居る。凶運の星の下に喘いだ西オーストラリヤが今や最も繁榮せる州の一つになつて居るのである。

ヴイクトリア州メルボルン市スワンソン街より北を望む

## 四、ポート・フイリツプ（ヴィクトリヤ州）

山岳の多いヴァン・ディーメンス・ランドは間もなく多くの廣大な牧場を經營するには狹過ぎる樣になつた。そこで土地を手に入れ難い野心家の入植者は他を探し始めたが、最も自然な順序はバス海峽を渡つて對岸本土を調査するに在つた。一八三四年にはエドワード・ヘンティーがヴィクトリア海岸のポートランドに入植し、一八三五年にはヂヨーン・バットマンが一九日間の舟航（現在は一七時間航程の距離である）後ポート・フィリップ灣に入り込んだ。河口を入り土地の美しさと肥沃さとに魅了された。若干の斧、硝子それに硝子玉の首飾りで釣つて土人に契約書へ署名させて、マンマと六〇萬エーカーの土地の所有權を手に入れた。

尤も後に至つてニュー・サウス・ウェールス政府は違反なりとの理由で一萬エーカー丈けを彼に與へた。探檢家ミッチェル少佐はシドニーからヘンティーの農場迄陸路旅行して此の大陸の南部海岸地帶に驚きの目を見張り Australia Felix（幸福なるオーストラリヤ）と呼んだ。此等の事がヴァ

ン・ディーメンス・ランドの人々に知れ渡ると共に熱狂の渦が巻き起り、多くの新來者が家畜を引き連れて押し渡つて來た。五年間に一〇、〇〇〇人の者がボート・フィリップ地區に蝟集して居る。バットマンは此の新らしい植民地の中心地として地を選びバットマンス・ヴィレーヂを建設した。之が今人口百萬を越えるメルボルン市の起源である。一八五〇年遂に別の州となりヴィクトリア州と名附けた。其の一年後にバラット及びベンディゴに砂金が發見せられるやヴィクトリアは一躍世界の魔法の國になつたのであつた。

## 五、サウス・オーストラリヤ（南オーストラリヤ）

一八二九年英吉利の新聞に『シドニー便り（Letters From Sydney）』と云ふ續きものが連載せられ、後單行本になつたが、これがひどく評判になつた。處が實を申せば著者エドワード・ギボー・ウェークフィールドは曾て一度もシドニーに行つた事も無く、又其本も何處かロンドンの一隅に於て書かれたのであつたが、當時世間はそんなイカサマがあるとは知らなかつた。

彼は魅力ある筆致で以て濠洲が與へる好機に就て描き、必ず或功すると保證附の植民計畫の概貌に就て述べて居る。土地を安く賣ると云ふ事は致命的な誤謬である。何故ならば、勞働者が直ちに土地を買つて地主になる事が出來其結果家庭勞働者及び一般勞働者が拂底する。然るに若し土地の價格が適正な高値で維持されて居れば、懷工合の良い人間丈けが地主に成る事が出來、土地を賣つた利益金は下僕や勞働者を輸入する費用に宛てゝ政府が使用すれば良いのである。斯樣にすれば新天地に多くの貴族的家庭を築く事が出來る。特に濠洲の地味は肥沃だし且鑛石、木材の





供給が豐富なので英國の二〇、〇〇〇磅は最も容易且迅速に一〇〇、〇〇〇磅に增やす事が出來るのだと彼は云ふ。英國の小地主が濠洲に移民し、廣大な農園に美しい家庭を築き間もなく凡ゆる贅澤と愉悅に圍繞されると云ふ筋の事を書いたのであつた。

南オーストラリヤ州アデレード市
キング・ウイリヤム街

此の異常な說は英吉利の創作家、銀行家並びに商人達に受け入れられ喝采を博したのであつた。直ちに會社が組織され、此の筋書通りに植民地を建設する事に決し、先づ試驗的にとて濠洲の南部海岸を選定した。政府は直ちに免狀を下附したが、其の成功に就いて幾分の疑問を持つて居た爲め財政上の援助は之を拒絕した。植民地が出來上つたら土地は一エーカー一二シリングで賣出される事にし、囚人丈けは一切容認せぬ事にした。二隻の船に乘込んだ入植者達は一八三六年英吉利を出帆、探檢者フリンダースが心惑かれた美しいカンガルー島に上陸した。然るに新しい移民達は此島が全然不適當である事を發見し、海を渡つて本土のロフティ・レーンヂ山の裾の平原に植民地を築いた。此町を英吉利の女王に因みアデレードと命名した。

間も無く移住者達は幻滅を感ぜざるを得なかつた。彼等の美しい農園は二十年餘も苦しい勞働をしなければ出現し相もない。無意識に芝生と雜木林とを期待した處に深い籔と荒蕪地を發見した彼等はすつかり嫌氣がさした。多く

は土地を取る事を肯んぜず、アデレードの町へ螺集し、町の土地を賣買して金儲けを遣らうとした。婢僕と勞働者を滿載した船は着いたが仕事が無い。食糧の價格は暴騰し全植民地が飢餓線を彷徨するに至つた。政府は勞働者を道路埠頭の建設及び公共建築物の爲めに使用し、やがて勘定書を英吉利政府に送り付けたが、そんなものを支拂ふ譯が無くニベなく拒絶せられた。此の結果植民地は四〇〇、〇〇〇磅の借財を殘して破產してしまつた。勢ひ再建されざるを得なかつた。土地は廉價で賣出され、凡ゆる階級の勤勉な入植者により夫等の土地は買ひ取られた。間もなく南オーストラリヤは小麥、果物及び葡萄の生產に最適なる事が判つた。家畜や羊は陸路シドニーから緋と茶色の繪の樣な裝束を附けた伯樂達によつて運れて來られた。此の伯樂達は斯くして新しい產業を齎し植民地をして自給出來る樣に助けたものとして爾來これを Overlander と呼んでアデレードでは大變人氣が良い。銅、金、銀が發見され、一八七五年には、彼のインチキ小說屋が描いたものより遙かに基礎が堅實でそしてヨリ民主的になつて居た。

斯樣な具合で最初は濠洲にはニュー・サウス・ウェールスの一州丈けであつたが、其後次第にいろんな州が誕生した。ニュー・サウス・ウェールス州は母體であつてそれが自然に分裂して現在見る樣な形になつてしまつた。各州は一九〇一年濠洲聯邦成立迄夫々獨立した植民地を形成して居たのである。

| | 獨立の植民地となりたる年 | 實際植民開始の年 |
|---|---|---|
| ニュウ・サウス・ウェールス | 一七八六 | 一七八八 |
| タスマニヤ | 一八二五 | 一八〇三 |





| | |
|---|---|
| 南オーストラリヤ | 一八三四 |
| ヴィクトリヤ | 一八五一 |
| クィンスランド | 一八五九 |
| 西オーストラリヤ | 一八二九 |

北部直轄地域と呼ばれて居る地域は最初にニュー・サウス・ウェールスに屬して居たがクィンスランドとの境界が設定せられた時無人地域として殘された。クィンスランドが其の內の一二〇、〇〇〇平方哩を併合し、マックドゥアル・スチュアートの探檢の後、殘りの部分を南オーストラリヤが牧場に利用の目的を以て取り込んでしまつた。然し乍ら運輸の困難の爲め治め難いので手を燒いた南オーストラリヤは一九一一年聯邦へ、開發の爲めに要した四、〇〇〇、〇〇〇磅の借金を添えて、提供してしまひ厄拂ひをした。聯邦政府の背景を持つて鐵道も航空路も設けられるし人口も增加するであらう。

ニュー・サウス・ウェールスが三十五年間獨裁總督によつて治められ、一八二三年に至つて漸く人民の要望が容れられ顧問會議が設けられた事は既述したが此の會議は日を經るに從ひ愈々重要度を增した。ボート・フィリップは六〇〇哩彼方の在シドニーの總督と其顧問會議の支配下に置かれて居たのであるが、メルボルンは議員の派遣に困難を感じ、別に顧問會議を持つべく劃策し遂に英吉利の議會を通過した。ボート・フィリップは時の女王の名に緣りのヴィクトリヤと改名した。其後各州に順次夫れ夫れ顧問會議を持つようになつたのである。

濠洲が今日の大を爲すに至つたに就て金鑛の發見が與つて大いに力がある。一八五〇—六〇年の事で所謂黃金狂時(ゴールドラッシュ)

代の出現を見たのであるが、之れが如何に濠洲の人口を增加させたかを見るに、一八五五年のクィンスランドの人口は一八五〇年の濠洲全體の人口よりも多い事になつて居る。黃金魔の吸引力は世界中から黃金亡者を集めたのであつた。大工、左官は道具を捨て、僧侶は法衣を脫ぎ、教師は教壇を飛び降り砂金鑛區へ馳け付けたのである。メルボルンには唯二人の巡査が殘つた等々種々な挿話を蒔き散らしたのであつた。一八五〇—六〇年の一〇年間にヴィクトリヤの人口は七倍、濠洲全體は四〇萬から一躍一一五萬に增加したのであつた。黃金熱も熱病の一種と見えて一九〇三年世界產金額の四分の一を出した濠洲も一九二三年には僅かに四%に轉落して居る。

然し此金鑛發見は濠洲から貧乏國の形骸を取り去ると共に濠洲特有の社會問題と特有の解決方法とを提供したのである。即ち金鑛發見後十年にして英國民權論者の主張たる民主主義が濠洲の法律となつたのである。勞働黨が壓倒的勢力を持つに至つたのは二十世紀の現象であるが、一九〇一年に六個の植民地が聯合して聯邦を構成するに至つた頃には濠洲は新西蘭と共に世界に先立つて社會的並に經濟的民主主義への途を開いて居たのである。濠洲勞働者の有利なる勞働條件を維持する爲め移民の制限と輸入の防壓とを爲さんとしたのが聯邦形成の最大理由であつたのである。

# 第二章　風　土

濠洲は南半球の樂園——否、時に愚者の樂園と呼ばれる。東は太平洋の黑潮が岸を洗ひ、西は印度洋の怒濤に白馬躍り、北すればチモール、アラフラ海に强烈なる熱帶の陽が輝き、南すれば南極より吹き寄する烈風吠ゆ、と云つた





風に四面環海の大陸である。東經一一三度九分から一五三度三九分、南緯一〇度四一分から三九度八分（但しタスマニヤを含めば四三度三九分）に亙り總面積實に二、九七四、五八一平方哩と云へば我國全土の一一・五倍、北米と略々同じ譯である。東西の最長距離二、四〇〇哩、南北二、〇〇〇哩に及ぶのである。

サブライム・ポイント（シドニー南方四〇哩）よりイラワラ海濱を望む

東海岸は氣候が快適で、地味豐饒で一年中太陽の光線に惠まれた理想鄕である。濠洲第一、英帝國では二番目の大都會シドニーが此東海岸に在るを見ても、其重要度は推知せられるであらう。中に赤道を挿む許りに、日本と濠洲とは如何にも遠く離れた樣に感ぜられるが事實は決して然らず極めて近いのである。商船のキャンベラ丸に乘れば神戸出帆十一日目にはブリスベン、十三日目には四、五〇〇哩の波路を越えてシドニーに着くのである。

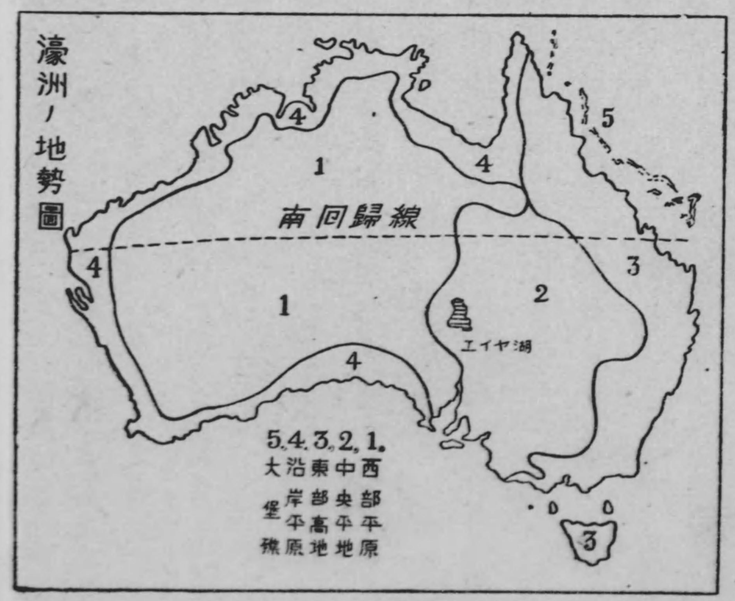
標準時は三つ用ひられて居る。東部標準時はシドニー、メルボルン、ブリスベン等の東部諸市を含むもので（我國の標準時間より一時間早い）半時間遲れてアデレード、二時間遲れてパースの標準時間が定められて居る。

然しこの廣大なる濠洲大陸も地形的に見ると特徵に乏しい單純な低い大陸で海拔二〇〇米以下の地域は總面稱の三九%であるが五〇〇米以下にすると實に八一%と云ふ事になり、一、〇〇〇米を超える山地に至つては驚く勿れ僅々

二・二%に過ぎない。それならばこの大陸は何處へ行つても一望千里の沃野許りかと思はれるが、そうは行かない。奥地へ行くと毎年の雨量二五四粍に及ばず沙漠或ひは準沙漠狀態を爲した地域があり、これが總面積の三六%に及んで居る。

帶地漠沙

誠に天二物を與へずとは此の事かも知れない。海岸線の延長一二、二一〇哩に及んで居るが、歐洲が面積七五平方哩に付海岸線一哩、英吉利は二五平方哩に一哩と云ふ數字になつて居るに拘らず、濠洲が二四四平方哩に付一哩と云ふ事は地形の單調を示す一つの證左である。若干の良港は有るが廣く深い入江が少ない。極めて古い陸地が風雨等に破壞せられて起伏の少な

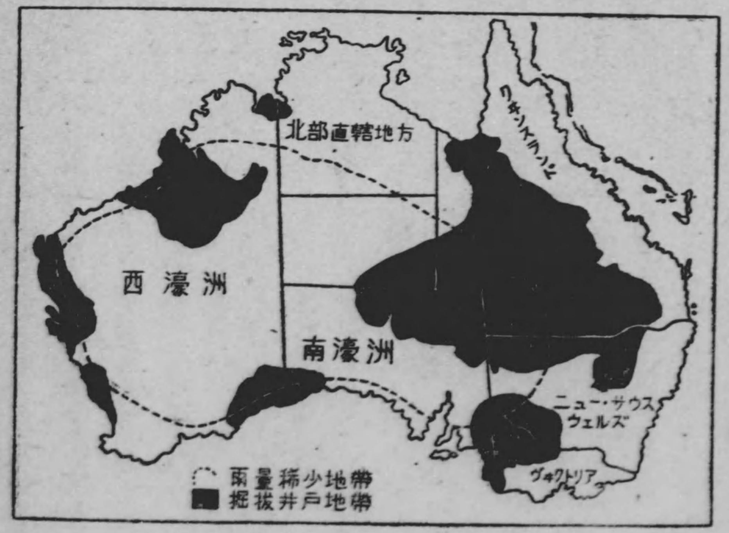


內陸大平原に於ける部落樣相

い地勢となつたのであると云はれるが、これを次の通りに分つのである。

第一類は西部平原（Western Plateau）或ひは準平原と呼ばれるもので三五〇米の平原、廣漠として全濠洲面積の半以上に達するが人口は五%に過ぎない數千世紀の間風雨によつて破壞せられた岩石から成つて居る。所々に丘陵と僅かな草原もあるが地表の大部分は沙漠若くは半沙漠の狀態に在る。

第二類は中央平地（Central plains）として知られる部分である。元々之は海水が南北兩方の巨大な灣から入つて來て渺々たる內海を形づくつて居たが陸地の隆起と共に海水も退いて出來上つた陸地なのである。雨季に丈け水の流れる川によつて培養される多くの鹹湖が存在して居るが、其の一つのエィヤ湖の如きは海面下四〇呎であ



る。エイヤ湖の周圍は見渡す限り暑熱に燃ゆる砂原と淋しい石の多い荒蕪地である。北部ある所から探檢者達はこれを『濠洲の死せる心臟』と呼んだものである。南方の部分地方は熱帶であるが砂糖、棉花の耕作と牧畜に恰好の土地である。中央平地は水量豐かなマレー流域に惠まれ、牧羊場と小麥地帶になつて居る。東の境は同じく家畜及び羊に好適の地域であり、賴りになるべき川の不足は掘拔井戸によつて補つて居る。

第三類は東部高地（Eastern highland）でヨーク半島からタスマニアに亙る地域であるが實際は平原が打續き東部は峻しい傾斜地であるが西部は緩かである。大部分標高九〇〇米を超えて居るがシドニー附近及び東南部で高度が增しブリュウ・マウンテン及び濠洲アルプスと呼ばれる地方では五、〇〇〇呎を越へ降雪を見る山もある。ニュー・サウス・ウェールス州とヴィクトリヤ州の州境に在るコシャスコ山は標高七、三〇〇呎で濠洲の最高峰である。科學的に云ふとタスマニヤ島と本土との間のバス海峽は比較的新しい陷沒によるものであるから、山の多い美景のタスマニヤ島はこの山岳帶の延長と見る可きである。

第四類は沿岸平原（Coastal plains）であつて殆んど大陸の周邊全體に行亙つて居るが取立てゝ何程か肥沃なと云ひ得るのは東南と西南の部分丈けである。

## 掘拔井戸

大陸の半分以上が降雨量十五吋以下である爲め乾季に於ては全くの荒蕪地になる事は既に云つた通りである。然し乍ら充分な水さへ得られるなら此等の土地は最も肥沃な土地に變り得るのだ。著しい例はヴィクトリヤ州西北のマリー Murray 地方であつて、沙漠としか見えなかつたに拘らず廣大な小麥地帶に成り變つて居る。然し乍ら神の惠みと云ふものは有るもので、此の雨不足の償ひとして、豐富な地下水が與へられて居る。掘拔井戸によつて此の地下水を噴出さす事が出來る、或井戸の如きは一日三〇〇萬ガロンを涌出した。地下水地帶は全國に九ケ所あるが一番大きいのは大濠洲水域と呼ばれクィンスランドと中部直轄地方の大部

（下）濠洲最高峰コシヤスコ山の雪。

（上）ブリュー・マウンテンの奇觀、スリー・シスターを望む。

ら海中に突き出て居る棚の端に乘つて居るもの丶樣である。之は小さな珊瑚虫が營々と築き上げた奇蹟であるが、美しい色と、明澄な淵と無盡藏の科學的驚異を持つ極めて特異な存在である。津山の漁業基地が有るが主として東洋市場

第五類は大堡礁（Great Barrier Reef）と呼ばれる興味深い部分である。海岸から約五〇哩沖合ひを南北に走る長さ一、二〇〇哩の珊瑚礁の帶を斯く呼ぶのである。珊瑚礁の東側は急に且非常に深い所から見て、この珊瑚礁は大陸か分を含むもので、井戸を掘れば運が良ければ一〇呎か二〇呎で涌水を見るが所によつては四、〇〇〇乃至五、〇〇〇呎の深さのものもある。水溫區々であるが場所によると七〇から八〇度のものが多いが、深い井戸で非常に溫度の高いものもある。クィンスランドの或井戸では華氏二一〇度に達したものがある。場所によると途中迄しか水が揚らないので其處からはポムプを使はねばならないのがある。然し乍ら何故こんな風に地下に水が溜つて居るかに就いては諸說區々で歸する所を知らないが、八五〇〇本以上の掘拔井戸が現在活動して居り、次第に涌水量が減りつゝあるのが今頭痛の種になつて居る。井戸が多過ぎたのか又は地下水自體

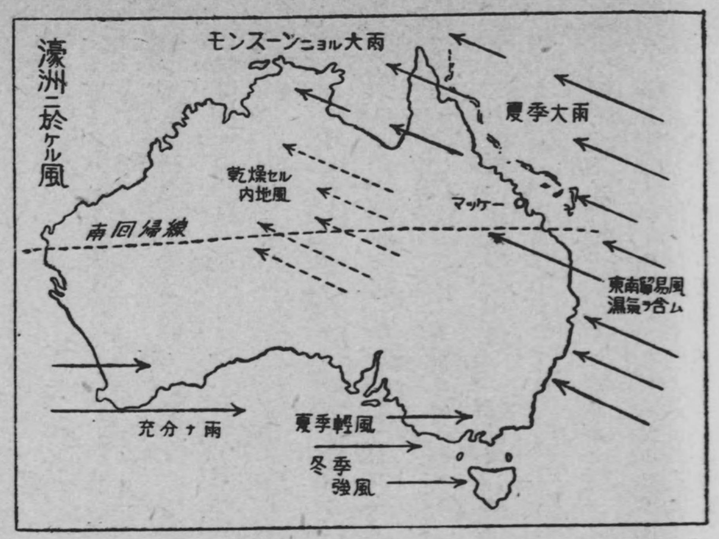
向けの海鼠採集に用ひられて居る。珊瑚礁が自然の防波堤を築いて居る譯で船舶は長い珊瑚の城壁の中をクィンスランドの沿岸を數百哩の間航海出來るのである。

地勢に就ては大略右の通りであるが次は河川及び水の問題が濠洲大陸に取つては特に重大な問題を提供して居る。これ丈けの廣大な大陸に兎にも角にも水域と呼び得るものが只一つしかない。マレー河流域がそれで東南地域を霑して居るのである。高山の雪及び降雨から流水を受け得る河はこれ以外に無い。奥地の多くの河川は地圖上にこそ線で描かれて居るが何れも雨季の間丈け流水を見、其他の時は只單なる水溜りが連つて居るに過ぎない。然らば降雨の分布狀況如何と云ふに、之が又頗る不均齊と來て居るのである。南東の貿易風がクィンスランドの熱帶の海岸に夏季夥しい雨、時に洪水を齎すが其平均雨量年一六〇吋に達して居る。マッケイは一日二五吋の降雨があり町の殆んど全部を洗ひ流した事があつた。北岸も同樣夏季モンスーンに入ると劇しい降雨を見るのである。南に於ては西風が適量の雨を南部海岸地帶とタスマニヤに齎す。處が內部地帶に入ると狀況が變つて居る。雨を含む風が途中で濕氣を全部吸ひ取られる爲め、殆んど年中乾燥して居る爲め西南地方に往々悲劇が發生するのである。

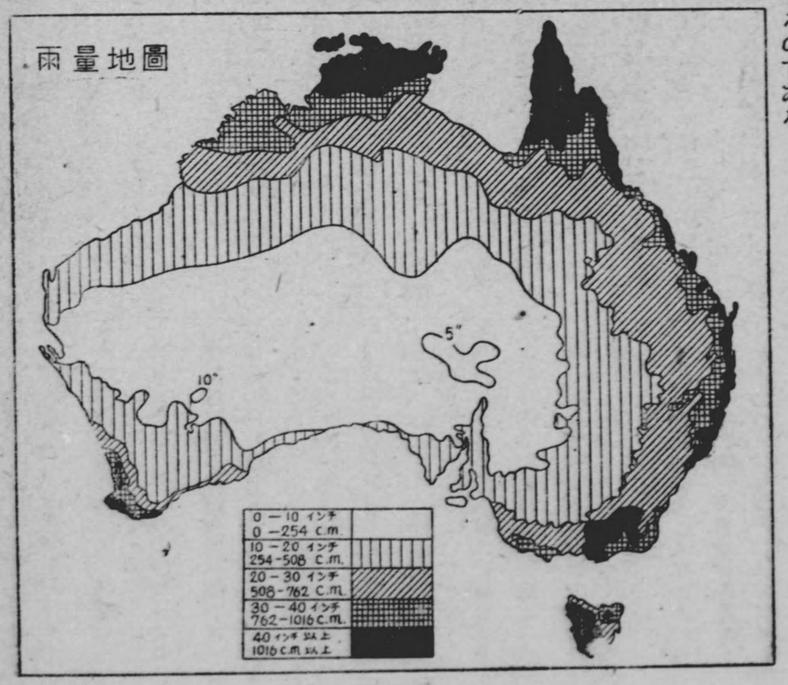
が減つて行くのか分らない。水質亦區々で、或ものは清洌克く飲料に供し得るかと思へば、他は纖物質又は硫化水素を含み全然使用に堪へぬ。然し多くの場合、幾分の鹽分を含んで居て果樹の栽培にも農業にも適しないが家畜の飲料としては最も好適である。掘拔井戸は牧畜に不可缺の條件であり、家畜移送の順路は常にこの井戸のある線を縫つて追はれるものである。水質が良い場合には井戸の水を導いて貯水池を作り、これを農場の灌漑に使用して居るものもある。南オーストラリヤの諸都市では上水道の水源を此の井戸に求めて居るものもある。








斯樣に氣候は大陸の形狀と大きさに原因する所頗る大である。東部の山岳地帶が雨を含む風を遮るから、海洋の影響は只沿岸平原地帶に及ぶ丈け



である。海岸地帶は雨量が豐富であるが、奥地の大部分は降雨よりも之を蒸發させる力の方が強い結果、乾燥して、一樹の影もなく、永い夏の期間からく〳〵に乾燥した、火の様な暑い空氣に炒り付けられる地域が現出する事になるのである。

之を要するに濠洲の降雨量は少ないのが特徴と云ふ事になるが、此の事は小麥の栽培に最適の狀態なのである。

り雨量に大差の有る事が農業に極めて大きな障碍を爲して居るのである。日本内地が一、五〇〇—二、〇〇〇粍の降雨を見る時濠洲で平均一、〇一六粍の地域が全面積の六・五%と云ふ。五〇八粍（二〇吋）以下の地域に至つては全面積の六八・三%に及ぶ事は如何に雨が少いかを物語るものである。ヴィクトリヤ及びニュー・サウス・ウェールスは冬雨型で夏乾燥するが、此の事は小麥の

次に氣候に就て見るに、先づ南半球に在る關係上暖帶に於ける四季の別は北半球とは逆になる。即ち春は九—十一月、夏は十二—二月、秋は三—五月、冬は、六—八月になる事を先づ知る必要がある。

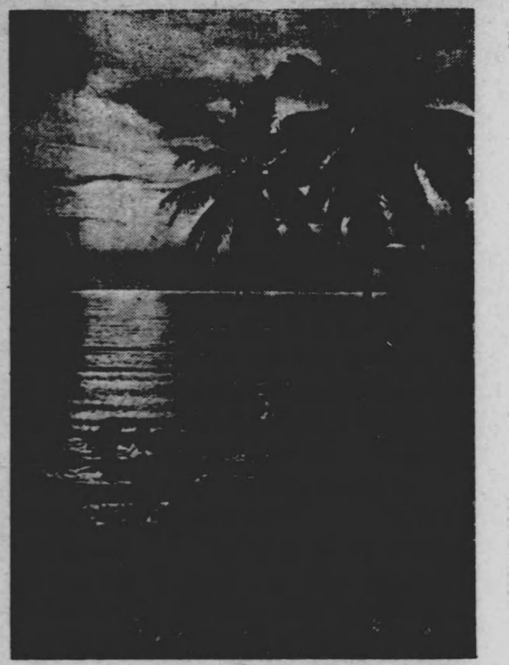
扨て更めて言ふ迄も無く、大陸の北部は熱帶圈内に在る。即ちクィンスランド、西オーストラリヤ・直轄北部地域の三州は何れも其一部は熱帶に在るが、

### 盛夏のお正月

新年の御慶述ぶるや廣葉蔭　と或人の句である。南半球の一月は北半球での七月に當る、最も暑い時だ。熱帶ならば腰の無い繻詰の餅を食べて浴衣掛けの正月も諦め付かうと云ふものだが、立派に四季の區別の有る國であり乍ら眞夏の正月では如何にも落付かない。俳句の季から申せば誠に不都合な事に相成るのだ。それから降誕祭だがあれに出て來る「サンタ・クロース」の爺さんが相變らず北歐の眞多の裝束で出て來るし、飾物も雪が積んだ事になつて居る。元來生れ落ちてから雪なんて見た事のない濠洲の連中に取つてこれは大分無理な話だ。序乍ら「サンタ・クロース」も文明の利器を利用せないては子供の人氣を繋げぬとあつてか、「シドニー」では南の方から飛行機で飛んで來る。廣告の一方法だ。





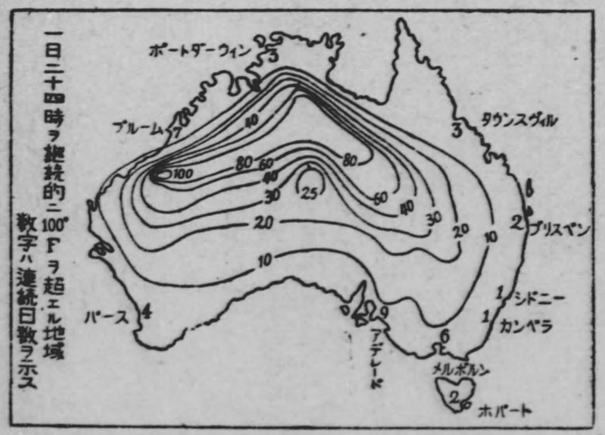


景風の有特帶熱、郊近市ヴィンダー

同緯度の他大陸の地點に比較すれば遙かに溫暖である樣だ。シドニーなりメルボルンでも盛夏には華氏一〇〇度を超える事は決して珍らしい譯ではないが、空氣が乾燥して居る爲め日本内地等よりは遙かに凌ぎ易い。服の如きも一着有れば夏冬通して暮せる。冬になつても所謂底冷えと云ふ事が無いから厚い外套無しでも過せる。

他の大陸と同樣海岸より内地に入るに從ひ寒暑の差が甚しくなるが、内部は夏雨が無い爲め一二〇度を超えるのは決して珍らしくなく、冬になると南

これ等三州の總面積の内一、一四九、三二〇平方哩は熱帶圈内に、殘りの一、〇二〇、七二〇平方哩は溫帶に屬して居るから、濠洲の總面積二、九七四、五八一哩の四〇%に近いものが熱帶圈内に横つて居る計算になるのである。地形に著しい變化が無い如く氣候も複雜では無い。



**第101表　大都市氣溫表**

| 地　名 | 夏最高 | 夏平均 | 冬最低 | 冬平均 |
|---|---|---|---|---|
| パース | 112.2 | 73.2 | 34.2 | 56.1 |
| アデレード | 116.3 | 72.9 | 32.0 | 53.2 |
| ブリスベン | 108.3 | 76.6 | 36.1 | 59.8 |
| シドニー | 108.5 | 71.0 | 35.7 | 54.3 |
| メルボルン | 111.2 | 66.6 | 27.0 | 50.0 |
| ホバート | 105.2 | 61.4 | 27.0 | 46.9 |

部では霜を見る地方もある。最も暑い地點としては西オーストラリヤの北部であり夏季一〇〇度を超ゆる日が數週間も續く事があると云はれる。最も寒いのはニュー・サウス・ウェールス州の南東の一角とヴィクトリヤ州の東部、オーストラリヤ・アルプスと呼ばれる地方で夏季と雖も一〇〇度を超える事無く冬季は屢々零點下に下る事がある。タスマニヤは一年を通じて最も溫暖で一〇〇度を超える事が稀に見られる。

扨て緯度、地勢、海との距離、雨量其他天候條件を綜合して世界各地に地理學的地帶なるものを形成するのであるが、これが其地の産業、工業、人口又は人類の移動に重要なる關係を持つのである。草木の成育の點から見た地帶に次の様なものがある。

（一）ツンドラ地帶。又は寒帶沙漠と云ふべきで、冬が長く遊牧民が散在する。

（二）松柏樹地帶。北半球を圍繞する地帶であつて、スカンヂナヴィア及び加奈陀の木材工業を育成するものである。

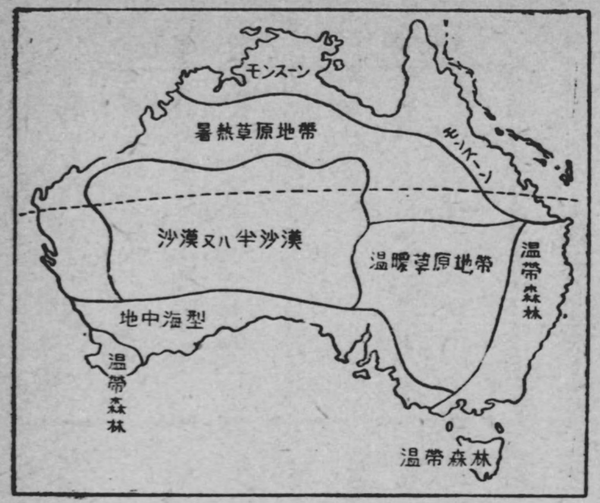
（三）樹木なき草原又は暑熱草原地帶。世界の牧畜地帶は殆んど之に入る。

（四）ステップ或ひは溫暖草原地帶。牧羊及び農業に適す。

（四）地中海型地帶。氣候、雨量、産物等南部西班牙或ひはカリフォルニヤに類似のもの。








（六）暑熱の沙漠地帶。サハラ及びアラビヤ沙漠の如く大陸の西側にあるもの。

（七）貿易風地帶。例へば印度、南部支那、及び東印度の如く人口充滿し地味最も肥沃である。

（八）赤道下森林地帶。例へばアマゾン及びコンゴ河流域の如く無能力な土人と護謨、象牙の如き熱帶産物を出すもの。

此の分類方法には或ひは異論が出るかも知れぬが、兎に角濠洲の如何なる部分が果して其何れに該當するやを見るは極めて興味ある問題である。

北部の貿易風地帶は濠洲に於て最も問題となる地域である。白濠主義を固執して果して白人勞働者の手で、之が適當に開發出來得るものか何うか。他國に有る類似の地帶に於ては米、堅木、玉蜀黍、砂糖、棉花及び煙草を産し稠密な人口を養つて居るのである。濠洲に於ては最も人口稀薄な地域であつて只クィンスランド州の部分丈けが開發せられ砂糖、棉花、木材、及び熱帶果實が相當量に産出されて居るが殘りは熱帶林で勿體なくも草と灌木の生へた地域であり、マングローブ樹の地帶がカーペンタリア灣を繞つて居るのである。

暑熱草原帶の西部からニュー・サウス・ウェールスの北邊に眞直に擴がつて居る。外貌なり利用の程度から見てウガンダ若くはローデシ

ヤに似て居るが、其處に營まれる牧畜業に取つての問題は取引の中心地と距り過ぎて居る事と運送の便を缺く事とである。それにも拘らず莫大な數の家畜が此處に放牧されて居り、更に一層の大發展は期待出來る。

沙漠又は半沙漠とレッテルを貼られた大きな地域の存在は濠洲人の酷く氣に病んで居る點である。嘗て或る旅行者が濠洲を評して『沙漠の周緣の綠の房』と云つた事がある。地圖を見れば之は明に誤謬であるのだが、如何にも氣の利いた表現であつたので世人に強い印象を與へ、濠洲に對し少からぬ迷惑を及ぼしたと、濠洲人は抗辨して居る。又他方愛國心の強い連中の中には沙漠の如きものゝ存在を否定しようとの運動がある、然し之も同樣眞實では勿論無い。人口及び生產の數字によれば沙漠なるものの存在は否定したくも出來ないのだ。尤も今でも充分雨が降ると一面の毛氈を敷いた如く草花一時に咲き亂れる。尤も無慈悲に照り付ける太陽の爲めに直ぐ枯れはするが、何とかして充分な水を得る方法さへつけば、將來此沙漠地帶も亦產業的に有益なものになるかも知れぬ。何れの大陸でも大抵赤道附近の西端に似た樣な沙漠が有る。それは貿易風が濕氣を東部の海岸に齎らすのであるが岸を離れるに從ひ濕氣を吸ひ取られ、西部に達する迄には完全に乾き切つてしまふのである。サハラ、カラハリ乃至アラビア沙漠は斯樣な具合で出來上つたのである。濠洲に於ける沙漠地帶は砂礫質の低地、鹽の溜つた凹地、及び岩石質の土地から成り、棘の有る草によつて覆はれ周圍にはマルガ樹（Mulga）の灌木林が打續いて居るのである。所々に放牧に適した草原が飛石の樣に有るには有るが如何にも取引の中心地からかけ離れた存在なので問題にならぬ。大陸橫斷鐵道の延長に從つて沙漠が狹まつて行つて居る現狀である。

ステップ、若くは溫暖草原地帶は濠洲の最も貴重な土地であつてマレー・ダーリング流域のリベリナから南部の著





名な穀物帶に及ぶもので、牧羊と小麥耕作が代表的產業であつて氣候はアルゼンチンに似て居る。

溫帶森林地帶の內、東南及び西南部は最も住み良い地方である。雨量は適當であり、酪農業に適し、ユーカリ樹が繁茂するのは此地帶である。巨大な樹木の種類は豐富で時に高さ三〇〇呎を凌ぐものすら有る。

パースからシドニーに至る南方地帶は地中海型である。海は碧く、冬は溫く雨あり、夏は暑く雨が無い。玉蜀黍、果實、葡萄の栽培には完全な條件を持つて居る。

# 第三章　人口

此の廣大な大陸に僅か七〇〇萬の人間しか住んで居ないといふ事は如何に人口の稀薄なるかゞ窺はれる。一平方哩當り日本では二八六人といふのに濠洲では僅か二・三三人で文明國中最も人口の稠密度が低い。此の大陸が將來どの位迄の人口の抱擁力があるかは屢々論義せられてゐたが或者は一、五〇〇—二、〇〇〇萬迄可能だといひ又或者は二億は可能だといふが之は濠洲の產業的資源、生活程度を考慮に入れねばならぬわけだが、濠洲に於ける權威ある意見では、三、〇〇〇萬迄は可能だといふ觀方が有力である。

濠洲は植民によつて始まつた國であり而も今日に至る迄僅か一五〇有餘年の歷史しか有しないのである。開國の當初に於ては男子の數が斷然女子の數を凌駕したのは當然の事であるが、天の攝理は眞に有難いもので一九三三年に於ては女子一〇〇人に對し男子一〇三・二人になつてゐる。これを開國以來の經過について見ると、一八〇〇年には女子

一〇〇人に對する割合は二六三・一であつたがゴールド・ラッシュの直前の一八五〇年には一四三・一九に減少を見てゐる。

以下一八八一年以降の詳細を見ると

**第一〇二表**　總人口並に男女比率（一八八一―一九三三）

| | 總人口 | 女子一〇〇人に對する男子の割合 |
|---|---|---|
| 一八八一年 | 二、二五〇、一九四 | 一一七・三五 |
| 一八九一年 | 三、一七四、三九二 | 一一五・八九 |
| 一九〇一年 | 三、七七三、八〇一 | 一一〇・一四 |
| 一九一一年 | 四、四五五、〇〇五 | 一〇七・九九 |
| 一九二一年 | 五、四三五、七三四 | 一〇三・三六 |
| 一九三一年 | 六、五一四、一二七 | 一〇三・七一 |
| 一九三三年 | 六、六二九、八三九 | 一〇三・二〇 |

次に濠洲に於ける人口増加の經過を辿つて見るもあながち無駄でもないであらう。

**第一〇三表**　濠洲人口増加狀態

| | | | |
|---|---|---|---|
| 一七八八年 | 八五九人 | 一八二〇年 | 三三、五四三人 |
| 一七九〇〃 | 二、〇五六〃 | 一八三〇〃 | 七〇、〇三九〃 |





| | | | |
|---|---|---|---|
| 一八四〇〃 | 一九〇、四〇八〃 | 一八九〇〃 | 三、一五一、三三五〃 |
| 一八五〇〃 | 四〇五、三五六〃 | 一九〇〇〃 | 三、七六五、三三九〃 |
| 一八六〇〃 | 一、一四五、五八五〃 | 一九一〇〃 | 四、四二五、〇八三〃 |
| 一八七〇〃 | 一、六四七、七五六〃 | 一九二〇〃 | 五、四一一、二九七〃 |
| 一八八〇〃 | 二、二三一、五三一〃 | 一九二七〃 | 六、二五一、〇一六〃 |

濠洲に於ける人口の増加は過去に於て著しかつたが、果してかくの如き増加は將來も可能であらうか。次に一九〇一年から一九三六年迄の増加を見る。

一九〇一―一九〇六（一・三八%）、一九〇六―一一（二・〇四%）、一九一一―一六（一・八七%）、一九一六―二一（二・〇七%）、一九二一―二六（一・一一%）、一九二六―三一（一・五〇%）、一九三一―三六（〇・七六%）である。一九二一―二六年に於てはその増加率世界の最高を示したがそれもやがては減少を辿り始め一九三一―三六年に於ては僅かに〇・七六%を示してゐる。

濠洲の人口について、最も著しい特長は都會集中の現象である何れの近代國家に於てもこの傾向は強いが濠洲に於ては特に顯著である。一九三三年の國勢調査によれば總人口の、四六・八七%は大都會の地域に一六・九七%はその周邊の地域に集中してゐる即ち總人口の僅か三六・一六%が地方の田舍に在つて農牧に從事してゐるといふわけである。この都合集中の傾向は殊に最近著しいものと思はれるが、之は牧農業に於ける收獲率の向上と原始産業の生産品の最後の仕上が都會及その周邊に益々盛んになりつゝある事を示すものである。

試みに濠洲六大都市の人口を示せば次の通りである。

**第一〇四表　大都市人口（一九三八年）**

| | |
|---|---|
| シドニー | 一、二八八、七二〇 |
| メルボルン | 一、〇三五、六〇〇 |
| ブリスベーン | 三二五、八九〇 |
| アデレイド | 三二一、四一〇 |
| パース | 二二〇、三三〇 |
| ホバート | 六三、二五〇 |

全人口七〇〇萬の中九九%迄は英國人である。尤も大部分は濠洲に於て生れたもので英本國で生れたものは僅かである。然し一〇%位はその兩親又は祖父母が外國人であつたものと思はれるから純粋の英國人は九〇%內外と見るのが妥當であらう。外國人は六萬人位で一九三三年の國勢調査によれば次の如くである。

**第一〇五表　外國人人口（一九三三年）**

| | |
|---|---|
| 支那人 | 七、七九二 |
| デンマーク人 | 一、二七九 |
| 佛國人 | 一、六四七 |
| 獨逸人 | 三、六七二 |
| ギリシャ人 | 五、六五二 |
| 伊太利人 | 一七、六五八 |
| 日本人 | 二、〇八四 |
| 米國人 | 二、五五七 |
| 其他 | 一七、九一八 |
| 合計 | 六〇、二五九 |

ふれる事はない。

原住民の數は今日では僅かである。一七八八年第一回の植民隊が濠洲に來た當時は三〇萬人（實際はもつと居たと思はれる）も居たとの事であるが、これらは英人の暴虐と殺戮に次第に減少して今日では五一、三七九人混血の二四、七一八人を合しても僅かに七六、〇九七人で而も彼等は減少の一途を辿りつゝある狀態である。

彼等の大部分は西オーストラリア州、北部直轄地域、クィンスランド州、ニュー・サウス・ウェールス州の熱い地域に主に住んで居てシドニー・メルボルン等では日常我々の目に

# 第四章　原住民族

盛裝せる西濠洲土人、槍、楯、ブーメランに身をかためた伊達者揃ひ、圖中の槍の柄は十四呎に及ぶものがある。

濠洲では、其原住民族を Aborigine と呼んで居るが、元來 Aborigine と言ふ語は ab-origine 即ち from the beginning（原始）の意味に他ならない。此語を民族の固有名詞として使用したのは、希臘、羅馬の神話に關係あり、中央伊太利の山嶽地方に發祥の地を有した一民族に對してであつたが、近世に至つては、原始民族とか新發見民族の意味に擴大された。

一八三八年英國に於て設立を見た "The aborigines' Protection Society" は英帝國内の凡ゆる原住民族の保護を目的としたものであるが、Aborigine と言ふ語を使用して居るに鑑みても、Aborigine を濠洲の原住民族の固有名詞とすることは妥當でない。

名稱の穿鑿は此邊に止めるとして、濠洲の原住民族には二つの型があつた。一つは今猶濠洲に殘存する民族であり、他の一つは、一八七六年を最後として、タスマニヤ島で死滅したタスマニヤ原住民族である。





話の順序として、タスマニヤ原住民族の事を先に述べ度い。此タスマニヤ原住民族も或時代には濠洲大陸の一部にも生存したであらうが、結局、タスマニヤで集結することになつたが、バス海峽の陷沒と共に大陸から切り離されて、新に出現した一孤島に封鎖されるに至つたものと想像されて居る。加之、此民族は獨木舟を造ることすら知らない蒙昧の民族であつたから、封鎖されるや大陸との交通は杜絶したのである。タスマニヤの原住民族は大陸の民族とは全然異なつた原種から出たものであり、頭髮の縮毛は多分にポリネシヤ地方の倭小黑人の系統に屬する。進化の程度は全く古石器時代的であり、狩獵の方法等も極めて幼稚であつた。初めて歐洲人がタスマニヤ島を探險した

## コロボリース

土人達は時々コロボリース Corroboree と呼ぶ儀式を行ひ、三週間も續けて夜踊る事がある。この寫眞では鬠の踊りを行つて居るが總じて踊りは鳥獸の動作を眞似たものが多いと云はれる。坐つて居るのは樂手で、婦人連である。脇腹を叩いたり手を鳴したり、時々カンガルーかワラビーの類の皮を張つたものを打ち鳴らす事もあるがこれが伴奏である。彼等の儀式は嚴肅なものもあるが時には只娛樂丈けの意味のものも有ると云ふ。此の場合彼等は體に白い模樣を描くが其樣式は彼等のトーテムに關係が有る。

更に胸部に切傷を作つて肉を盛り上らせ幾本かの線を作つて飾りとして居るが、或種の粘土をすり込むのだと云ふ。西オーストラリヤのモントゴメリー島の土人は背中に切傷によつて飾りを作る奇習を持つて居る。模樣によつてその屬して居る種、族が判る樣になつて居るらしく、鋭い貝殼で切り開いて、マングローブの根の泥を塗つて擦るのだと云ふ。手術は專ら女房が行ふのだ。（寫眞は鬠の踊り）

頃には約三、〇〇〇人の原住民を數へたのである。然るに、一八〇四年英國が此島に植民を開始するや、移民として送り込んだ者は再犯以上の流刑囚人であつた。畢竟、流刑囚中最惡質者を送つたのであるから、原住民を犬猫同樣に撲殺した爲、其人口は急速度で減少した。而も虐殺に對し有力な反抗も出來なかつたらしいが、或時、濠洲大陸の原住民の一人モスキートと言ふ男が海を越えて來島し、自ら首領となつて英國移民に反逆を起したが勿論、鎭壓されたと言ふ記錄が遺つて居る。其後一八三〇年頃アーサー總督の治下に至り、殘存住民を狩り集めて、バス海峽のフリンダー島に收容した。そこでは、待遇も惡くなかつたらしいが、急速度に死んで行き四五人丈の生き殘りとなつた。遂に此四五人を首府ホバート附近のオイスター灣に連れ歸つたのだが一八四七年の事であつたが不幸なる民族の死滅を救ふ事は出來なかつたのである。一八六九年純血タスマニヤ民族の最後の男が死亡し、其後七年一八七六年に至り、トラカニニと呼ばれた老婆の死に依つて此民族は地球上から姿を消したのである。偖て、次は濠洲大陸の原住民族に話頭を變へやう。サー・アーサー・キース教授の說に據ると、現世界の人類中、濠洲の原住民族程現代人類の共通の祖先の血統を引く民族は無いと言はれる。要するに、濠洲原住民族が現世界で最も人類の祖先型の特徵を具備して居るのである。シエーテンザック氏の如きは濠洲は人類搖籃の地であると言ふが之は聊か極端であらう。

女と男の民住原洲濠





濠洲原住民の特徵は頭髮は寧ろ直線的であり、皮膚は黑く、四肢は痩せて細長い。容貌は醜惡と評して好いであらう。カール・ジェー・ワーデンは其著 "The Evolution of Human Behaviour" の中で『アイヌ族がコーカサスとモンゴールの系統であることに對し、濠洲民族は大昔のコーカサス系とネグロ系の兩血統に屬する』と言つて居る。卽ち、プロンドの歐洲美人と闇黑アフリカの黑人の混血であると言ふ事が出來る。但し南部の部族は北部の者より體格が優れて居る。又海岸の者は奥地住居より體格が良い。アメリカの或醫者は濠洲の原住民は四肢の筋肉發達し、均勢が取れて居るが、頭は希臘の哲學者の樣に不相應に大きいと評して居る。

然らば、斯ふ言ふ濠洲原住民が如何なる經路を通つて此大陸に來たかと言ふと、現今のメラネシヤ人の祖先と思はれる生活力の旺盛なる種族の爲、東印度地方から追はれ、マレーの諸島に遷り、遂に濠洲大陸の北部地方に到着したと想像されて居る。此經路にも二つあつて、一つはチモール島を經てキンバレー地方に到着したと言ふ說であり、別說は南部ニューギニヤからトーレス海峽を横斷して、ヨーク半島に辿り着いたと言ふのであるが、恐らく、此二つの經路を通つたものと考へられる。

此大陸の北部に到着した彼等は大別三つの集團に分れた。其一團は西へ西へと海岸線に沿ふて進み、遂に南氷洋に面した大陸の灣曲部に達した。次の一團は南方へ大陸の中央部を突破して直下した。最後の一團は、一旦、カーペンタリヤ灣の濱に沿ふて其極迄辿り、次で河川を求めて、東に針路を變へ、竟にニュー・サウス・ウェールスやヴィクトリヤ地方に姿を顯はすに至つた。如何してさう言ふ事が言へろかと云へば、結局、此三線を通過した種族の言語習

俗の類似性が之を立證するのである。又通說では無いが、濠洲大陸は保羅期にはインド半島やセイロン島と接續して居り此時代に濠洲原住民の祖先が移動して來たが、地續きが斷絶すると共に他民族との交涉が無くなつたと言はれる。此說は濠洲の特異的な動物に就いても說かれる處であるが全然假說の範圍を出て居らぬ。

南方部族の使用する言葉は同一語彙に屬し南インドのドラビヤ族語系に類似すると言はれ、北方部族は西部パプア人語に稍類似し、七五の語彙に分れて居る。兩者とも非常に複雜な言語で合計二十二萬百四十五語を算すると言はれるが、一例を示すと、樹木と言ふ普通名詞を有せず、彼等の住む地域の一本一本の木に悉く別の名を附けて居る。丁度我々が一人一人違つた姓名を有するのと同一轍である。

若し文明と言ふ言葉を使用し得るならば、濠洲の原住民族は此大陸に狩獵に關する文明以外の何物ももたらして居らぬ。野獸を家畜化するとか、農作物を栽培すると言ふ樣なことは考へたことが無いらしい。尤も事實問題として濠洲には、馴化したり耕作したりするには甚だ緣の遠いカンガルーやサボテンの類が多いのも其原因の一であらう。即ち數萬年の間此大陸を占據しながら、如何なる意味に於ても資源を造り出す手段は一つも講じなかつたのである。若しありとすれば川床に係蹄をかけて魚を捕へる事位であらう。

アルプス—ヒマラヤ造山系と環太平洋造山系が大東亞海で交錯して複雜多岐な地勢を現出したる地球の最も新らしい收縮作用にさへ取殘された濠洲大陸は、後期氷河時代から乾燥期に入り多少の變化を來したとは云ふものの原住民





には古き姿の儘で極度の現狀維持的待遇を受けたのであつた。

原住民自身も亦古石器時代の狩獵民族の範圍を一步も出なかつた。

ダーウィンは濠洲から數多の貴重な研究材料を得たが其『ORIGIN OF SPECIES』の中で『濠洲には他の大陸には發見出來ぬ特有生物が多く且つ變化の度が少ない』と言つて居るが、濠洲棲住の人類も亦太古此大陸に移動して以來進步もせず退步もしなかつたとすれば其狀勢が寧ろ適者生存の理に合致して居たかも知れぬ。

狩獵用具として面白いのはブーメランである。への字形の木片であるが、獵物に向つて投げる。中らぬと大きく圓を畫いては手許に歸るのである。濠洲では餞別として紙切ナイフ用のブーメランを贈るが、之は復歸つて來いと言ふ意味である。

閑話休題、狩獵具又は武器としては、ブーメランの他に木製の槍、樹皮の楯を使用する。原住民の性格も本來素朴正直であるから、鬪爭力は寧ろ弱いと言つて好いであらう。

一七八八年キャプテン、フィリップがボタニー灣に上陸せんとした時、三人の部下が原住民に殺傷されたが、之は藪蔭から投石された爲であり、鬪爭力の弱いと共に、武器其物も甚貧弱である。ダーウィンが人間はゴリラの如き强力な、然し非社會的の種から進化したもので無く、チンバンジーの樣な比較的微力な、然し社會的な種から出たものでらうと考へた事と、濠洲土人は原住民族が地球上最も進化の遲れた民族であること、其鬪爭力、生活樣式、社會制度等を考へ合せると甚興味がある。

北部に住居の土人の見るクィンスランド

濠洲原住民の衣食住に就いて簡單に述べて見たいが、大陸の地域及時代に依り相當に差異があることは認めなければなぬ。

第一の衣に關しては、殆んど記述すべき何物も無いと言つて差支無い。全裸と言つて好い。僅に人間の頭髪を捻つて作つた細帶を締め、前部に羽毛の房を垂らす程度に過ぎない。英國が植民するに至つた以後、牧場等に使役される原住民も衣服を纏ふ事は健康にも害があるらしく、『歸へ歸ろ』の一言と共に、衣服をかなぐり捨てて姿を消すに至ると言はれる。

第二の食に就いては、チャールス・エッチ・ホームスが『大陸は原住民の食料庫』だと言つた一言が一切を說明する。然し此一言の持つ意味は濠洲大陸には食料が豊富だと言ふ事ではなく、乏しいから何でも食べなければならぬと解釋されねばならぬ。事實上、原住民が大陸の北部に到着した後、三團に分れて移動したのは、畢竟、食物を追ふて居を移した爲であり、一面此大陸は空虚であつたことを說明する事實である。彼等は生物は海陸の如何なるものも口に合はぬものは無く、食用とする野草の種類は二百種に及ぶと言はれる。カンガルーやエミューが珍味であるのは言ふ迄もなく、芋蟲さへ彼等の常食である。一部の人には彼等は人肉を喰ふと信じられて居るが、若し彼等が兇暴であり、野蕃であるが故に、人肉を喰んで常食とすると言ふのであるならば、多大の疑問を持つ。現實の問題として、カ





ーペンタリヤ灣附近の部族中には死者の肉を喰ふ習慣があるが、之は純然たる宗教的？　儀禮に過ぎない。唯極端な復讐心の發露として、敵手の肉を喰ふとか慄悍なる敵手の武勇を相續する爲に其肉は啖ふとか、大旱魃等に依る窮乏の結果止むに止まれぬ狀態は肯定出來る。

又彼等が火を造る方法を知つて居た一つの例證としては、焚火の煙の色に依り、相互の連絡通信を爲した一事を以て充分とするが、食物は火食よりは、生食を主とするものと考へる。火食の場合でも煮るよりは燒く方が常習であらう。水を運ぶに頭蓋骨を使用する程度では煮沸は例外となるのみならず腐肉すら口にする樣である。

第三の住も亦衣食に劣らず原始的である。彼等は家を持たぬ。此點から言ふと只に人類のみならず、動物に比較しても進化して居るとは言ひ兼ねる。彼等の家と言ふのは、穴を掘り風除けを立てて眠るか或は平地に屛風を立て、風下に横臥するに過ぎない。寒さに堪えぬ場合は、焚火で溫めた地上に寢る。寒くなれば、再び焚火の位地を變更する。目醒めて暖を取る場合には焚火を前と後に作る。之は甚だ合理的である。

土人は二本の棒切れによつて火を作る事を知つてゐる

上述の如く、彼等の生活樣式は現在人類中最も人文に遠く原始的であるに拘らず其社會制度に至つては相當復雜化されて居る。

濠洲の原住民は部族又は氏族に分れて居るが、其各族に酋

長又は首長があるか無いかの問題は一見簡單な樣で相當議論が岐れて居るが、無いと言ふ說が强い。色々の旅行記等から長老達に依る輕度の多頭政治と言ふ事が推論されぬでも無い。最も複雜な制度は婚姻に關するものであらう。北部クィンスランドで永く原住民に接して居つた一宣教師ルムホックの記錄によれば民族は二〇〇人から成立つて、男女共四階級に分割され婚姻は特定の階級間にのみ許される。任意の階級との婚姻が認められぬのみならず階級內部の緣組も不可能であると言ふ。然し氏族全體が災禍を祓ふ爲に妻を交換する事もあり、又、兄の死んだ場合、其妻は死者の弟の妻になる。之は最も適當に死者を弔ふ方法であると認められて居る。苛酷なる濠洲の自然の影響にも因るであらうが、乏しい食物の分配は極めて合理的に行はれ、老弱男女共公平に分配される狩獵用又は漁獵用の地域は共有であり、獵具も共有であることに依り、食物の公平分配の制度が確立されて居るのである。斯ふ言ふ各制度を通觀して、クロポトキンも其著 "Mu-

## 土人の文盲

土人は文字を持つて居ない。酋長が他の酋長に通信しやうとする場合は使者を出す。使者は通信棒を抱へ、目的の小屋に到着すると先づ合圖の掛聲を出す。これは誰にでも判るから、ぞろぞろ黑人達は使者の周圍に集り、何を云ひ出すかと待つて居る。彼等の言葉が使者に通じないと見ると使者は信號を初める譯である。例へば靑い木枝を振ると、それは平和の使ひで來て居ると云ふ意味であり、若し彼が髮を自分の口の中へ押し入れ唾と一緒にぷつと吐き出すと使者の種族が彼等に喧嘩を吹き掛けて來たのだと判讀するやうな類である。通信棒は多くの場合丸い一〇吋許りの棒で、表面に何やら刻み目がつけられてあり、これが回覽板の如くに土人の間に回讀されるのだ。

彼等は三つ以上の數を知らない。數へるのに『ひとつ。ふたつ。どつちもふたつ。ちいさんひとつ』と云ふた風に言ふ。或時土人が停車場で羊を數へて居た『ひとつ。ふたつ。ひとむれ。おおきなむれ。ひどくおおきなむれ』と漸く五つ迄算へて來たが、もういけない、どうしても六つを現はす言葉が分らない。又元に返つて算へ始めた。

土人を毆る場合でも三つ以上はいけないと云はれて居る。





Mutual Aid" 中で、之を原始的共產制度と考へて居つた。

又、家族內の爭は最年長者によつて審判され、同一氏族內の爭は、木製の槍と楯とを用ゐる決鬪に依つて黑白を極める。時には單なる通行人が、裁判官となり立法者となることさへある。

長老を尊重し、小兒を愛する事も非常なもので英移住民が原住民の女を獲んと欲する時は先づ其子を劫掠すると母親は唯々として奴隸となることを申出ると云はれる程であると言ふが、男子の成年式は極めて猛烈な方法が採用され其試練に堪えた者が一人前の男となり、妻帶の資格を認められる。濠洲原住民に近似せる濠洲領パプア人の間では小兒は共同で愛育する風習も見られる。

濠洲の原住民は一般に死を怖れる事が甚しい。然し宗教と定義し得る宗教は無い。唯、彼等以上の力の存在を信じ又、惡靈時に善靈の存在をも信ずる部族があるが、自分以上の力に賴つたり、祈つたりする事は無い。

前にも述べた如く、濠洲の原住民は素朴、正直である。本來、彼等は不可能な事は約束しないと同時に約束した事は實行すると言ふ尊敬すべき性格を持つて居たのである。數百哩の奥地へ原住民に物品を託送するを常とした或商人が一回も苦情を起した例が無いと證明して居る。

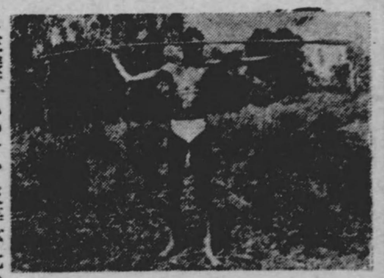
然し如斯從順無害な彼等も英國植民の開始に依り、白人の一步前進は原住民の一步退却を意味する樣になり、虐げられた生活は本來知らなかつた惡德に近接したのも當然であり、之は英國の罪である。

タスマニヤに於ける原住民虐殺は移住民其者が兇暴であつたに因ること勿論であるが、實は之が英國政府の政策であり、其指令下に行はれたことに疑ふ餘地が無い。濠洲に於ても同樣である。

原住民の大切な食料であるカンガルーや其他の動物が英植民の爲にどしどし銃殺されて減少し、之に牛や羊が置き替へられることになると、牛や羊を盜んで食ふとか、牧場の附近を彷徨して、牧草の根を掘り、水穴の水を飲んだとて、凡て之を原住民の罪に歸することは酷であらう。然るに、彼等は英國人に依り鼠の如く毒殺され、犬猫の如く撲殺されたのである。

新西蘭に於ては、英國人は勇敢なるマオリ族の爲苦戰を重ねたのであるが、濠洲に於ては、戰爭に代るに虐殺あつたのみである。

又、英國人の狡猾なる使嗾に依り部族間の鬪爭も釀され



**土人の武器**

濠洲土人の武器は極めて幼稚であつて、弓を持つて居ない。只投槍とブーメラン（歸去來と字を宛てた人があるが）とが主である。これは畢竟この大陸に兇暴な動物が居ない事を意味するのだと言ふ人もあるが、誠に左樣であつて、彼等が此の世で最も兇暴な生き物だと思つたのは恐らく紅毛碧眼の徒丈けだつたかも知れない。小刀、斧、鎌の類は悉く石片を削つて木の軸又は柄を附けたものに過ぎない。槍は長柄で時に十四呎に及ぶものがある。ウォメラー（womerah 或ひは wommera とも書く）と呼ばれる長さ三呎で刻み目を附けた棒の力を籍つてこの槍を投げると速度と距離がうんと延びる。西濠洲のフォレスト河流域の土人に專らこれを使ふと云ふ。木製の楯には部落の印を描いて居るが、その取手には白人の勞働者なら指二本も這入れば精々だと思はれるのに六呎時に七呎に及ぶ身長の土人の手が全部這入るのだ。仲々纖細な手の持主である譯だ。





た。シドニー大學の歷史學敎授シドニー・ロバーツは、英國人は些少にても原住民に不服の徵候があれば直ちに慘殺した。又牧羊業者は娛樂の爲に原住民を屢々狙擊した事を確認して居る。自國に都合の惡い事は發表せぬ故英國人側から詳細な數字を見出す事は不可能であるが、一七九四年に五〇〇人、一八〇八年及び一八〇九年に、三、〇〇〇人の大虐殺が行はれたと言ふ事である。小規模のものでは、枚擧に遑無い。

斯くて原住民の人口が著しく減少して行つたのは當然である。濠洲の或總督は此人口減少を指して原住民族の『自然的進步』と言ふ冷酷なる言葉を使つて居るが、之を見ても英國の政策が推知出來るのである。然し流石に斯かる非人道は本國に於ても非難を喚起するに至り、原住民の保護が叫ばれる樣になつた。

或る宣敎師の調べに依ると、英國人の入植當時原住民の人口は、一、〇〇〇、〇〇〇以上と言ふ事になつて居るが、政府公式の發表は其の四分の一以下に過ぎない。一七八八年英國が植民地宣言を發した年と一四〇年後の一九二八年の調査とを揭げて見るが、入植早々は原住民の人口調査等の出來る狀態でなかつたから、あの廣い不毛の大陸に分散した人口を如何にして調べたか、諒解し難いと共に數字そのものに信賴が置けない。

**第一〇六表　一七八八、一九二八年に於ける原住民人口**

| 州名 | 一七八八年 | 一九二八年 |
|---|---|---|
| ニュー・サウス・ウェールス | 四〇、〇〇〇 | 一、一九七 |
| ヴィクトリヤ | 一一、五〇〇 | 五三 |

| | |
|---|---|
| クィンスランド | 一〇〇、〇〇〇 |
| 南オーストラリヤ | 一〇、〇〇〇 |
| 西オーストラリヤ | 五二、〇〇〇 |
| 直轄北部地域 | 三五、〇〇〇 |
| 計 | 二四八、五〇〇 |

此表に明記してある各州の名稱は、一七八八年には行政區劃として存在しては居らなかつた。又表の示す原住民族の多寡は各地方の牧畜の進歩の程度を語る事が面白い。卽ち原住民人口の少い地方は白人の人口が多く牧畜も盛んであつた。つまり羊や牛の屠殺と土着住民の殺戮とが正比例したことになる。

原住民族保護政策も漸次考慮されることになつた。之に關する最初の立法と思はれるのは南オーストラリヤで一八四四年に制定し、一九一一年廢止された原住民族孤兒哺育法であらう。ニュー・サウス・ウェールス州が原住民族保護局を設立したのは一八八二年であり、ヴィクトリア州は一八六〇年に最初の保護法を可決し保護指定地を作つたが、約四〇年の間に指定地數は三一七から五三に減少し結局一ヶ所でも充分になつた。クィンスランド州の保護制度は、遙かに遲れて一八九二年に設定され、九七年には有效適切な方法を樹立した。卽ち多くの保護官と

## ブーメラング

ブーメラング Boomerang は濠洲土人獨特の武器で、其奇妙な働きの爲めに最も著名なものだ。板をへの字型に切り、端を削り落した、一見極めて簡單なもので用途に從つて數種類になつて居る。戰爭に使用せらるる物はへの字の角度が大きくて殆んど眞直に近く、且重い。地面を這ふ樣に飛び急に上昇して、敵に打ち當るのだ。狩獵用に使はれるブーメラングは目方が輕く、巧みにこれを投げると飛んで居る鳥を追つて樹の周圍をグルグル廻ると云ふ。獲物に當らないともとの位置へ舞ひ戻るのがブーメラングの珍妙とされる點で、少し風のある方向に向ひこれを投げると投げた人間の前から後へと大きな圓を描き次第に螺線狀の軌跡を描き最後に元の位置へ歸





指定地を設け、指定地の管理は政府は補助金を下附して多くの宗教團體に委任した。南オーストラリヤに於ては部族の大多數は奥地に住んで居るが、政府は南方海岸地方に二ヶ所の指定地を設けた。第三の指定地として此州の北西隅に設けられたのは二萬千方哩である。之に隣接して設けられた聯邦政府と西オーストラリヤ政府との二つの指定地がある。之は二つ共同大で、一つの廣さ六萬三千平方哩であるから、極めて滿足の狀態にある。此地域では原住民族は我が物顏に振舞つて居り、監督官が入り込むと、此處はお前等の來る處でない等と極めつけるさうである。西オーストラリヤが保護法を初めて通過させたのは一八八六年である。北部領域に居るのが最も數も多く同種族が集まつて居る。一九一〇年迄南オーストラリヤ政府の保護下にあつたが一九一一年より直接聯邦政府の監督下に入つた。指定地域三萬平方哩の他に、宗教團體に委任したのが一萬七千平方哩である。終りに一九三八年の人口調査を掲載しやう。

**第一〇七表　一九三八年に於ける原住民人口**

| | 居住 | 雇傭 | 指定地 | 其他 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|
| | 不定 | 人 | 居住 | | |
| ニュー・サウス・ウェールス | | 四四 | 二二二 | 三九〇 | 一五三　八〇九 |
| ヴィクトリヤ | | 一 | 三一 | 二八 | 三二　九二 |

つて來る。上手な土人になると遠の圓を描かせたり、或ひは螺線を描き乍ら垂直に舞ひ上らせたり、又ひは螺線を描き乍ら垂直に舞ひ上らせたりする。或人はこのブーメラングは古代埃及から渡つて來たのだと云ふが、これは大分可怪しい。更にこんな風にも言はれて居る。それはユーカリ——濠洲人はこれをガム・ツリーと稱へる——の葉が落ちる時恰度ブーメランに似た舞ひ方をし、これを投げると曲線を描いて後戻りをする。或時年老いた土人が、子供達がユーカリの葉を投げて遊ぶのをちつと凝視めて居たが、子供を嬉ばせやうとて、木でユーカリの葉型の物を作つて見た。投げて見ると奇妙な飛び方をする。これを見た他の土人達は早速眞似てこの木の葉型の木片を投げることを始め、色々改良し遂に此の前人未知の新武器を創造したのだと云ふのである。

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| クィンスランド | 一、六五〇 | 三、六九三 | 五、七六〇 | 一、〇五七 | 二二、一六〇 |
| 南オーストラリヤ | 一、三〇五 | 三九三 | 七八 | 三〇五 | 二、〇八一 |
| 西オーストラリヤ | 一五、一六八 | 四、五七七 | 一、四五七 | 六八〇 | 二一、八八二 |
| タスマニヤ | — | — | — | — | — |
| 直轄北部地域 | 七、四〇五 | 二、九五八 | 三、六九五 | 二九六 | 一四、三五四 |
| 合計 | 二五、五七三 | 一一、八七四 | 二、四〇八 | 二、五二四 | 五一、三七九 |

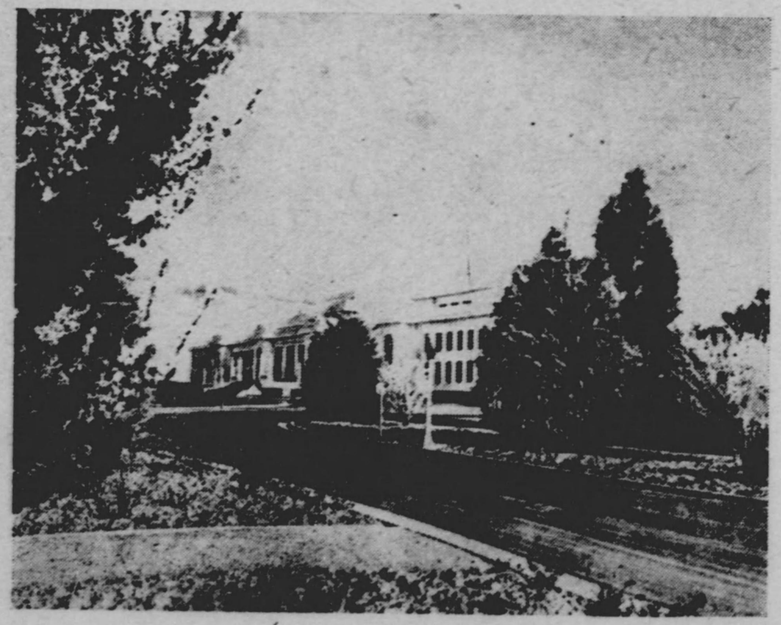
（註）一九三八年六月三〇日現在（純血種ノミ）

現在混血の人口は二四、七一八人（一九三八年六月末）であり、其の人口は増加の傾向にあるが、混血種は純血原住民からも白眼視され白人からも輕蔑される境遇にある。



# 第二篇

# 政治、經濟、交通



聯邦首都キャンベラの議事堂

# 第一章　政治及び行政機構

## （一）濠洲政治の理念

廣大なる處女地に白人の樂天地として建設せられた濠洲の政治は對内的にはデモクラシーを、對外的には白濠主義をその理念としてゐる。デモクラシー（Democracy）は十九世紀に歐洲を風靡した思想であるが、濠洲のデモクラシーは英國流の民主主義であり、米國或は佛國のそれとは異つてゐる。常識的な英國人はその實質に重きを置き、形式には拘泥してゐない。白人濠洲主義或は白濠主義（White Australian Policy）と稱せらるゝものは周知の如く、濠洲を白人のみの社會とすることを目的とし、有色人の移住を禁止するものであり、以て人種的文化的統一と、高き勞働賃銀の維持を目的とすると稱してゐる。

## （二）デモクラシー

濠洲の先住民たるアボリヂニーは白人の濠洲進出と共に次第に奥地に追ひ込まれ人口も減少してしまつたが、彼等は甚だ智能程度低き未開人であつて、新來の白人が繼承すべき何等の經濟組織も文化も思想も持つて居なかつた。それであるから、濠洲へ來た白人は土人を追拂つてその跡に白人の社會を建設したが、それは全く傳統に影響せらるゝ





處無く處女地に新來者が彼等の理想とする處を實施し、理論を實驗することを得た次第である。濠洲の人口の九九%以上が白人であり、その九五%が英國人であることは前述した處であるが、從つてその思想及び文化は英國のそれであつた。只異る點は英國が古き傳統を有し貴族を有するに對して、濠洲には歷史無く平民丈けしか居らぬことである。金鑛發見と共に濠洲に流れ込んで來た移民達の中には歐洲の革命時代の洗禮を受け、デモクラシー思想の鬪士がかなりあつた。彼等の主張は金採掘者連の間に急速に擴められた。一八五〇年以前に於てはスクオッターが經濟的にも政治的にも絕對の權力を有し支配階級をなしてゐたのであるが、ゴールド、ラッシュ以後は『數は力なり』の例に漏れず、金採掘者達が濠洲に居着いて各種の產業に從事するに從つて次第に勢力を增し、政治權力のバランスは次第に前者より後者へと移りつゝあつた。歐洲に於ける革命に次ぐ革命も實際上には民主々義的に大した發展がなされず、又民主々義の理論が傳統的英國紳士によつて恐怖せられてゐた一八五〇年代に於て、民主々義的な濠洲各植民地憲法は制定されつゝあつたのである。

濠洲各植民地の自治權は一八五〇年に英帝國法によつて確認された。各州は夫々憲法を制定して英國議會の承認を求め一八五五年にはニュー・サウス・ウェールスに責任內閣制度成立し、翌一八五六年にはヴィクトリヤ、南オーストラリヤ、及びタスマニヤに自治制が施かれた。クィンスランドは一八五九年にニュー・サウス・ウェールスより分立し獨立植民地となつたが、西オーストラリヤは人口過少と財政貧弱の爲一八九〇年に到つて始めて獨立した。各植民地の憲法は何れも大同小異の二院制を採用した。上院はニュー・サウス・ウェールスに於ては總督の指名、其他の植民地に於ては、有產者の選擧に依つた。下院はヴィクトリヤと南オーストラリヤでは男子普選により、其他の

地に於ては小額の財産所有を條件とする制限選擧に依り代議士を選出する制度となつてゐる。例へばニュー・サウス・ウェールスに於ては一〇〇磅以上の不動産を所有するか、年に一〇磅以上の家賃又は地代を拂ふか、又は年に四〇磅以上の下宿料を支拂ふ者は選擧權ありとせられてゐた。然し之等一八五五年及び一八五六年の憲法はデモクラシー政府の端緒に過ぎず、其後濠洲政治のデモクラシー化は着々と進み、一八五八年には無記名投票制が、一八七四年には議員三年改選制が、一八八九年には議員俸給支拂制が實施せられ無産庶民の立候補も可能となつた。又前記の通りヴィクトリヤと南オーストラリヤとは最初から普選であつたが其の他の植民地も一八九三年迄には全部男子普選となり、一八九四年には南オーストラリヤは婦人にも參政權を與へ先鞭をつけた。現在は聯邦及び各州共比例代表制と選擇投票制を採用し議會の代表者を最も民意に近からしむることに成功してゐる。

## (三)　白濠主義

白濠主義は濠洲開國當初からの濠洲の主張では無い。之も他の多くの濠洲の問題がさうである様に、金鑛發見と共に起つた問題である。

ウェークフィールド (Edward Gibbon Wakefield) の土地開發計畫では有色人種使用の件が議論されてゐるし、一八三〇年以後、地主は支那の苦力を輸入せんことを屢々政府に請願してゐる。一八四三年頃シドニー・モーニング・ヘラルド紙は亞細亞への道を熱心に求めて居り、その社說に於て『亞細亞は人口過剩であり、濠洲は人口稀薄である、何故に過剩の人口を以て濠洲の空地を埋めざるや』とさへ論じてゐるのである。然し事實上は當時の印度或は支那は





安價にして信賴し得る勞働力の供給地とはなり得ず、之等亞細亞諸國からの移住者も極く少數に限られてゐたのである、勿論當時には、亞細亞人に對しても何等の移民制限は無かつたのであるが、この時初めて亞細亞人にとつても濠洲が希望の地となつたわけである。招ねかざるに續々と亞細亞人の移住が起つた。その大部分は苦力階級の支那人であつた。金鑛發見以前は全濠洲を通じて恐らく三千人位しか居なかつた支那人は一八五七年にはヴィクトリヤ丈けでも三萬乃至四萬人を算するに到つた。この支那人達は他の國々から集まつた砂金掘りとは大いに趣を異にしてゐた。その大部分が支那資本家によつて庸はれてゐる苦力で、彼等は恰も奴隷の如くに働き、金は鐚一文も使はず、他の砂金掘りと協力したり共同社會を作ることをなさず、一個別の集團をなしてゐた。その生活の不潔なること生活程度の低きこと、品性の下劣なること等は、他の砂金掘りの反感の的となり、金鑛區へ支那人立入り禁止が大聲に時には强硬に叫ばれた。又支那人襲撃の事件

**ゴアナ (Goanna)**

蜥蜴の一種で或人は『涎掛の樣な羽根を頸に掛け』と形容したが濠洲が持つ珍獸の一つに數へて良い、普通でも蜥蜴は氣持の良いものではないがこのゴアナと來ては正に鬼面人を驚かすの類ひだ。

胴の太さは精々大人の手首位ひなのに顏と來ると、今云つた涎掛の加減で大人の顏位ひあるから魂消るのだ或夜も私が事務所からの歸りに道傍でがさりと音がしたのでひよいと見上げたら岩の上にによつきり顏を出したのがこのゴアナの奴だ。月光を浴びたこの濠洲產『ジャガタラ首』には思はずぎよつとした。

さへ時々發生した。異人種に對する素朴なる人種的偏見が原因であつたこともあらう。

斯くて一八五五年から一八六一年の間にヴィクトリヤ、南オーストラリヤ、及びニュー・サウス・ウェールスの三獨立植民地に於て支那人移民制限法が制定された。この法律が出來ると間も無く金の産出減でその必要が無くなり、法律は廢止され、其後當分支那人の移住に何等の制限も無かつた。一八七五年にクィンスランドのパルマー河(Palmer River)に金鑛が發見され再び支那人の大量移住が繰返された爲一八七七年同植民地は支那人移民制限法を制定し之が當分の間濠洲に於ける唯一の支那人移民制限規定であつた。

一八八〇年に到つて、一つは濠洲の一船會社が支那人火夫を一ケ月給料二磅十五志で傭入れ、今迄八磅を支拂つてゐた濠洲人火夫に漸次代置し始めたることに原因する白人勞働者の罷業と、一つは米國のカリフォルニヤ州が支那人に門戸を閉鎖したる爲に支那人が濠洲に大量移住し始めたることが契機となり、支那人問題が再び世論に取り上げられ、植民地會議に附議せられ、一八八一年移民制限法がニュー・サウス・ウェールス、ヴィクトリヤ、南オーストラリヤの三獨立植民地に夫々發布せられた。當時尙英國の直轄植民地であつた西オーストラリヤは一八八六年に制限法が制定され、翌一八八七年タスマニヤも同列に加はつた。(北部地域は當時南オーストラリヤに屬して居り、制限法は一八八一年には除外されて居り、一八八七年以後適用を受けることゝなつてゐた。)

之等の法律は支那人の移住を禁止するものでは無く、制限するのが目的であつた。處が支那政府の英國政府に對する抗議、及び新たなる支那人の流入に刺戟されて改正せられた一八八八年の法律は形式上はさうでは無いが、實質上に於ては支那人の入國を禁止するものとなつた。更に濠洲國民一般の感情は支那人のみならず亞細亞人一般の入國禁止





**蛸來蝦蟇の油由來**

濠洲にはあの大きな大陸に似ず河に乏しい。只マレー河(Murray)は素敵な流れて最も上流で合流するコンダマイン河(Condamine)の源から河口迄は四、〇〇〇哩に近い。ヴィクトリヤ州とニューサウス・ウェールス州との境を流れるのだが五〇〇哩で水位の差僅かに五七呎と云はれて居る、扨てこのマレー河の上流に私の所謂鬼面人を驚かす底のゴアナ(Goanna)が澤山棲んで居るのだ。處が此地方に虎蛇(タイガースネーク)と呼ばれる最も强烈な毒蛇が居る。長さは一米が精々だが體に斑點がある處から虎と呼ばれたものらしい。このマレーの虎とゴアナが喧嘩をやる。ゴアナは頸の邊りに虛點があるらしく蛇は頻りにこれを狙ふ。ゴアナはゴアナで相手の弱點を知悉して居りこの格鬪は誠に看物だと云ふが、ゴアナが一度敵に己れの虛點を噛まれると直ちに戰鬪を停止、愴惶として何處かへ逃げて行く。だが、不思議と、決して死なない、これに氣付いた某學者はこの傷いた小動物が一體何處へ行くものかと跡をつけて行つた相だ、處がその怪我をしたゴアナ先生頻りと何か草を食つて居たが見る見る元氣恢復して癒つたと云ふのだ。この草にこそ何やらん神祕な效目があるに違ひなしと、その學者先生はメルボルンに持歸り苦心研究の結果遂に偉大なる高貴藥を發見、市販に出したのが只今有名な毒消藥と効能書に書かれて居るのを御紹介迄、眞疑の程は保證の限りではないが、蛸來蝦蟇の油の由來右の通り。

と言ふことに傾いて居り、其の禁止方法は英國の植民地省(Colonial Office)も反對ではなかつたから聯邦成立前にも實施される運びとなつてゐた。それ故亞細亞人排斥は一九〇一年聯邦の成立と同時に移民制限法の名の下に法律となつて顯れた。卽その規定は『移民官の出題せる歐洲語(a European language)五〇語の書取を完全に爲し得ざりし者の入國を禁止することを得』とあるのであつて、何國語を課するかは試驗官の自由なのであるから、濠洲の欲せざる移民を禁止することは甚だ容易である。一九〇五年日本政府の抗議により、『歐洲語』は『指定せられたる一國語』(any prescribed language)と訂正せられたが、唯面子の問題に止まり、實質的には何等の變更は無く、今日に到つてゐる。

白濠主義の目的は同種人種の國家建設及び低賃

銀勞働者の流入禁止による白人勞働者の高賃銀維持にあると主張されてゐる。この目的は二つ乍らに達成せられてゐる。卽濠洲人口の九九%以上が白人であつて然もその大部分（九五%）が英國人であることによつて傳統或は文化の相違による相剋の惱みは濠洲には無い。又濠洲の勞働者の賃銀の高率なること從つて生活水準の高きことは世界的に認められてゐる處である。斯る主義が吾々東洋人の許容し能はざるものであり世界人類の正義にも反するものであることは言を俟たざる處であるが、濠洲人の立場からすればその樂天地の建設に不可缺の要件であると考へられ、亞細亞人移住禁止は元々勞働黨の主張ではあるが、今日では濠洲人一般の信條となりこれを敢えて怪しむ者も無い狀態である。第一次大戰後の世界平和會議に我國代表西園寺公の提出せる「人種平等案」が白濠主義を危殆に瀕せしめるものなりとして、濠洲代表ヒューズが遮二無二反對して不成立に終らしめたことは別項に記載の通りである。

因に濠洲の外交を述ぶれば、それは純然たる英本國追從主義と云ふよりも英本國一任であつた。一九三一年のウエストミンスター法（Statute of Westminster）によつて、濠洲も加奈陀南阿の御相伴で英本國と同一の地位を獲得したのではあるが、獨自の外交官を外國に派遣することも無く、外交は英國の外交官に一任の形であつた。只メンヂース內閣になつて太平洋の各國に公使派遣を決定し一九三九年には時の藏相ケーシー（Richard Gardiner Casey）を駐米公使に一九四〇年末嘗ての訪日親善使節現大蔕院長レーサム卿（Sir John Latham）を駐日公使に任命して、濠洲獨自の太平洋政策を行ふやに見えたが、濠洲の太平洋に對する認識は甚だ不滿足なるものであつた。それは一九四一年七月に到つてイグルストン（T. W. Eggleton）を駐支公使として重慶に派遣することに決定した一事がよくこれを說明してゐる。





## （四）行政組織

ニュー・サウス・ウェールス、ヴィクトリヤ、クィンスランド、南オーストラリヤ、西オーストラリヤ及びタスマニヤの六個の植民地が夫々獨立の政府を持ち各別個に發達して來たものが一九〇一年に到つて聯合し聯邦を組織したことは旣に述べた處である。之等六個の獨立植民地は軍事外交等の共通問題を聯邦政府に移讓した丈けで其他の問題に關しては尙各州夫々獨立の議會と政府とを有し、立法を行ひ、政治を行つてゐる現狀である。英國皇帝は聯邦に對して聯邦總督（Governer-General）を六個の各州に對して各一名の州總督（State Governers）を任命し、之等總督が英國皇帝を代表し最高行政權を有するのであるが、實際の行政は聯邦及び各州の責任內閣によつて行はれてゐる。卽ち聯邦及び各州に夫々上院及び下院があり之等が立法を行ひ、下院の多數黨が責任內閣を組織し、行政に當る等英國の組織を其儘採用してゐる。只クィンスランド州は一九二二年に上院を廢したから一院制である。卽ち濠洲には七個の政府（聯邦一、州六）と一三の議會があるわけであつて、その議員は六〇九名に上る。

全體で東京市位の人口しか有しない濠洲に斯くも多數の政府と議員があると言ふことは一見無用の樣でもあるが、その土地の廣大なることを考へれば一概に貶す譯にも行かない。濠洲に只一箇の中央政府のみとしようとの議論も無いでは無いが、現在の聯邦制度の下に於てさへ、人口の多いニュー・サウス・ウェールス州とかヴィトリヤ州とかが利益を壟斷し、商工業の方面にのみ保護の重點が置かれるとの理由で、人口の少い牧農業を主とする西オーストラリヤ州やタスマニヤ州は不滿で、聯邦より離脫の運動さへある程である。

第201表　濠洲聯邦及び各州議員數

| | 聯邦 | ニュー・サウス・ウェールス州 | ヴィクトリヤ州 | クィンスランド州 | 南オーストラリヤ州 | 西オーストラリヤ州 | タスマニヤ州 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 上院 | 36 | 60 | 34 | — | 20 | 30 | 18 | 198 |
| 下院 | 75 | 90 | 65 | 62 | 39 | 50 | 30 | 411 |
| 合計 | 111 | 150 | 99 | 62 | 59 | 80 | 48 | 609 |

聯邦政府は軍事、外交、貿易及び關稅、前大戰關係事務(戰債の償還、年金の支拂等)不具及養老年金の支拂等濠洲全般に亙る事項及び其の直轄地(北部地域、首都地域)並びに英領ニュー・ギニヤ及びノーフォーク島の行政を行ひ、更に前獨逸領ニュー・ギニヤを濠洲單獨の委任統治地として、又ナウル島を英・濠・新三國の共同委任統治地としてその管理に當つてゐる。各省の種類及び其の經費については本篇第二章財政の中『聯邦政府經常歲出』として掲げておいたから就いて見られ度い。各州政府は鐵道、警察、教育、社會施設、各種産業の監督等を掌ることになつてゐる。各州政府の省の分轄は夫々異つてゐるが、その行政及び經費については第二章財政の中『各州經常歲出入』によつて大體を知り得るであらう。

## (五)　議會及び政黨

聯邦の上院は三六名の議員より成り各州より六名づつ選出することになつてゐる。議員の任期は六年であるが、議員の半數づつ即各州三名を三年毎に改選する。州全體が一選擧區をなし各政黨が代表者三名を出し最多數の投票を得た政黨の代表者三名が當選する仕組である。

下院の議員數は上院の議員數の二倍に出來る丈け近からしむる規定であり各州が人口





の割合に應じて議員を選出するが各州の最少人數は五名と憲法に規定されてゐる。現在の議員數はニュー・サウス・ウェールス州二六人、ヴィクトリヤ州二〇人、クィンスランド州一〇人、南オーストラリヤ州六人、西オーストラリヤ州五人、タスマニヤ州五人、北部地域一人、合計七五人である。北部地域の代表者は議論には參加し得るも原則として議決權は無い。議員の任期は三年、州を議員數の選擧區に別け各選擧區より一名宛選出する。而して上下兩院議員選擧共に男女の普通選擧によつてゐる。

各州の上院及び下院の議員の選擧は各州により相違があるが現在では大體職邦議員の選擧方法と大同小異になつてゐる。

デモクラシーの政治は卽ち政黨政治である。近來濠洲には聯邦並びに各州を通じて主なる政黨が三つある。勞働黨統一濠洲黨地方黨之である。

勞働黨(Labour Party)には其の主張の穩健なるものから共産主義的なものまで數種の團體があり相互に爭つてゐたが、最近はカーチン(John Curtin)を首班とする聯邦勞働黨(Federal Labour Party 略して F. L. P.)が主流をなし、勞働黨は大體之に統合されて來た。勞働黨は申す迄も無く勞働者の利益を代表し、産業の社會化を目的としてゐる。卽ち大土地所有の打破、銀行の國營化、保護關稅による國內産業助成等を政策に掲げ『濠洲人の濠洲』(Australia for Australian)を主張してゐる。その中核體をなすものは、勞働組合である。共産黨は各種の勞働組合に這入り込んでは居るが、政治的には大した勢力は無い。蓋し常識的な英國人より成る濠洲の社會にあつては、その主張は勞働者達にも入れられないものがあるのであらう。

濠洲には保守黨と稱すべきものは存在しない。統一濠洲黨（United Australian Party 略して U. A. P.）は自由主義的で、社會の各層を代表してゐる。勞働黨の『濠洲人の濠洲』或は『濠洲第一』（Australia First）の主張に對して『英國第一』とは言はないが、英國追隨主義であり、英國に賴らずしては濠洲は存續し得ないと考へてゐる。それ故一九三八年の總選擧に當つて勞働黨は濠洲人の濠洲を唱へ、國防も濠洲一本立にて出來る樣計畫の必要あり、それには廣大な土地と長き海岸線を有する濠洲の國防は空軍による他無しとて空軍の擴張を主張せるに對して、統一濠洲黨は濠洲の國防は英國の海軍との協力に俟つの他なしとて、濠洲海軍の擴張を主張した。貿易政策に於ては商工業者の保護を目的とし保護政策的ではあるが、英國の利益も無視し得ずとなし、英國特惠主義である。

地方黨（Country Party, 聯邦議會に於ては United Country Party 通稱 U. C. P.）は其の名の示す如く地方農牧業者の利益を代表してゐる。その主張は農牧產品の輸出市場を世界に求め、その代り製品を安く海外より輸入して農牧業者の利益を計らんとする點に於て、その貿易政策は自由主義的であると言へよう。

勞働黨內閣になる前の聯邦及びニュー・サウス・ウェールス州は、統一濠洲黨と地方黨との聯立內閣であつたし、ヴィクトリヤ州は地方黨と勞働黨の聯立內閣である。それ故濠洲の政黨を勞働黨と反勞働黨との二者に分類することは粗雜なる見方と言はねばなるまい。第三黨なる地方黨は一般的には勞働黨とよりは、むしろ統一濠洲黨との協力を好むと言ふことは言ひ得るであらうが其の政綱の讓步によつては、その何れとも協力するに吝かでないと言ひ得る。

各政黨が相互に相手の政策と相入れずと主張するのは當然で、其の批評を見るに、勞働黨は共產主義に同情を有し、英帝國に忠實ならず、又アイルランド・カトリック教徒に左右されてゐると言はれてゐる。又統一濠洲黨は特權業者





（特に濠洲の製鐵界を一手に納めてゐるブロークン・ヒル株式會社）及び都市商工業者の代辯者であり、その黨費は大企業家から出てゐると攻擊されてゐる。地方黨は狹隘な地方主義者であり、反時代的であると非難されてゐる。此等の批判は何れも幾分は當つてゐるであらう。然し事實上において濠洲の政黨程その政綱が似たり寄つたりの處は少い。それは濠洲が人口稀少なる上に、豐富なる資源は未開發であるから、國家の安全と繁榮との爲には人口の增加を絕對必要とするけれ共、それは現在の高き生活程度を維持する底のものでなければならぬと言ふ點に於て濠洲人の意見は一致して居り議論の餘地が無いからである。濠洲は新西蘭と共に世界中に於て社會政策の最も進んだ國と謂はれてゐるのであるが、その社會政策にしても最初は勞働黨の主張であつたものが、後にその反對黨の內閣によつて實現されたものが非常に多いのである。

因に現在政權を握れる政黨及びその內閣成立の年月を示せば次の通りである。

（一）聯邦　勞働黨　一九四一年十月
（二）ニュー・サウス・ウェールス州　勞働黨　一九四一年五月
（三）ヴィクリヤ州　地方黨・勞働黨聯立　一九三五年四月
（四）クィンスランド州　勞働黨　一九三二年六月
（五）南オーストラリヤ州　統一濠洲黨　一九三八年十一月
（六）西オーストラリヤ州　勞働黨　一九三九年四月
（七）タスマニヤ州　勞働黨　一九三九年六月

即ち勞働黨が壓倒的に勢力を占めてゐる。

## （六）政界の近狀

**（イ）ライオンズ内閣**　一九三一年末の總選擧に於て統一濠洲黨は三九の議席を得、絶對多數を獲得して勞働黨内閣を倒しライオンズ首相（Lyons）の下に單獨内閣を組織したが、三年後の總選擧に於ては勞働黨が八の議席を回復し、それ丈け聯合濠洲黨の議席を減じた結果、同黨のみにては議會の絶對多數を獲られず、聯合地方黨の支持を求め聯立内閣を作つた。かくて更に三年後の總選擧でも尚政府黨は勝を占めたが議席は減じ民衆の支持は次第に勞働黨に傾くかに見えた。元來時計の振子の如く左右兩黨が交互に内閣を組織して來た濠洲に於て斯くも長く一黨が政權を握ることは珍らしい現象であるが、之はライオンズ内閣が一九二九―三〇年の不況の後を受けてよく經濟回復に成功した點を買はれたものであらう。

**（ロ）メンヂス内閣（R. V. Mennies）**　一九三九年四月ライオンズ黨主の急逝によりメンヂス氏が後繼黨主に選擧されたが聯合地方黨は同氏の下に聯立内閣の繼續を潔よしとせず、メンヂス氏は統一濠洲黨のみにて單獨内閣を組織するの已むなきに至つた。其顏振れは小壯閣僚に富み且つ統一濠洲黨一黨より成るものであつたから新鋭内閣の感を抱かしめたが、議席の少きことは其政策の遂行に就て種々困難があつた。斯る情勢の下に一九三九年九月第二次歐洲大戰を迎へ九月三日英國の對獨宣戰に遲れること僅か數時間にして濠洲も亦獨逸に對して宣戰を布告した。そしてメンヂス首相はラジオを通じ、英國に對して人的物的の全幅支持をなす事を誓ひ濠洲は英國と運命を共にすべきことを聲明した。其後一九四〇年三月聯合地方黨の黨主更迭により再び同黨との聯立内閣が成立した。更にメンヂス氏は今次大戰の重大性を說き勞働黨の參閣を要請したが勞働黨々主カーチン氏は五月の下院で入閣絶對反對の聲明をした。そして十月には又總選擧の時期が到來したのである。

### コアラ小熊

南半球に懶者が二種居る。一つは南米アマゾンの流域に住む「ナマケモノ」と他は濠洲の珍獸で俗名「コアラ」と呼ばれるものだ。懶者では餘りひけを取らぬ南米土人から「ナマケモノ」と云はれる丈けあつて、此れの無精は全く徹底的だ。何もせず朝から晩迄只森の中にぶら下つて暮す。そして多くの場合昏昏と睡つて居る。睡つて居る時は顏を隱す。小さな顏だからわけもなく隱れて了ふ。さうなると何處が顏やら尻やらてんで分らんだけなら未だ良いが、どう見ても動物とは受取れぬ、鳥の巢かさもなくば古い南京袋を吊した樣だ。この先生は猿の一種だが、濠洲の方の先生は亦の名を熊native bear. だと云ふのだ、熊とあらば定めし凄しいものだらうと想像するだらうが、見て喫驚。なんと大型の玩具の熊位ひの大きさしかなく小さな圓らな眼と、腸詰を切つて喰付けたやうな恰好をした鼻を見ると、こつちの方が馬鹿にされたやうだ。加之「ユーカリ樹」の新芽しか喰へないと云ふ情無い代物なのだ。何時も睡つて居る。もひとりの先生の樣に樹にぶら下つて睡る藝當は出來ぬが樹の股か何處かで絶えず惰眠を貪つて居るのだ。エネルギーの消耗を最小限にするには睡るに限ることを此先生達克く承知して居る譯だ。

## （八）一九四〇年總選擧

政府黨は『この國家非常時に總選擧に時間と勞力と費用とを浪費することは策の得たるものに非ず』となし總選擧の延期を主張したが、勞働黨は「否むしろこの非常時局にこそ何人に政權を執らしむべきかの民意を問ふ必要あり』と主張し終に總選擧が行はれることになつた。大戰爭勃發當時の勞働黨の對戰態度は孤立的濠洲第一主義的であり同黨の英本國に對する忠誠には多少危惧の念が置かれてゐる程であつた。然し同黨の態度

も戰爭の發展につれて漸次變化し戰爭當初に於ては濠洲軍海外派遣に反對であつたカーチン氏も間もなく若し勞働黨が政權を握つてゐたら矢張り現內閣と同樣の手段を採つてゐたであらうと聲明するに至つた。

斯くて政府黨と勞働黨との間には戰爭遂行に關する限り全く意見の相違無く、只その國內政策に於て多少の相違があるに過ぎなかつた。政府黨は『先づ全力を擧げて戰に勝て、總てのことは戰勝の後だ』とのスローガンを揭げたるに對して勞働黨は『戰勝の謀をなすと同時に今から戰後の對策を講ぜよ』と應じた。又同黨の社會政策の一端として兵隊の給料の增額や諸種の年金の增給を主張した。長年の統一濠洲黨及び地方黨の政治に倦んだ民衆の投票は大分勞働黨へ傾き選擧の結果議席の配分は勞働黨三六に對して與黨側三七となり、後者から議長を出すとキャスチングボートは完全にヴィクトリヤ地方黨のアレキサンダー・ウィルソン氏の手に握られることゝなつた。これより先メンヂス氏は今回の總選擧に當つて政府黨が勝てば再び勞働黨に擧國一致內閣を提案すべき旨聲明してゐた。選擧の結果メンヂス內閣は議會に於て絕對多數を占め得ず、又擧國一致內閣は識者の支持を得てゐる樣に見受けられたが依然勞働黨の贊成を得られなかつた。そして勞働黨は入閣を拒む代りに軍事諮問會議の設置を提案した。これは國防並に戰爭遂行事項について政府に答申する機關であつて、政府側と反對黨と各四名の委員を以て構成するものである、メンヂス氏は勞働黨が入閣を肯んぜざる以上次善的措置として本案を採用する外無かつた。

一九四〇年十一月の議會にメンヂス內閣が提出したる一九四〇—四一年度豫算原案は未曾有の巨額なる二七四百萬磅に上るものであつたが、之が內譯は濠洲聯邦內軍事費一四三百萬磅、海外派遣軍々事費四三百萬磅一般經常費八五百萬磅、小麥救濟費其他四百萬磅である。軍事費は前年の三倍半、前々年度の一四倍以上に上つてゐる。この豫算案





に對しては豫め軍事諮問會議にかけ勞働黨側委員の贊成を得てあつたものにも不拘議會で問題となり、政府は種々工作の結果漸く議會を通過せしめたのであつた。

### （二）メンヂス首相の訪英

一九四一年一月メンヂス首相は英國政府の招聘に應じて訪英の途に上つた。先づ近東及び埃及戰線に濠洲海外派遣軍を慰問激勵し、ロンドンに於てはチャーチル英國首相を始め政府の要人に面會、英國の閣議にも列席して戰爭遂行に關する英、濠協力問題、特に西南太平洋防衞問題について意見の交換を行つたと言はれてゐる。それより加奈陀及び米國を經てルーズベルト大統領にも會ひ約四ヶ月の後五月二十四日シドニーに歸着した。歐洲の戰地に臨み、現實にロンドンの空襲を浴び獨逸の實力を目のあたりに見、且つ又歸途米國に於て同國の武器供給も當分見込み薄き實情を知つて歸國したメンヂス首相は歸濠即日二十四日のラジオ放送、二十六日シドニー公會堂の歸朝報告演說會、二十八日の聯邦議會と立て續けに獅子吼し、濠洲人の今次大戰に對する樂觀を戒め勞働爭議を中止し更に一層の經濟臨戰體制强化の必要を說き、更に政治家は戰爭の遂行に全力を盡して尙日足らざるの今日、又英本國では政爭全く跡を斷ちたる今日、自分が濠洲に歸着して再び元の政黨爭ひを續けなければならぬことは痛恨これに過ぐる無しとまで極言した。時偶々南オーストラリヤ州ブーズビイの補缺選擧が行はれて居り、勞働黨は同黨がこの選擧に勝てば下院三七の議席を得て與黨より一票多くなるから、メンヂス內閣に辭職を要求し勞働黨內閣を組織すると聲明してゐたからである。幸にしてこの補缺選擧區は統一濠洲黨の地盤であつたから政府與黨の壓倒的勝利に歸したけれ共、この濠洲の政黨爭ひはメンヂス首相ならずとも所謂政治屋連の時局認識を疑はしむるに充分であつた。

又メンヂス氏は右獅子吼に於て三度擧國一致内閣を提案し、この大英帝國存亡の危機に直面し小異を捨てゝ大同につかんことを要求し勞働黨に半數の閣僚の椅子を與ふることを申出た。元來雄辯家なるメンヂス首相の演説は英米四ケ月に亙る旅を終へて更に一層の熱と力とを加へ聞く人をして納得せしめずには置かぬ慨があつたが勞働黨は執拗に入閣を拒絶した。蓋し勞働黨としては全幅的意見の一致を見ざる擧國内閣を組織するよりは軍事諮問會議にあつて政府の施政を批判することによつて一層有效に戰爭遂行に貢獻し得ると言ふことにあつた。然し實際問題としては政權が勞働黨の鼻の先にぶらさがつてゐる以上今更らメンヂス氏の下に入閣することは潔よしとしないと云ふのが本音であつたらう。首相を自黨から出すなら擧國内閣も考へやうと言ふ腹であつたと思はれる。

### （ホ）メンヂス首相の退却

斯くて又々メンヂス首相提案の擧國内閣は不成功に終り同氏は六月政府與黨のみにて内閣の改造強化を斷行し戰爭遂行に邁進せんとしたが、八月末に到り勞働黨の猛攻に堪え得ず遂に辭職して内閣の副首相であり、聯合地方黨の黨主であるファデン氏に首相を讓つた。メンヂス氏は確かに濠洲の政治家中稀に見る有爲な人物であるが、その押しの強さによる實行力が獨裁主義者なる感を勞働黨に與へ、又同黨が時代の寵兒ブロークンヒル株式會社を國有とせよと主張せるに對して反對せる爲、資本家の傀儡なりとして勞働黨の反感を買つたものと思はれる。

### （ヘ）カーチン勞働黨内閣の成立

然しファデン内閣も永くは續かなかつた、十月三日の議會で豫算案をめぐる信認投票で三十六對三十三票で破れ總辭職を決行した。原因は勞働黨が國民負擔の公正なる分配を獲保する爲豫算案の再編成を要求したのが切つかけとなつて信認投票となり政府が敗れたのであ





る。斯くて十月六日にはカーチン氏を首班とする勞働黨内閣が成立し、翌七日には内閣は前内閣の政策を踏襲して、今次大戰に對しては飽く迄完全なる勝利を目標に邁進する意向であると聲明した。而して十月二十九日の聯邦議會に提出された一九四一―四二年度豫算案を見るにファデン前内閣の致命傷たりし三億一千九百萬磅の豫算案より更に膨脹して實に三億二千五百萬磅に達して居り、政府としては既定の方針通り社會政策的施設の基底の一端として軍人給與の增額各種年金の增給等經常費に於ても支出の增加を來し居り、又軍事費は聯邦内の支出一億六千二百萬磅海外派遣軍々費五千九百萬磅合計二億二千一百萬磅となつてゐる。歳入の側に於て個人所得稅の累進率の增加や會社收益に對する重課は同内閣の主張たる租稅負擔能力說を極度に適用せる處にして當然なるも、ビール、マッチ、煙草等に對する消費稅即ち所謂大衆課稅の引上げをもなしてゐることは意外の感に打たれる。一九三一年以來雌伏十年、餘所目には隨分無理をして政權を握つた様に見えるが、さてその局に當つて見るとこの非常時にさう變つた策の無いことが漸次明瞭となりつゝある様に思はれる。

現勞働内閣の主なる閣員の顏觸れは次の通りである。

首相兼國防相　ジョン・カーチン

海相　ノーマン・メーキン

外相　ハーバート・エヴァット

陸相　フランシス・フォード

| | | | |
|---|---|---|---|
| 首相兼國防相 | ジョン・カーチン | 陸相 | フランシス・フォード |
| 藏相 | J・B・チーフレー | 空相 | A・S・ドレークフォード |
| 外相兼檢事總長 | ハーバート・エヴァット | 內相 | コリングス |
| 軍需相 | ジョン・ビーズレー | 情報相兼郵政相 | アシュレー |
| 海相兼武器相 | ノーマン・メーキン | 商務相 | ウィリアム・スカリー |

斯くて聯邦政府の政權は勞働黨に歸したものであるが、前述の如く現在六州の內西オーストラリヤ、タスマニヤ、クィンスランド・ニュー・サウス・ウェールスの四州は勞働黨の政權下にあり、ヴィクトリヤ州では地方黨との聯立內閣の形で勞働黨が政權に與つてゐる有樣で、統一濠洲黨の政權下にあるのは南オーストラリヤ一州に過ぎない狀態である。支那事變も遂に大東亞戰爭にまで發展した今日、デモクラシーと白濠主義の本家本元たる勞働黨が殆んど全部の濠洲の政治を背負つて立つてゐるのも因緣だらうが其の焦慮たるや察するに餘りがある。

# 第二章　財政

## (一)　戰前の財政

濠洲の財政は其の行政組織に應じて次の三者に分れる。卽ち





一、聯邦の財政
二、各州の財政
三、地方行政團體（市、郡、村等）の財政

之である。

聯邦政府の經常歲入は關稅、消費稅、所得稅、販賣稅、地租等の租稅收入が大部分を占め、外に郵便及び鐵道等の公企業收入其他の雜收入より成る。經常歲出は各省經費の外、各種の建設的新事業費（國防設備を含む）前大戰關係諸費、不具及養老年金、各州人の交附金、公企業經費等が主たるものである。歲入の特徵は關稅收入の大なることで、企業收入を含む全經常歲入の三分の一を占め、全租稅收入の四二―四五%に當つて居る。次に大きなものは租稅收入の二二%に當る消費稅であるが、之は主として酒及び煙草に對する稅金である。因に濠洲では日本と異り煙草は私企業に委せられ政府は之に消費稅を課して收入を計つて居る。所得稅は全租稅收入の一四―一六%に當つて居る。

經常歲出に於て先づ指を屈すべきは前大戰關係諸費であらう。之は前大戰に參加し不具となりたる將兵に對する年金、戰歿將士の寡婦及び子供に對する年金、戰債の利拂及び償還基金積立より成るものであるが、年々約二千萬磅に上る巨額を今尙支出して居ることは如何に前大戰の負擔が濠洲にとつても大であつたかを示すものであらう。不具及養老年金も年に一千六百萬磅の巨額に上つて居るが、之は別項で述べる通り出產補助金と共に濠洲の社會政策の顯れの一である。各州への交附金は、元聯邦成立迄各獨立植民地の歲入の主たる財源は關稅及び消費稅であつたのであるが、聯邦成立と同時に兩者を聯邦に讓渡することゝなり、各州殊に人口稀薄な南オーストラリヤ州、西オーストラリヤ州

## 第202表　聯邦政府經常歲入

| | 1937—38 | 1938—39 |
|---|---|---|
| 租稅 | 磅 | 磅 |
| 關稅 | 32,972,666 | 31,160,462 |
| 消費稅 | 15,410,339 | 16,471,903 |
| 販賣稅 | 8,023,886 | 9,308,334 |
| 小麥粉稅 | 3,025 | 1,808,972 |
| 地租 | 1,368,444 | 1,489,436 |
| 所得稅 | 9,398,503 | 11,882,440 |
| 住宅稅 | 1,872,654 | 1,915,352 |
| 其他（拂戻） | 1,032 | — |
| 租稅合計 | 69,048,485 | 74,036,899 |
| 直轄領收入 | 330,975 | 355,401 |
| 利子其他雜收入 | 2,910,751 | 2,796,089 |
| 公企業收入 | | |
| 郵便 | 16,732,201 | 17,350,491 |
| 鐵道 | 435,742 | 525,910 |
| 總計 | 89,458,154 | 95,064,790 |

及びタスマニヤ州は代償を得なければ財政樹立不可能なる爲、聯邦政府より相當金額を州政府へ交附すべきことが憲法中に明記してあり、この規定による交附金である。尙一九三七—三八年度の歲出と一九三八—三九年度の歲出とを比較して氣が付くことは國防費を含む新事業費の支出が增大せること及び陸海空軍三省合計の歲出が五百八十五萬磅より七百四十六萬磅に增額され世界の不安狀況を如實に示して居ることである。

各州政府の收入は第二〇四





## 第203表　聯邦政府經常歲出

| 費目 | 1937—38 | 1938—39 |
|---|---|---|
| 各官廳 | 磅 | 磅 |
| 總督費 | 35,067 | 32,765 |
| 議會 | 516,494 | 444,873 |
| 內閣官房 | 1,510,259 | 1,355,842 |
| 外務省 | 58,263 | 70,168 |
| 大藏省 | 2,403,259 | 2,582,362 |
| 檢事局 | 263,319 | 281,497 |
| 內務省 | 1,018,526 | 1,275,392 |
| 陸軍省 | 2,060,732 | 3,324,650 |
| 海軍省 | 2,497,783 | 2,755,085 |
| 空軍省 | 1,289,973 | 1,384,971 |
| 軍需省 | 523,550 | 596,653 |
| 民間航空省 | 129,043 | 328,150 |
| 貿易省 | 993,503 | 1,064,124 |
| 厚生省 | 402,003 | 338,155 |
| 商工省 | 1,149,511 | 1,208,927 |
| 小計 | 14,851,285 | 17,043,614 |
| 直轄領經費 | 1,057,126 | 1,099,960 |
| 新事業費 | 3,551,776 | 6,565,268 |
| 前大戰關係費 | 18,948,300 | 19,256,812 |
| 不具及養老年金 | 15,798,687 | 15,991,782 |
| 出產補助金 | 400,004 | 436,614 |
| 各州へ交附金 | 15,989,289 | 15,649,444 |
| 原始產業補助金 | 262,166 | 2,014,713 |
| 公企業支出 | | |
| 郵便 | 13,964,473 | 15,028,233 |
| 鐵道 | 1,140,315 | 1,351,041 |
| 總計 | 85,963,421 | 94,437,481 |
| 歲入餘剩 | 3,494,733 | 627,309 |

## 第204表 各州經常歲出入（1938—39）（單位磅）

| | | ニュー・サウス・ウェールス州 | ヴィクトリヤ州 | クインスランド州 | 南オーストラリヤ州 | 西オーストラリヤ州 | タスマニヤ州 | 州合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 歳入 | 租税 | 17,500,241 | 10,085,042 | 6,573,168 | 4,116,086 | 2,897,422 | 1,778,718 | 42,950,677 |
| | 官業收入 | 26,087,673 | 11,648,592 | 7,642,108 | 4,957,289 | 5,632,863 | 511,000 | 56,479,525 |
| | 官有財産收入 | 1,656,888 | 387,152 | 1,513,007 | 200,539 | 316,772 | 69,257 | 4,143,615 |
| | 聯邦ヨリ交附金 | 3,012,671 | 2,127,159 | 1,096,235 | 1,623,816 | 1,043,432 | 676,859 | 9,580,172 |
| | 利息 | 470,420 | 1,831,290 | 1,002,390 | 905,863 | 422,506 | 356,120 | 5,033,589 |
| | 雜收入 | 3,781,842 | 856,313 | 1,503,461 | 500,004 | 636,665 | 222,810 | 7,501,095 |
| | 合計 | 52,509,735 | 26,985,548 | 19,330,369 | 12,303,597 | 10,949,660 | 3,614,764 | 125,693,673 |
| 歳出 | 公債利拂及減債基金 | 14,552,613 | 8,229,626 | 6,649,227 | 5,130,411 | 4,352,728 | 1,243,074 | 40,157,679 |
| | 鐵道・電車・バス經營 | 18,251,807 | 7,693,973 | 6,023,318 | 2,703,907 | 3,154,633 | 707,199 | 38,534,837 |
| | 水道・下水費 | — | 432,362 | — | 347,997 | 296,064 | — | 1,076,423 |
| | 司法費 | 630,677 | 269,226 | 218,238 | 68,256 | 92,190 | 43,829 | 1,322,416 |
| | 警察費 | 1,652,061 | 815,733 | 586,914 | 303,446 | 255,673 | 119,016 | 3,732,843 |
| | 刑事費 | 375,331 | 126,555 | 40,560 | 50,570 | 32,382 | 21,069 | 646,317 |
| | 教育費 | 5,438,425 | 3,123,444 | 1,768,600 | 1,055,736 | 862,694 | 390,599 | 12,639,498 |
| | 厚生費 | 7,537,690 | 3,520,953 | 2,186,505 | 1,083,680 | 518,599 | 459,308 | 15,306,735 |
| | 其他 | 6,524,410 | 3,561,118 | 1,842,961 | 1,956,918 | 1,605,089 | 656,654 | 16,147,150 |
| | 合計 | 54,963,064 | 27,772,790 | 19,316,323 | 12,700,921 | 11,170,102 | 3,640,748 | 129,563,948 |
| 歳入過（+）不足（−） | | − 2,453,329 | − 787,242 | + 14,046 | − 397,324 | − 220,442 | − 25,984 | − 3,870,275 |

表の通り租税官業收入其他より成立して居る。各州により多少の相違はあるが大體同樣で租税の內では所得税が最も大きく五〇—六〇%を占め、自動車登錄税、相續税、印紙税等が之に次いで居る。一九三八—三九年度の各州租税の

### クカバラ

東印度では最のことを『幽靈の鳥』と云ふが、日本でも縁起の良いものではない所から見ると人情に變りは無いものらしいが、濠洲では『惡魔の笑ひ』を笑ふ鳥が居る。クカバラ Kookaburra と云ふのがそれだ。日本の烏位の大きさで、頭でつかちに猪は太くて尖り、黑と灰色の縞い鳥だ。日暮と夜明けにとつても無く太い聲で鳴きたてるのだ。森の放浪者の或者はこれを時計の代りだと言つたが日本の烏の何十倍と云ふ大きさの聲でハツハ：：と笑ふのだから寢言に笑はれた位でさへも薄氣味惡く思ふものが四圍の靜寂を破つて突然これに啼かれたら、こん畜生『惡魔の笑聲』だと忌忌しがられるに無理は無さ相だ。

一人當り負擔を見るにヴィクトリヤ州の六磅八志三片が一番低くクインスランド州の八磅一一志九片が最高である。官業收入と言ふのは州營の鐵道、電車、バス、港灣、水道、下水、灌漑等の事業收入を言ひ、官有財産收入とは官有土地の地代、官有林の材木拂下等よりの收入である。聯邦よりの交附金については前項で述べた。利息收入とは地方團體に對する州政府の貸付金に對する利息であり、雜收入とは諸種の手數料及び罰金等より成る。轉じて歳出の側を見るに公債の利拂及び公債償還の爲めの積立金（減債基金）が最大の費目であつて官業經營費が之に次いで居る。教育費及び厚生費の支出が大きいことも濠洲財政の一特徴であつて、小學校教育は無料、公營病院や乳兒相談所の普及に見るべきものあるのは別項所載の如くである。

又地方行政團體は各々その行政區域に於て課金を徵收し道路の建設、維持、點燈、公園の管理、水道設備、衞生施設等に當つて居る。

偖て、地方團體の財政は暫く置き、聯邦及び各州の財政の狀態を見るに第二〇五表の如く一九二九—三〇年の不況を底として其後經濟界の回復に伴ひ濠洲の財政も好轉し、聯邦政府の財政は早くも一九三一

## 第205表　聯邦及州歳出入表

| 年度 | 歳入 | | | | 歳出 | | | | 過不足 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 六州合計 | 聯邦 | 州聯邦合計 | 六州合計 | 聯邦 | 州聯邦合計 | 六州合計 | 聯邦 | 州聯邦合計 |
| 1928～29 | 114,607,863 | 74,894,799 | 179,435,795 | 117,644,052 | 77,253,774 | 184,830,959 | − 5,395,164 | − 2,358,975 | − 7,395,164 |
| 1929～30 | 109,705,045 | 77,143,389 | 178,474,452 | 118,080,433 | 78,614,392 | 188,320,843 | − 9,846,391 | − 1,471,003 | − 9,846,391 |
| 1930～31 | 105,006,189 | 69,566,920 | 163,584,118 | 120,471,087 | 80,324,539 | 189,806,635 | − 26,222,517 | − 10,757,619 | − 26,222,517 |
| 1931～32 | 100,443,634 | 71,532,298 | 161,448,210 | 121,220,510 | 70,218,207 | 180,910,995 | − 19,462,785 | + 1,314,091 | − 19,462,785 |
| 1932～33 | 104,646,287 | 73,512,809 | 167,374,389 | 112,713,556 | 69,966,201 | 171,895,050 | − 4,520,661 | + 3,546,608 | − 4,520,661 |
| 1933～34 | 101,947,775 | 73,941,953 | 164,829,945 | 108,933,306 | 72,640,383 | 170,513,906 | − 5,683,961 | + 1,301,570 | − 5,683,961 |
| 1934～35 | 107,357,555 | 77,369,105 | 173,329,321 | 110,773,219 | 76,657,900 | 176,033,780 | − 2,704,459 | + 711,205 | − 2,704,459 |
| 1935～36 | 112,600,187 | 82,203,341 | 184,151,035 | 115,147,782 | 78,635,621 | 138,130,916 | + 1,020,125 | + 3,567,720 | + 1,020,125 |
| 1936～37 | 119,128,653 | 82,807,977 | 91,850,612 | 119,492,741 | 81,531,419 | 190,938,142 | + 912,470 | + 1,276,558 | + 912,470 |
| 1937～38 | 116,193,354 | 89,416,077 | 205,609,431 | 116,172,245 | 85,963,421 | 202,135,666 | + 3,473,764 | + 3,452,656 | + 3,473,764 |
| 1938～49 | 115,993,501 | 95,001,628 | 210,995,129 | 119,800,614 | 94,437,481 | 214,238,095 | − 3,242,966 | + 564,147 | − 3,242,966 |

（註）　重複を避ける爲聯邦より州への交附金を除外せり。

一三二年度に於て黒字となり、尙當分州財政は赤字であつたが、濠洲全體として見れば一九三五―三六年度よりは黒字に轉じた。卽ち近年の濠洲財政は經常支出は經常收入を以て賄つて居り、所謂赤字公債の發行を見て居ないのであるから、健全財政の道を辿りつゝあつたのである。然し乍ら一九三八―三九年度に於ては高まる世界不安の爲に聯邦





政府の國防費が增大し、爲に各州への交附金が減少し赤字の州が殖え、濠洲全體として見ても赤字となつて居る。一九三九―四〇年度以後は第二次歐洲大戰勃發により赤字財政となりたること又當然である。

比較の便宜上第二次歐洲大戰勃發前、且つ日本に於ても支那事變の發生前なる昭和十一年度（一九三六―三七年度）の數字をとつて見ると、日本の一般會計の歳出は中央と地方とを合して約五十億圓、又濠洲の歳出は聯邦と州と合計で一億九千一百萬磅、一志五片半の爲替で換算すると約二十六億圓、卽日本の半額と言ふことになる。勿論二國の財政を比較するには其の財政の內容、特に官業の多少及び官業經費の取扱方法、並びに物價の關係等を考慮に入れなければならないが、日本の十分の一にも足りない人口で約半額の歳出を賄つてゐると言ふことは財政の背景をなす經濟力が相當なものであることを示す一つの材料にはなると思ふ。同年の日本の租稅收入は中央地方合して二十五億圓、一人當り納稅額三十四圓であるが、濠洲の租稅收入は聯邦州合計して一億八百萬磅、一人當り一五磅一八志一片、卽ち二百十八圓であるから約六倍の稅金を負擔してゐる勘定である。

## （二）戰時財政

刻々迫る歐洲並に太平洋の危機に臨み濠洲が唯一の賴みとする國際聯盟中心の集團保障制が一步々々崩壞して行くのを睨めては、南太平洋の白人安樂境濠洲も晏如たり得ず、國防費支出が逐年增加して行つたのも亦已むを得ない處であつた。

一九三九年九月九日首相メンヂース氏は濠洲聯邦財政史上最初の一億磅を超過する豫算案を議會に提出したのであ

ろが、この豫算の膨脹は主として國防費の增額によるものであつた。然しこの豫算案は戰爭勃發前に編成せられたもので第二次歐洲大戰に對する戰費を含まぬものであつたから、一九四〇年初頭に於て大追加豫算を提出すべき旨言明した。實際は一九四〇年五月二日に到り戰費追加豫算が議會に提出され戰費は六月迄に四千六百萬磅、一九四

**第206表　濠洲の國防費**

| | |
|---|---|
| 1932—33 | 3,194,196磅 |
| 1933—34 | 4,166,048 |
| 1934—35 | 5,519,856 |
| 1935—36 | 7,387,148 |
| 1936—37 | 8,450,856 |
| 1937—38 | 11,693,966 |
| 1938—39 | 24,576,000 |

**第207表　濠洲の歳出**（單位千磅）

| | 1939—40 | 1940—41 | 1941—42 |
|---|---|---|---|
| 聯邦軍事費 | 55,200 | 170,000 | 221,000 |
| 聯邦一般經費 | 85,528 | 86,000 | 104,000 |
| 州一般經費 | 123,589 | 143,000 | 143,000 |
| 公債による新事業費 | 2,540 | 16,000 | 16,000 |
| 合計 | 266,857 | 415,000 | 484,000 |

（註）1939—40實績　1940—41, 1941—42 豫算

〇—四一年度七千九百萬磅と發表された。濠洲は英國同樣出來得る限り戰費も租稅をして賄ふ方針を立て、個人並に法人の所得稅の增徵、販賣稅の引上、輸入稅戰時附加稅等を發表した。然し之等の增徵も其後の稅金引上げに比較すれば甚だ微溫的なものであつた。一九三九—四〇年度の國防費及び戰費合計は五千五百二十萬磅であつて、其內二千六百四萬磅が經常費勘定より支出され（通常歳入二千四百二十八萬磅增稅により二百〇八萬六千磅）二千八百八十一萬四磅が公債により賄はれた。





戰爭の始めには "Business as usual" をモットーとして大いに餘裕を示し比較的僅少の軍事費を支出したに過ぎなかつた濠洲も、和蘭・白耳義に次ぐ佛國の降伏により形勢甚だ不利なるを知り、從來の樂觀主義を一擲せざるを得ず、戰爭第二年度たる一九四〇—四一年度には一億七千萬磅に上る膨大なる軍事費を計上するの餘儀無きに到つた。依つて濠洲の聯邦及び各州合計歳出は經常費及び臨時費合計四億一千五百萬磅の巨額に達してゐる。之を賄ふ爲めには所得稅及び販賣稅等の大幅引上げを行ひたる外、公債の消化にも努め、資金統制令の發布、金利の引下げ、小額債券の發行等あらゆる努力を拂つてゐる。

戰爭第三年度たる一九四一—四二年に對しては昨年十月カーチン首相の率ゐる勞働黨內閣が豫算を議會に提出したが、聯邦歳出は三億二千五百萬磅に及び其內軍事費が二億二千一百萬磅であると報ぜられてゐる。一九三九—四〇年度に於て始めて一億磅臺に達した聯邦歳出は僅か二年にして三億餘磅と三倍に飛躍し、聯邦及び州合併の歳出は五億磅に垂んとしてゐる。この額は國民總所得の約半額に相當するものであるから、これ丈けの金額を租稅の形なり或は公債の形なりで國民所得から吸收すると言ふことは中々の難事業である。軍事費は減少する譯には行かないから緊縮し得るのは一般經費と云ふことになるが、聯邦政府の方は勞働內閣となつて社會政策にも力を入れる結果寧ろ支出の增大を示して居り、他方聯邦政府は各州代表者會議に各州劃一的緊縮案を提出したが之亦必要缺く可からざる經費のみで縮小の餘地なしとて不調に終つた。

一九四一年十二月八日の大東亞戰爭勃發以後、濠洲は更に軍事費の追加計上を必要として居り濠洲の戰時財政も亦多難であらう。

第208表　濠洲公債現在高（單位百萬磅）

| 六月三十日現在 | 州 | | 聯邦 | | 州聯邦合併 | | 總計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 內債 | 外債 | 內債 | 外債 | 內債 | 外債 | |
| 1901 | 28.7 | 174.8 | nil | nil | 28.7 | 174.8 | 203.5 |
| 1910 | 65.6 | 192.0 | nil | nil | 65.6 | 192.0 | 257.6 |
| 1914 | 96.4 | 223.8 | 15.7 | 3.5 | 112.1 | 227.3 | 339.4 |
| 1919 | 139.6 | 257.9 | 218.6 | 89.4 | 358.2 | 347.3 | 705.5 |
| 1931 | 335.2 | 551.8 | 221.7 | 227.0 | 556.9 | 778.8 | 1,335.7 |
| 1935 | 429.7 | 522.9 | 220.4 | 217.2 | 650.1 | 740.1 | 1,390.2 |
| 1939 | 485.2 | 515.7 | 218.5 | 223.4 | 703.7 | 739.1 | 1,442.8 |

### （二）濠洲の國債

濠洲の借入金は一八四二年に始まる。移民事業の爲めに內債四五、九〇〇磅を募集したのが最初で、一八五五年自治制が施かれた時の濠洲の總借入金（全部外國より借入）は一、八四七、〇〇〇磅となつてゐた。同年始めてロンドンで公債を募集したが其額は六八三、〇〇〇磅であつた。其後負債は逐年增加し、所謂健全財政家よりは「默過し難き失政」と非難せられ、又一般國民の間にも不安の念を醸した。一九〇〇年には聯邦及州の負債合計は一九七、〇三五、〇〇〇磅に達し、國民一人當り五二磅一三志に上つた。一九世紀の末期に英國の資本の流出は歐洲より英國植民地へと方向轉換を行つてゐたが、濠洲も其の影響を蒙つてゐたのである。

一九〇一年以降の濠洲國債總額は第二〇八表の如くであるが、一九三九年六月三〇日に於ける聯邦及び州の負債合計は十四億四千三百萬磅であつて其の內七億四百萬磅（四九%）が內債、七億三千九百萬磅（五一%）が外債である。この外債の內六億八千四百萬磅（九





三%）がロンドンで募集されたものであり、殘りの五千五百萬磅（七%）がニュー・ヨーク市場で借入れたものであるから外債の大部分がロンドンで募集されたものであることが知られよう。

同年に於ける利拂は國內二千五、六百萬磅、ロンドン二千三百萬磅、ニュー・ヨーク二百八十萬磅で合計五千一百四十萬磅、國民一人當りの負擔七磅一四志に當る。

大體一九一四年以後一九一九年に至る間の國債の增大は前大戰の戰費支出の爲であるが其れ以後の國債の激增は屢〻問題とされる處である。然し果して一國の負債額が適當なりや否やは人口、資源、歲入及び國債の使途等種々なる要素より判斷せねばならぬのであるが、濠洲の如き新開國にあつては國債の生ずるは止むを得ず、只その國債が生產的に使用せられたりや否やに懸るものと云へるであらう。

然らば濠洲に於て右の借入金が如何に使用せられたであらうか。公債の內三億七千四百萬磅は前大戰の戰費及び其の後始末に使用せられたものであるが、殘りの大部分は鐵道、道路、橋梁、港灣の建設、水道下水設備、電信電話架設、土地の改良、灌漑設備等に投資せられてゐる。試みに近年の公債主要使途を揭げれば第二〇九表、第二一〇表の通りである。

內債の利拂は國民の負擔と言ふよりは國民所得の再分配と稱すべきであるから大して問題とならぬ。外債の利拂はこれに反して國富の海外持出しであるから國民の負擔となるのであるが、外債が生產的事業に投資され其の事業からの收益によつて利拂が出來るなら國民の負擔にならぬものと言へる。勿論投資された事業が生產的なりや否やの判斷は不可能に近い。濠洲では相當多額の公債が港灣、河川、道路、橋梁等に使用せられてゐるが之等は直接政府に收入を齎

## 第209表　聯邦公債主要使途

| 使途 | 1925迄 | 1926—31 | 1931—36 |
|---|---|---|---|
| | 千磅 | 千磅 | 千磅 |
| キヤンベラ建設 | …. | 4,381 | 417 |
| 電信電話架設 | 13,000 | 13,546 | 1,370 |
| 郵便局建設 | …. | 1,104 | 94 |
| 鐵道建設 | 7,000 | 6,842 | 102 |
| 州補助（鐵道、鑛業、林業失業救濟事業） | …. | — | 3,070 |
| 戰後費 | …. | 4,254 | 15 |
| 計 | …. | 30,127 | 5,068 |
| 募債總額 | （註）40,000 | 33,596 | 8,028 |

（註）　戰費を除く

## 第210表　州公債主要使途

| 使途 | 1925迄 | 1926—31 | 1931—36 |
|---|---|---|---|
| | 千磅 | 千磅 | 千磅 |
| 鐵道建設 | 274,000 | 48,389 | 4,511 |
| 道路、橋梁、港灣建設 | 55,000 | 22,851 | 5,215 |
| 水道、下水施設 | 86,000 | 19,809 | 8,992 |
| 學校、公共建築物 | …. | 7,750 | 2,825 |
| 地方團體交附金 | …. | 5,958 | 18,057 |
| 計 | …. | 104,757 | 39,600 |
| 募債總額 | （註）596,000 | 138,875 | 49,363 |

（註）　戰費を除く





らすものでは無い。然し乍ら國民の收益力を增大し將來必要なるべき出費を輕減することは間違ひ無い事實である。同時に濠洲の人口收容力を增しその結果一人當りの負擔を輕減することにもなる。公債により建設せられたる官廳建物は家賃の支出不要により公債の利拂以上に歲出を減少せしめるのも事實であらう。卽ち經常歲入の不足を補ふ所謂赤字公債でなく、新事業に投ぜられたる公債は濫費せられてゐない限り憂ふるに足らない。外債の內戰債に對する利拂は賠償金でも這入らない限り國民の負擔となることは申す迄も無いが、戰債を除く聯邦の外債利拂の少くとも半額は其の投資事業からの收益で賄はれて居り、各州の外債利拂の少くとも三分の二は其の外債が投資せられた事業の利益から支拂はれてゐる。

且つ濠洲では內外債を通じて聯邦債、州債共に一九二七年に完全なる減債基金制度が確立し、短きは三十年より長きは五十年の內に現存公債を償還する計畫で、この制度は新規の募債にも適用されることになつてゐる。而してこの基金の積立は一九二九—三〇年の不況時代にも通じて實行せられたから濠洲の公債は相當確實なる基礎の上に立つてゐると稱することが出來たのであるが、前記の通り第二次歐洲大戰並びに大東亞戰爭の勃發により非常に多額の公債發行を餘儀無くせられてゐるから今後は財政的に相當困難な立場に立到ることが想像せられる。

# 第三章　經濟金融

## 第一節　經濟構造

### (一)　原始産業

一九二八年七月一日より一九三八年六月卅日に至る十ヶ年間の濠洲諸産業の生産額を比較して見るに、所謂原始産業の生産高（Primary Produce）が六三%を占むるに對して第二次産業（Secondary Industry）卽製造工業の生産高（Manufacturing Industry Produce）は三七%を占むるに過ぎず、濠洲の經濟に於ける原始産業の重要性は一見して明かである（第二一一表）原始産業の内でも牧畜業、農業及び酪農業の三者が特に發達して居り、之等三者の合計は濠洲全産業生産額の五五%七以上を占めてゐる。鑛業は將來發展の可能性甚だ大なるものであるが、未だ開發の緒につきたるに過ぎない。林業、漁業も亦將來性のある産業ではあるが未だ殆んど手を付けて居らぬ狀態である。

濠洲の經濟は貿易に依存する處大であり、從つて濠洲の出入超不況は其の輸出の盛衰に左右されるのであるが、この點より見れば牧農酪業の重要性は更に明瞭となるであらう。卽牧畜生産品の輸出のみにても全商品輸出額の四九・六八%を占め、ほぼ半に當つてゐる。更に農業及び酪農業生産品の輸出額を加へると全商品輸出額の八三%以上を占めることゝなる。





### 嘲笑者

クカバラ Kookaburra は濠洲の名物だ。又の名は Laughing Jackass 笑ふ馬鹿野郎とでも譯すのだらうか、カワセミの一種なのだが、大きさは約鳶位で不釣合に大きな嘴を持つてることと、頭でつかちのことから馬鹿に取澄したやうな恰好に見える。この先生が笑ふのだ。尤も鳥の方では別に笑ふ積りではなく、單に啼くのに違ひないのだが、如何にも人を食つたやうな笑ひ方に聞えるのだ。先づ暫く深い含み聲で笑ひ、次第に強く、高くなり、次で明け放しの、下品な大聲の笑ひに爆發する。二、三分もこれが續くと、又含み笑に落ちて行く。一羽が笑ひ出すと、他がこれに笑和して森中に高い笑ひ聲が響き渡るのだ。初期の入植者達は森の惡魔が彼等の折角の努力を嘲笑するのだらうと怖れたものだつたと云ふ。或時メルボルンで濠洲と英本國チームのクリケツト試合の際の事だつた。グラウレドを見下す高い樹の上に數羽のクカバラが止つて居た。投て試合の辷り出しは濠洲チームは頗る不味く、第一打者は零點で却けられた。觀客はがつかり、本人も三柱門から離れてすごすご引下らうとした時、突然樹の上の批判者がクツクツハツハ……と聲高に嘲笑の合唱を始めた。こいつは酷く應へたと見えて敗打者は引つ込みが付かず、くるりとクカバラの居る樹の方を向くと文字通りに『シヤツポを脫いで』お辭儀をした。外野手がどつと噴き出す、數千の觀客達もわつと沸き返つた。

この馬鹿笑ひの先生は、トカゲ鼠小鳥又は毛蟲の類を食つて居るが時には小蛇の類を捕食する。何れにしても人氣役者で、保護鳥になつて居る。

### 第211表　濠洲諸産業の生産額と輸出額

（自1928年7月1日至1938年6月30日十ヶ年合計）

| 産業 | 十ヶ年生産額 | 全生産額ニ對スル割合 | 十ヶ年輸出額 | 全生産ニ對スル割合 | 輸出額ノ生産額ニ對スル割合 |
|---|---|---|---|---|---|
| 原始産業 | 千磅 | % | 千磅 | % | % |
| 牧畜業 | 864,934 | 22.51 | 594,615 | 49.68 | 68.75 |
| 農業 | 786,438 | 20.47 | 295,767 | 24.71 | 37.61 |
| 酪農業及養雞 | 464,411 | 12.08 | 108,193 | 9.04 | 23.30 |
| 鑛業 | 202,367 | 5.27 | 134,632 | 11.25 | 66.53 |
| 林漁業 | 106,079 | 2.70 | 12,947 | 1.08 | 12.21 |
| 小計 | 2,424,229 | 63.09 | 1,146,154 | 95.76 | 47.28 |
| 第二次産業(工業) | 1,418,257 | 36.91 | 50,794 | 4.24 | 3.58 |
| 總計 | 3,842,486 | 100.00 | 1,196,948 | 100.00 | 31,15 |

更に生産額と輸出額とを比較するに、牧畜業にあつてはその生産品の約七〇%を輸出して居り、國内消費は僅か三〇%に過ぎぬ。又農産品はその三八%を、酪農品はその二三%を輸出に向けてゐるのである。鑛産物の輸出割合が大きいのは商品としての金（金貨及び之に準ずる金塊を除く）の輸出が多い爲である。

（註）尤もこの生産額と輸出額との比較は大體の傾向を知り得るに止まり、嚴重な意味で正確では無い。第一に本表の工業の生産額なるものは工業製品の價格では無く、製造工程に於て增加したる價格である。然るに工業品の輸出額は原料をも含めての商品價格である。第二に小麥粉・バター・砂糖の如き商品は製造工程に於て價格は增加してゐるのであるが、工業製品と言ふには適當で無いから、之等の輸出は金額を農業又は酪農業の輸出品中に含ましめてある。

## （二）製造工業

然し乍ら、以上の記述により濠洲の工業が幼稚なるものであらうと速斷するのは早計である。否、或る著者は濠洲は世界に於ける工業國の一に屬するとさへ言つてゐる。一九三三年の國勢調査に依れば一家の主たる收入所得者（Breadwinners）の三二・一%は工業（建築を含む）從業者であり、二〇・三%が牧農酪業從業者であつた。ホールデン氏（Mr. E. W. Holden）の研究によれば、濠洲は英帝國内に於て英國についで原始產業從業者が少いとのことである。原始產業從業者の割合は減少しつゝ、然も生產高の增加を來してゐるが、之は技術の進步によるものである。

何しろ勞働賃銀の高い處であるから、工業もよく機械化されて居り相當高度に發達してゐると言ふことが出來る。特に近年の發展には見るべきものがある。例へば一九三一—三二年度には原始產業生產額と第二次產業生產額との割合は、六五%對三五%であつたものが一九三七—三八年度には六一%對三九%となつて居る。重工業方面に於てもブ





第212表　濠洲產業別生產統計

| 年度 | 原始產業（畜牧農業ヲ含ム） | | | 第二次產業 | | | | | | 合計 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 農業 | | 林漁業 | | 鑛業 | | | |
| | 百萬磅 | % | | 百萬磅 | % | 百萬磅 | % | 百萬磅 | % | 百萬磅 | % |
| 1931—32 | 103.0 | 33.7 | | 74.5 | 24.4 | 7.9 | 2.6 | 13.4 | 4.4 | 198.8 | 65.1 |
| 1934—35 | 119.4 | 33.5 | | 68.6 | 19.2 | 10.9 | 3.1 | 19.9 | 5.6 | 218.8 | 61.5 |
| 1937—38 | 158.4 | 32.5 | | 93.2 | 19.2 | 14.8 | 3.0 | 32.4 | 6.6 | 298.8 | 61.3 |
| | | | | | | | | | | 106.5 | 34.9 |
| | | | | | | | | | | 137.3 | 38.5 |
| | | | | | | | | | | 188.1 | 38.7 |
| | | | | | | | | | | 305.0 | 100 |
| | | | | | | | | | | 356.1 | 100 |
| | | | | | | | | | | 486.9 | 100 |

ロークン・ヒル株式會社の近年の發達は目覺しいものがあり、人口十數萬を有するニューカッスル市はその製鐵事業によつて立つてゐると言つても過言では無い。特に一九三八年九月ミユンヘン會談に英國が敗退した後は英帝國は國際危機迫れりとの見解の下に軍備に邁進することゝなり、濠洲に於ても從來の工業地域たるニュー・サウス・ウェールス州のシドニー、ニューカッスル、ボート・ケンブラ及びヴィクトリヤ州のメルボルンの外に新に南オーストラリヤ州のボート・オーガスタスを中心とするスペンサー灣一體を軍需工業地帶とする計畫を立てゝゐたが、一九三九年九月第二次歐洲大戰勃發以後は一層の拍車をかけ、濠洲は印度、緬甸、馬來、蘭印、新西蘭等スエズ運河以東の英系諸國の兵器廠を以て任ずるに到つた程であるから、軍需品に限らず一般製造工業の最近の發達は刮目に價する。恐らく最近の第二次產業の生產額は全產業生產額の半以上を占めるに到つてゐるであらう。今回の戰爭を契機として濠洲が相當の工業國となるであらうことは疑の餘地が無い。

## (三)　産業分布

製造工業は、古くより開發された人口稠密なる諸州に發達してゐる。石炭の産出の多いニュー・サウス・ウェールス州には自然的に重工業の發達を見た。ヴィクトリヤ州には多くの勞働力と相當の消費地とを必要とする産業が發達してゐる。卽金屬工業はニュー・サウス・ウェールス州が中心であり、織維工業はヴィクトリヤ州が中心となつてゐる。生産額、職工數及び支拂給料の點より見て最も重要なる工業は金屬工業である。食糧品工場、無酒精飮料及び煙草工場が次に位する。全濠洲の工場の七〇%以上、工場勞働者の七五%以上がニュー・サウス・ウェールス州とヴィクトリヤ州とに集まつて居る。又人口一萬に對する工場勞働者の割合を見るにヴィクトリヤ州が最大で、ニュー・サウス・ウェールス州が第二位、西オーストラリヤ州が最下位にある。從つて極く大摑みに言ふならば、西オーストラリヤ州タスマニヤ州及び南オーストラリヤ州は原始産業の州であり、ニュー・サウス・ウェールス州とヴィクトリヤ州は製造工業の州である。事實濠洲の殆んど全部の製造工業がシドニー及びメルボルンを中心とする地域に集まつてゐるのである。但し、斯く言つたからとてニュー・サウス・ウェールス州とヴィクトリヤ州に原始産業が無いと言ふわけでは無く、この兩州は原始産業に於ても重きをなしてゐる。卽全濠洲の羊の約半數はニュー・サウス・ウェールス州に居り、ヴィクトリヤ州を合すれば、約六〇%を占めることになる。又この兩州の小麥生産額は全濠洲小麥産額の半に達してゐる次第である。これは濠洲のこの部分が人口も稠密であり、經濟的にも他の部分より進んだ階段にあることを物語つてゐる譯である。この事は他面から言へば將來開發の可能性のあるのは他の州であると言ふことにもなる—





—特にクィンスランド州とタスマニヤ州が有望視されてゐる。

次に土地所有の狀況を見るに、經濟價値多き土地は既に私有されてゐるか、或は政府より私人に讓り渡されつゝある。一九三五年末の數字を見るに、全濠洲の土地の九・七二%が私有權の對象となつて居るに過ぎず、五〇・六%が官有地で民間に貸下げられてゐる。殘り約四〇%と言ふものは官有ではあるが雨量が過少其他の理由で何人も利用出來ぬ土地である。

濠洲に於ては非常に廣大な地域に亙つて、雨量が決定的役割を占めてゐる。雨量の少ない地方では、草が少ないから一頭の動物を飼ふのに非常に廣大な土地を必要とする。その結果クィンスランド州、ニュー・サウス・ウェールス州、南及び西オーストラリヤ州に於ては非常に廣大な地域が牧羊地に當てられて居り、直轄北部地域に於ても或る牧牛場は莫大な面積を有してゐる。是等の事實からして濠洲の牧場又は保有地(“Stations” or “Holdings”)が皆膨大なものばかりであらうと想像され易いが事實はさうでない。一九三三—三四年の統計を見るに全濠洲の保有地の八〇%は四、〇〇〇エーカー以下である。二三五、〇〇〇の保有地の中、僅か二三〇丈けが二萬エーカー以上であり、五萬エーカー以上と言ふのは七〇に過ぎない。最も普通の羊群(Sheep flock)は二、〇〇〇乃至三、〇〇〇頭であり、牧羊場から言ふと一、〇〇〇乃至五、〇〇〇エーカーのものが最も多數である。

大體から言へば、牧羊場は羊の飼育のみを目的としてゐる。但し頭數から見れば全羊頭數の三分の一は小麥其他の農作をもなせる農家に飼育せられてゐるのである。これに反して、單種農場(Single crop farming)は非常に少ない。一九三五—三六年度の統計を見るにニュー・サウス・ウェールス、ヴィクトリヤ、南及び西オーストラリヤの四

州の小麥農場五一、五二九の內三九、〇一七は羊を飼育して居り、二九、八四二は乳牛を飼育して居り、二二、〇〇〇以上が豚を飼つてゐる。卽小麥生產者中小麥のみを作つてゐるものは八人に一人の割合であり、又この內の一部の農家のみが其の全收入を小麥からの收入に依つてゐるに過ぎない狀態である。

### （四）濠洲經濟構造の特徵

濠洲經濟構造の特徵として、先づ第一に擧ぐべきは濠洲の經濟構造が今日の形態を爲し、之を維持してゐるのは人爲的政策によること多大であると言ふ點である。濠洲國民の理想たる、白人濠洲主義、高き生活水準の維持及び可及的自給經濟の達成を期する爲めに、有色人種の移民禁止、高率關稅障壁の構築、最低賃銀法、八時間勞働法、勞働仲裁裁判所法等一聯の勞働法の制定、並びに諸々の販賣制度（Marketing Scheme）の實施等の高度に人爲的な諸經濟政策を行ひ、今日の濠洲の經濟組織は之によつて維持せられて居るのである。この爲に勞働者は世界でも一、二を爭ふ高賃銀を確保して居り、又相當に製造工場も發達した譯である。勿論何れの國に於ても政府が全然經濟政策を行はず、その經濟を自然の發達に委ねてゐる處は無いのであるが、濠洲は白濠主義により高率賃銀を維持しつゝ、然も世界商品市場で競爭をする爲に、特に種々なる人爲策を必要として居り、其の保護は製造工業のみならず原始產業に迄及んでゐる。砂糖の如き之である。

第二の特徵としては濠洲經濟に於ける農牧產業の重要性を擧ぐべきであらう。人爲策によつて相當高度に製造工業の發達も見たけれ共、何と言つても自然的條件に適合せる農牧產業は同國經濟の根幹をなして居る。貿易的側面から





見る時この特徵は一層明瞭となるであらう。

第三の特徵は濠洲經濟の海外依存性、特に英國への依存性の大なる事である。製造工業も相當發達し、資源も豐富なりとは言へ、尙多くの必要品を輸入に俟たねばならぬ濠洲の事であるから、羊毛、肉類、小麥、酪農品等が海外に高値に賣れるや否やは、濠洲人の最大關心事である。蓋し輸出が旺盛なるや否やは輸入資金を獲得し得るや否やの問題であり、更に重要なることは莫大なる海外よりの借入金の金利支拂の資金を得るや否やの問題でもあるからである。貿易的に又資金的に英國との關係が如何に重要なるものであるかに就いては本書中貿易及び財政の部に於て詳述する通りである。

第四の特徵としては物質的生活水準の高きことを數へるべきであらう。人爲的政策によつて豐富なる資源を少數の人口を以て獨占せる結果ではあるが、濠洲人の物質的生活の豐かなることは之を認めねばならぬ。例へば人口に對する自動車數を見ても、九人に對して自動車一臺の割合となつて居り、米國（四人に一臺）新西蘭（六人に一臺）加奈陀（八人に一臺）に次いで世界第四位である。（因に我國は五八九人に一臺、各國數字は一九三八年末）

## 第二節　貨幣金融

### （一）貨幣制度

濠洲の貨幣は英國の制度に範を採り且つその貨幣は倫敦磅の一定値にリンクされてゐる。濠貨は大體に於て英貨と

等價であつたが、世界不況の爲一九二九年七月より下落し始め一九三一年一月には打歩三〇%にまで下つたが、一九三三年三月打歩二五%に回復し其後變化なく今日に及んでゐる。卽ち現在濠貨一二五磅が英貨一〇〇磅と規定されてゐる。

濠洲の貨幣は濠洲磅（Australian Pound: A £）を以て本位貨としてゐる。而して濠洲磅は二〇志（Shilling）より成つてゐること英國磅と同樣である。

紙幣の種類は一〇〇磅、一〇磅、五磅、一磅、一〇志の五種類があるが、その發行は大藏省が中央銀行たる濠洲聯邦銀行(Commonwealth Bank of Australia)內に發行局を置き同行をして發行せしめてゐる。紙幣面には大藏省發行、同行總裁連署と言ふことになつて居り、嚴格に言へば濠洲に於ける紙幣は銀行券では無く Australian Note（濠洲紙幣）と稱すべきであらう。硬貨としては銀貨に五志、二志、一志、六片、三片の五種あり、銅貨には一片及半片の二種がある。

一九四一年六月末に於ける紙幣の發行高及び流通高は次の通りである。

| | |
|---|---|
| 紙幣發行總額 | 七一、三四五、〇〇〇磅 |
| 紙幣流通高 | 六八、一一九、〇〇〇磅 |

鑄貨の流通高は發表なき爲正確なことは解らないが略ゝ次の如きものと推定されてゐる。

| | |
|---|---|
| 鑄貨流通高 | 三、一九五、〇〇〇磅 |

紙幣の發行準備は原則として二五%の『金貨及び金塊』と規定されてゐたが一九三二年以來『金及び英貨』(Gold &/or English Sterling) と改正せられ、以來準備の內容は發表せられぬ爲的確なことは解らないが、金貨及び金塊の





準備は非常に小額で大部分は英貨を引當としてゐる樣である。玆に言ふ英貨とは

（イ）英蘭銀行に於ける英貨預金
（ロ）倫敦拂の一流短期手形
（ハ）英國政府公債及び大藏省券

を指す。濠洲の經濟が英國との貿易に依存してゐる關係上濠洲所有の英貨（ロンドン資金）の增減により濠洲國內の流通貨の數量が伸縮すると言ふ制度が甚だうまく行はれるのである。卽先づ輸出商が濠洲から輸出をすると輸出手形を銀行に賣却することによつて輸出商は銀行から金を受取る。卽ちそれ丈け國內の通貨膨脹を來すわけであるが、他方その手形がロンドンで支拂はれることによつて濠洲の在ロンドン資金は增加する、ロンドン資金の增大と國內通貨の增大が相應して起つてゐるわけである。反對に濠洲の輸入商が海外から輸入をすると、先づその代金を銀行がロンドンで支拂ふことにより在ロンドン資金は減少するが、他方輸入商が輸入手形代金を濠洲で銀行に拂込むことにより、濠洲國內の流通貨幣は減少する。卽ちロンドン資金の減少に應じて濠洲國內の通貨の收縮が起つてゐる。斯くの如くであるから濠洲紙幣の發行準備として英貨を引當てることは甚だ合理的な次第であつた。

尙紙幣の發行準備としては英貨以外に濠洲の公債及び社債を保有してゐる。一九四一年六月末の準備內容は次の通りである。

| | |
|---|---|
| 金及び英貨 | 一七、七〇五、〇四七磅 |
| 濠洲公社債 | 五五、五〇七、二八六磅 |

計

濠洲の公社債が紙幣發行の準備となつてゐると言ふことは濠洲の生産力が紙幣の裏附けをしてゐる理であり、對英對米依存なくとも或程度濠洲紙幣の價値維持は出來ることを示してゐるものである。

## （二）金融組織

濠洲にある銀行は次に示すが如く殆んど凡てが濠洲系又は英國系である。外國銀行としては我が橫濱正金銀行がシドニーに支店を有せると、佛國の Comptoir National d'Escompte de Paris がシドニー及びメルボルンに支店を有するに過ぎない。元來外國銀行の支店開設は不許可方針であるが、前大戰當時日本が英國の同盟國の誼により、濠洲の埃及派遣軍を帝國軍艦が護送したる事等の爲めに、特に正金銀行の支店開設を許可したと言ふことである。之等二行及び新西蘭銀行は夫々本國との外國爲替決濟及びそれに附隨の貿易金融を主たる業務とし、國內金融は殆んど行つてゐない。在濠一流銀行は次の通りである。

| | | 營業店舖數 |
|---|---|---|
| （イ） | 中央銀行 一行 | 二七九 |
| （ロ） | 英系銀行 三行 | 九三〇 |
| （ハ） | 濠洲銀行 六行 | 二三二六 |
| （ニ） | 新西蘭銀行 一行 | 二三二（新西蘭內支店を含む） |
| （ホ） | 外國銀行 二行 | |

シドニー・マーティン街
（向つて左手前はコンモンウェルス銀行、時計塔のあるのは中央郵便局、突き當りニュー・サウス・ウェールス銀行、右手前はセーヴィングス銀行）

Commonwealth Bank of Australia が中央銀行で、紙幣發行權を有し、國內金融では普通銀行を監督し、外國爲替統制の實權を有してゐる。特に一九三九年開戰以後は爲替金融の統制權を賦與せられ、輸出入爲替は同行の獨占する處となつてゐる。但し同行は之と同時に普通銀行の業務も營んでゐる。

英系銀行と言ふのは本店が倫敦にあり、株式が英貨で表示されてゐると言ふ丈けで、事實上の本部はメルボルン又はシドニーに在り、實質上濠洲銀行と變り無い。英系三行濠系六行を合して Nine Trading Banks と稱し諸統計等には、この九行を以て普通銀行を代表せしめてゐる。是等九行は商業金融のみならず國內の農業金融をも行ひ、その支店網を羊毛、小麥等の產地たる奥地に張り繞らしてゐる關係上支店の數が甚だ多い。各行共ロンドンには支店を有するが其他の諸外國には一つの支店も無く、外國爲替と言へばロンドン向なることが一般通念となつてゐる位に英國とは密接なる關係にある。

以上は一流銀行で、この他、地方的小銀行はあるが語るに足らぬ。

貯蓄銀行としては

（一）Commonwealth Bank of Australia の別動體 Commonwealth Saving Bank が最大だが

（二）州立貯蓄銀行（State's Saving Bank）もあ

## 第213表　在濠一流銀行一覽　1941年3月末現在

| 種類 | 銀行名 | 本店所在地 | 設立 | 拂込資本（單位千磅） | 諸預金總額（單位千磅） | 諸貸出總額（單位千磅） |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 中央銀行 | Commonwealth Bank of Australia | シドニー | 1911 | 6,000 | 83,325 | 70,785 |
| Nine Trading Banks 英系銀行 | The Bank of Australasia | ロンドン | 1834 | 4,500 | 36,691 | 39,934 |
| | The Union Bank of Australia Ltd. | 〃 | 1837 | 4,000 | 28,370 | 30,934 |
| | The English, Scottish & Australian Bank | 〃 | 1852 | 3,000 | 35,491 | 38,500 |
| 濠洲銀行 | Bank of New South Wales | シドニー | 1817 | 8,780 | 101,471 | 102,399 |
| | The Commercial Banking Company of Sydney Ltd | 〃 | 1834 | 4,739 | 54,746 | 54,847 |
| | The National Bank of Australasia. Ltd | メルボルン | 1867 | 5,000 | 42,640 | 47,679 |
| | The Commercial Bank of Australia Ltd. | 〃 | 1866 | 4,117 | 29,524 | 31,087 |
| | The Queensland Bank Ltd. | ブリスベン | 1872 | 1,750 | 9,472 | 12,448 |
| | The Bank of Adelaide | アデレード | 1865 | 1,250 | 6,458 | 6,761 |
| 新西蘭銀行 | Bank of New Zealand | ウエリントン | * 1880 | 6,328 | 1,077 | 1,426 |
| 外國銀行 | Comptoir Natinoal d'Escompte de Paris | パリー | * 1878 | 4貨法 | 282 | 357 |
| | 横濱正金銀行 | 横濱 | * 1915 | 1億圓 | | |

（*）濠洲に支店設立の年

### ライアー・バード

琴鳥（ライアーバード）（Lyre bird）は雄の尾が堅琴（ライアー）に似たところから此の名があるのだ。深山幽谷の羊齒類の密生した場所に棲む鳥で、永年濠洲に住んだ者でも、琴鳥を見た事のある人は極めて稀れだ。他の鳥の啼き聲は勿論、森の中の騷音、鞭の音から獵銃、鋸の音に至る迄之を眞似る。自動車の警笛から汽笛の響き迄も巧みに眞似、森の中を突然狐火のやうに素早く逃げ去るのだ。メルボルンの近くのダンデノング Dandenong 山脈に行けば見られるが今云ふ通り非常に臆病で飼育は出來ない。捕へると死んで了ふのだ。この鳥を見やうと思へば數時間森の中に蹲れて辛抱しなくてはならぬが何しろ名優其儘のこの鳥だから、辛抱する甲斐あるだらう。古代希臘の堅琴に似た尾を擴げた雄が演技者であつて雌の方は坐つて觀賞する役だ。先づ雄が落葉や苔て一段高くなつた場所に上る。前に居る二匹か三匹の雌が靜かになつたと見極めると、そろそろ舞踏を始め、暫くして愈得意の演奏に移るのだ。先づクカバラの笑ひを寸分違はず眞似る。次は馬車の鞭のびしりつと鳴る音を出す。それから又暫く舞踏があるが、引續き鋸のごしごしと云ふ騷音、氣笛更に山犬（ディンゴ）の悲し氣な遠吠えを演奏する、最後には一群の鷄鳥のお喋りを物眞似して居たかと思ふと、突然一聲鋭い鷹の叫び聲がしてびたりと靜粛になつた。喫驚した鷄鳥共が周章てて默り込んだのを、にたりと笑ひ乍ら見て居るかのやうにしか思へない。鳥仲間の古川柳波なので、一體どれが自分の啼聲か分らない。或人が身近の叢の中に琴鳥の居るのに氣が着き、これを見ようと四時間許りも苦心したが、前に居るかと思ふと後に逃げ、右かと思へば左、一匹だと思ふのに數匹も居るやうな物音がしたり、宛然なんの事は無い牛若に出會つた辨慶程に飜弄されたと手記に書いて居るlyre bird（琴鳥）でなくてliarbird（嘘言啼鳥）だらう





（三）全國各地に小貯蓄銀行がある。

一九三九年六月末の全國貯蓄銀行預金總額は二四五、五八七、〇〇〇磅であるから七百萬の人口に比し相當の貯蓄高と稱すべきであらう。

## （三）外國爲替

濠洲磅は英貨磅に二五%の打歩でリンクされて居り、外國爲替と言へばロンドン向爲替と解される狀態であることは前述した處である。從つて其他の諸國向相場はロンドン相場より裁定算出されてゐる。之は英國との貿易が金額も多く、其他船賃保險料等英貨磅爲替で行はれる結果ロンドン向爲替が中心となる次第である。

市中銀行が資金調達をなす時はロンドン向爲替を賣却し、資金回收をなした時はロンドン向爲替を買收する操作をなす。主要貿易港が爲替市場をなし English Scottish & Australian Bank, Bank of New South Wales, Bank of Australasia が取扱高も大であつた。一九三九年八月末爲替管理法實施以來外國爲替は Common-

## 第214表　外國爲替相場　1941年9月30日現在

| 相手國 | 信用電信銀行相場 賣 | 信用電信銀行相場 買 |
|---|---|---|
| ロンドン向（100英磅につき） | 125磅10志 | 125磅 |
| 日本向（1圓につき） | 18 13/16片 | 17 13/16片 |
| 米國向（1濠磅につき） | 3.1982弗 | 3.2370弗 |
| チヤバ向（同上） | 6.014ギルダー | 6.121ギルダー |
| 新西蘭向（100新磅につき） | 100磅10志 | 100磅 |

weath Bank of Australia に集中されてゐる。

尙一九四一年九月三十日の外國爲替相場は上表の通りであつた。

濠洲の國際收支を見るに、勿論年によつて大いに相違があるが大體一ヶ年見當は次の如くである。

| | | |
|---|---|---|
| 支拂勘定 | 公債利拂 | 二三、〇〇〇、〇〇〇磅 |
| | 運賃・保險料・產業利潤配當金等 | 七、〇〇〇、〇〇〇磅 |
| | 計 | 三〇、〇〇〇、〇〇〇磅 |
| 受取勘定 | 輸出超過 | 一〇、〇〇〇、〇〇〇磅 |
| | 投資利潤其他 | 一〇、〇〇〇、〇〇〇磅 |
| | 產金 | 一〇、〇〇〇、〇〇〇磅 |
| | 計 | 三〇、〇〇〇、〇〇〇磅 |

即ち過不足無しと言ふことになつてゐる。

# 第四章　鐵　道

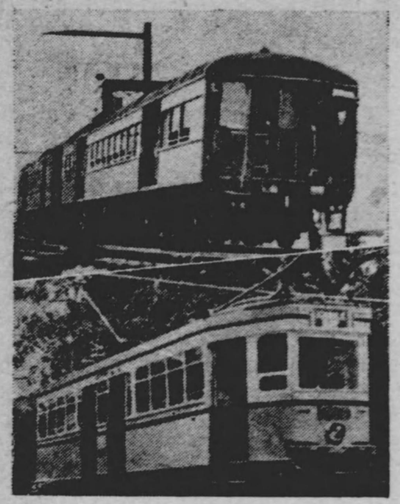
濠洲の二大都市シドニー、メルボルンは人口百萬以上を擁して人口稠密であ



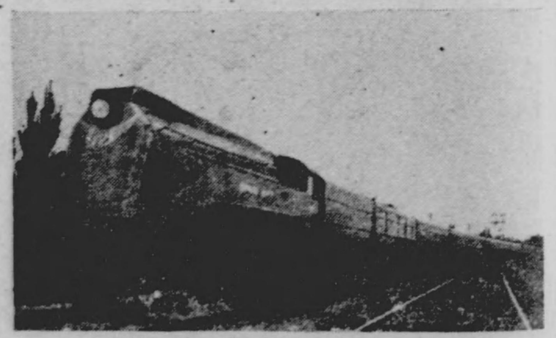


り鐵道の利用客も都市への通勤人で出勤退社時間には大混雜を呈してゐる事は日本内地の大都市と略々同樣である。兩市共郊外迄鐵道は電化して居りシドニーの省線電車は舊市内に入つて地下鐵となつて居る。四―五輛連結した車輛は見た處日本の舊型の物と同じですべてクロス・シート前後左右に開閉戸がある。こゝ二―三年前迄は汽車省線共一、二等と乘車券を二種にわけ發賣して居たがその後省線のみ等級を廢止して居る。一等乘客と云へば日本では大袈裟に聞えるが、普通一般人が乘るもので中產階級以上は先づ自家用車を日々愛用して居り下層階級や算盤高い者のみが二等車に乘るのである。シドニーでは日曜日も早朝から運輸サービスがあるがメルボルンでは日曜日は文字通りお休みで午前八時迄は省線は動かず早出の場合等至極不便な事が多い。メルボルンの省線電車は車内を縱に數段に區切つた所謂コンパート・メント式で各室は前後五人宛の座席を設けてゐる、從つて各室毎に左右に出入口があり恰度兩市を走る古型の路面電車と同じである。シドニーと違つてメルボルンは未だに乘車券を一、二等に分けてゐる。

鐵道サービスの中で兩市共通のものとしては定期券の發



（上）省線電車
（下）所謂市内電車



世界に誇るヴヰクトリア州々營特急電車
「スピリット・オブ・プログレス」

**シドニー名物橋**

シドニーハーバー・ブリッヂは濠洲御自慢の筆頭だが、一九三一年に出來上つたもので、當時アーチ型橋梁として世界最大を誇つたものである。住宅地であるノース・シドニーと商業區のシティー・オブ・シドニーとを一つのアーチで繋ぐもので開通式には時の首相ラングがテープを切つた。アーチの兩端には陸橋の部分があるがこれを加へると全長三七七〇呎、アーチによつて跨つた部分の距離は一六五〇呎。アーチの頂點から水面迄が四五〇呎、甲板は眞直ではなく、少しカーブになつて居るが、その水面から一番高い部分即ち橋の中央には標識が附けてあるのだが、其部分で水面からの高さ三〇〇呎、甲板の幅は一七二呎で二條の人道、四線の電車軌道と六條の車道を持つて居る。之に要した鋼材の全重量は五一、〇〇〇噸、アーチの部分丈けでも三七、〇〇〇噸で英本國最大のニュー・キャッスル橋の一五倍近くの鋼材を要した計算になる。最初の豫算は八〇〇萬磅であつたが結局一、〇〇〇萬磅を出た事になつた。起工は一九二四年でドルマン・ロング商會の手になつたものだ。

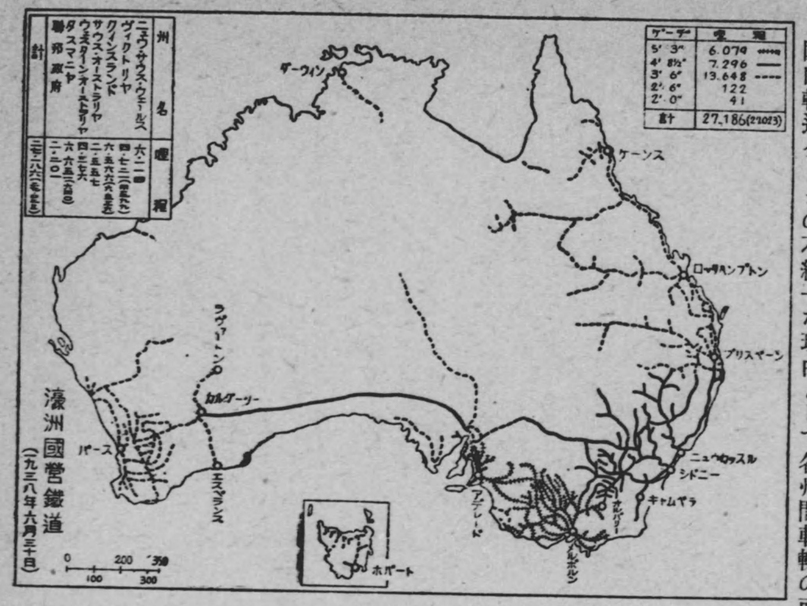
行で日本内地式のもの以外に銀製のメダルのものがある。唯購入に當つては紛失の場合の保證金として二シリングス邦貨約一圓三五錢を收めねばならぬが定期が切れて返還すれば金は返して呉れる。普通一般に若い女子が腕環にはめて使用して居る、省線電車はシドニーの方が進歩的なのに比べて"Sprit of Progress"といつた様な世界的優秀車を持つヴィクトリヤ州鐵道は長距離列車に於てより發達して居るのも二州相剋の一片鱗を示唆してゐる様にもとれる。

一八五四年に始まつた濠洲に於ける鐵道の建設は一九三七―三八年現在總延長哩數二七、九七三・四八哩に及んでゐるが各州間には軌道ゲージが不統一なるために貨客の運輸に多大の不便を藏してゐる。

元來濠洲の鐵道建設事業は各州別個の植民地行政下に發達したものであり、聯邦政府成立の一九〇一年以前には、各州の鐵道經營は州營と私營の二つがあつたのであるが、私鐵は現在と同様主として林業土地鑛山砂糖栽培會社の事業用に敷設されたもので公共性なくその哩數も僅少と云へる。之に反し、國土開發を目的とする州營鐵道は一般旅客の運輸を計る公共的のものでその延哩數も聯邦政府經營のもの二、








二〇一哩と共に濠洲鐵道の大部分を占めてゐる。

國内軌道ゲージの不統一な理由として各州間軌幅の面白い挿話がある。シドニー、メルボルンを中心とする鐵道建設の急務は夙に一八四五年頃より唱へられ建設軌道ゲージをめぐつて問題があつた。處へ時の英國植民相祕書だつたグラッドストンがニュー・サウス・ウェールス州總督宛書面を以て四呎八吋半ゲージの採擇方を勸奬して來たのであつたが一八五〇年に至つて該案は Sydney Railroad & Tramway Co. の技師によつて反對された結果、彼の主張する五呎三吋ゲージが一八五二年に採用され、その旨お隣りのヴィクトリヤ州南オーストラリヤ州總督へ通知したのであつた。兩州とも鐵道敷設に多大の關心を持つて居た事とて早速ニュー・サウス・ウェールス州に習ひ五呎三吋ゲージ車輛の多量買付を手配して了つた。處がその後間もなくニュー・サウス・ウェールス州に於てゲージ問題が蒸し返され、同社は技師を更迭して四呎八吋半ゲージ採擇案を可決したがこの變更については何等他州へは知らさなかつたのである。之を知つたヴィクトリヤ州

はニュー・サウス・ウェールス州の勝手な仕打に激怒してそれ以來今日迄ヴィクトリヤ州營鐵道ゲージを五呎三吋と宣言墨守して來たのであつた。又南オーストラリヤ州、クィンスランド州、西オーストラリヤ州等の各政府は何等國內軌道の統一を考慮する事なく、各自獨創の下に鐵道の建設を計つたが爲に、一度び各州營鐵道が州境迄延長されて各州間の連絡が出來る樣になつて見ると、豫期しなかつたゲージの不統一が齎らす乘客貨物積換への煩雜さ時間的損失費用高に今更乍ら困惑して居る始末である。

國防上國家經濟上軌道ゲージの統一は不可缺なものであり、殊に戰時輸送力を考へる場合之がギャップを一日も早く克復しなければならないから夙に聯邦政府鐵道官は各州首相と屢々懇談する所あつたが、何分とも國內全鐵道を四呎八吋半といふ標準ゲージに統一するのには長日月と莫大な改良費がかゝるので中々實現を見るに到らず、一九二一年十一月の審議會に於ては差當り東から南へと海岸沿ひに走る大陸主要幹線路であるブリスベン・フリマントル間の鐵路三、四七九・八二哩の改良に着手するため調査が進められたのである。乍餘談ブリスベン、フリマントル間の汽車旅行は當時時速二二哩で六日間かゝつたが實際の走破所要時間は一二六―七時間で平均時速は二七哩强であつたから乘換へ停車等で約一日無駄な事をして居たのである。扨てこの軌道統一案に依ると改良費として二千百六十萬磅、八年の長日月を要するとの事で中々容易なものでなく今尙殆んど着工されてゐない有樣である。唯同計畫案第一回工事として一九三〇年九月二十七日に統一されたものにサウス・ブリスベン、シドニー間の汽車旅行には乘換への必要がなくなつてゐる。之に反して旅客運輸の最も輻輳するシドニー・メルボルン間の汽車旅行は州境オルバリーで乘換へねばならない。夫れもシドニー發メルボルン行特急は夜の九時である。ヴィクト





リヤ州特急車に較べてニュー・サウス・ウェールスの客車は舊式で振動激しく夜が更けても中々寢られない。そこで夜明が近付くにつれついうとうと睡氣を覺えると、途端に列車は州境の要衝オルバリーに着き叩き起されてヴィクトリヤ州列車に乘換へねばならぬといふ始末で寔に不便不都合な氣持を抱く。

濠洲に於ける鐵道の發達狀況を見るに國鐵は各州と聯邦政府經營のものとがありその中州營のものが全體の九割弱を占めて二四、九八五哩に及んでゐる。他方聯邦政府所有のものは南オーストラリヤ州西オーストラリヤ州の一部地方並びに聯邦政府直轄地域に敷設せられたものでその延哩數は二、二〇一哩となつてゐる。之を軌道ゲージから見れば五呎三吋廣軌鐵道はメルボルンを中心としたヴィクトリヤ州地方並に南オーストラリヤ州の首都アデレード近郊に發達し、所謂四呎八吋半標準軌道のものはシドニーを中心としたニュー・サウス・ウェールス州地方に敷かれて居る。又三呎六吋狹軌はクィンスランド州ブリスベン地方並に北部クィンスランド地方や西オーストラリヤ州の一帶に亙つてゐる。

次は國鐵運輸力を見ると一九三八年六月三十日現在の各州別保有運轉車輛數は下表の如くである。

是等車輛の中客車貨車一臺當りの輸送力について最近の數字は見當らないが、假りに一九二一年の調査をとると客車の平均最大收容力は五呎三吋ゲージで四七・五噸、四呎八吋半が四六噸、三呎六吋が二八噸程度となつて居る。又貨車の平均積載量は略々五呎三吋ゲージで三〇噸四呎八吋半で四〇噸、三呎六吋で二六噸となつてゐるが現在の輸送力も之と大差なからうと考へる。以上の設備をもつてゐる濠洲國鐵の一九三七―三八年度一箇年間に於ける利用狀態は乘客數三八四、九四二、〇〇〇人貨物家畜類其他三五、七二九、〇〇〇噸に及んでをり、私鐵を合算すれば乘客數三八六、

第215表　濠洲國有鐵道運轉車輛數

| 種類 / 州別 | 機關車 | 客車 | 其他 |
|---|---|---|---|
| ニュー・サウス・ウエールス州 | 1,310 | 2,790 | 23,704 |
| ヴィクトリヤ州 | 574 | 2,458 | 21,029 |
| クィンスランド州 | 748 | 1,398 | 18,704 |
| 南オーストラリヤ州 | 329 | 606 | 8,013 |
| 西オーストラリヤ州 | 420 | 477 | 11,097 |
| タスマニヤ州 | 94 | 233 | 2,073 |
| 直轄地域 | 113 | 89 | 1,382 |
| 合計 | 3,588 | 8,051 | 86,003 |

三〇二、〇五五人貨車によるもの四〇、二二八、五二七噸となつて居る。

# 第五章　海運

元來濠洲は天然資源が豊富な所へ人口が極めて少いので夙に海外市場に對しては原料供給國完成品輸入國として發展して來たのであるから濠洲の外國貿易依存度は頗る高いと云へる。自然この事實は海運についても裏書出來るのである。先づ一九三七—三八年度一箇年間に於ける濠洲入港外國船舶數は總計一九〇五隻、噸數にして七、一二八、四〇四噸であつた。その中汽船は一八〇〇隻七、〇九六、六五六噸帆船は一〇五隻三一、七四八噸となつて居る。之等の入港外國船舶噸數を國籍別に見ると一九三八—三九年度に於ては下表の如くである。

| | | |
|---|---|---|
| 英帝國 | 四、八八七、〇七一噸 | 五五、四四一噸 |
| 丁抹 | | |





第216表　1938—39年度に於ける濠洲國鐵統計

| 州別 / | 聯邦政府 | ニュー・サウス・ウエールス | ヴィクトリヤ | クィンスランド | 南オーストラリヤ | 西オーストラリヤ | タスマニヤ | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 開通哩數 | 2,201 | 6,114 | 4,759 | 6,497 | 2,558 | 4,378 | 653 | 27,165 |
| 乘客數 | 118,000 | 186,720,000 | 142,124,000 | 24,549,000 | 17,528,000 | 11,415,000 | 2,297,000 | 384,751,000 |
| 貨物運送量 | 22,000 | 7,633,000 | 200,000 | 735,000 | 129,000 | 298,000 | 477,000 | 9,494,000 |
| 石炭岩塩 | 1,000 | 1,464,000 | .... | 518,000 | 669,000 | 244,000 | .... | 2,896,000 |
| 其他鑛石 | 65,000 | 739,000 | 727,000 | 528,000 | 194,000 | 116,000 | 30,000 | 1,399,000 |
| 家畜 | 97,000 | 5,582,000 | 5,050,000 | 3,400,000 | 1,670,000 | 2,201,000 | 336,000 | 18,336,000 |
| 其他物品 | 185,000 | 15,418,000 | 5,977,000 | 5,181,000 | 2,662,000 | 2,889,000 | 843,000 | 33,125,000 |
| 合計貨物量 | | | | | | | | |

（註）但クィンスランド州數字は四呎八吋半を不含、南オーストラリヤ州數字は Road Motors を含む。

| | |
|---|---|
| 和蘭 | 二九〇、六〇五噸 |
| 佛國 | 一〇八、一二〇噸 |
| 獨逸 | 一四〇、九五四噸 |
| 伊太利 | 六八、一二五六噸 |
| 日本 | 三二九、八八四噸 |
| 諾威 | 三一四、六四九噸 |

世界最美と誇るシドニー港、右手上方に見ゆるが所謂ヘッドと稱する岬、向つて右がサウス・ヘッド、其向ひがノース・ヘッド、橋の向ふがノース・シドニー、橋の手前はシティー・オブ・シドニー、最も手前突堤の突き出て居るがウォルシュ灣波止場。

| | | |
|---|---|---|
| 瑞典 | 一二三、七三七噸 | |
| 米國 | 一七五、一二六噸 | |
| 其の他 | 二〇七、一五六噸 | |
| 合計 | 六、七一〇、九九九噸 | |

また一九三七―三八年度に於ける積卸貨物噸數は一三、四六四、八三九噸に上つて居る。この中英國を主とする英帝國船舶噸數並に積卸貨物噸數比率は夫々全體の七二・三六%、七〇・四一%となつてゐる。之に反し諸威日本米國其他第三國船によるものは夫々全體の二七・六四%、二九・五九%といふ有樣である。更に外國船舶の動きを州別に見れば次表の如くニュー・サウス・ウェールスを筆頭にして全體の約三五%を占め第二位は西オーストラリヤ、次はクィンスランド、ヴィクトリヤ、南オーストラリヤ、直轄北部地域、タスマニヤの順位となつて居る。さすが世界三大美港の一として自他共に誇る良港シドニーを膝下に置きニュー・カッスル、ボート・ケンブラを持つニュー・サウス・ウェールス州は寔に太平洋岸貿易の王座を占め、首府パ





ースの外港としてのフリマントルを初めオーガスター、オルバニーをもつ西オーストラリヤ州は印度洋岸貿易の花形と云へるであらう。

尙一九三七―三八年度に於ける濠洲在籍の船舶數は帆船一、二八五隻、噸數にして四〇、二九二噸、汽船並に發動機船數は七〇一隻、二五一、七〇九噸其他のもの一八九隻四九、五二一噸となつて居り總計にして二、一七五隻三四一、五二二噸となつて居る。この中、他國に比して帆船の數が多く濠洲海運界に占める其地位も强大である。之は帆船の建造費並に運轉費が低廉であるばかりでなく濠洲南西岸には始終西風が吹いて居るので帆船航路には至極便利だからである。

外國船を含んだ內外貿易に携はる州別入港船舶噸數は合計一九、九〇〇、七九三噸に上りその中ニュー・サウス・ウェールス州は三割强ヴィクトリヤ州は二割强を占め二州のみで全體の半ば以上に達してゐる。最後に一九三八―三九年度の海運界に於ける外國竝に內國貨物の動きは次表の通りである。

### 旗の盜難事件

シドニー・ハーバー・ブリッヂのアーチの頂點に旗が建ててある。どんな所存からか知らぬが其の旗を盜む者があるのだ。アーチのフレームを成す鋼板は巾約二米突で、それに一米突ばかりのゲージのケーブル・カーが設けてあるのだが、これは修理等の場合の爲めのもので一般の者は之に登ることは禁止されて居る。只アーチの兩端にある塔は昇降機で見物に昇れるやうにはなつて居る。扨て旗の盜難事件だが、元來此橋がノース・シドニーとシティ・オブ・シドニーとを繋ぐもので其の恰度眞中はどつちの區域の警察の管轄なのか分らない。此の警察は已の管轄ではないと云ひ町の方の警察は又町の方の警察で、自分の所管事項で無いと云ふので、肝腎の泥棒の手當が出來ない。そこで結局盜難の起つたと推定さるる時刻に旗が何方に向いて居たかを判定し、南に向いて居たものならシティー・オブ・シドニー側の事件として取扱ふと云ふ事に落付いた、同時刻の風の方向は容易に判定出來る譯だ。

第217表　濠洲各州出入外國船舶並に噸數　1937—38年度

| 州別 | 入港船舶數 | 同噸數 | 出港船舶數 | 同噸數 |
|---|---|---|---|---|
| | 隻 | 噸 | 隻 | 噸 |
| ニュー・サウス・ウェルス | 664 | 2,545,984 | 571 | 2,028,513 |
| ヴィクトリヤ | 230 | 831,156 | 218 | 846.410 |
| クィンスランド | 278 | 950,783 | 306 | 1,132,484 |
| 南オーストラリヤ | 184 | 643,121 | 198 | 761,093 |
| 西オーストラリヤ | 445 | 1,976,514 | 511 | 2,185,940 |
| タスマニヤ | 30 | 130,882 | 21 | 83,119 |
| 直轄北部地域 | 74 | 49,964 | 79 | 55,499 |
| 合計 | 1,905 | 7,128,404 | 1,904 | 7,093,058 |

第218表　州別外國內國貨物積卸狀態　1938—39年度

| 州別＼噸數 | 荷卸外國貨物 | 荷卸內國貨物 | 合計 | 積込外國貨物 | 積込內國貨物 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| ニュー・サウス・ウェールス | 2,291,495 | 3,842,422 | 6,133,917 | 2,037,615 | 3,408,381 | 5,445,996 |
| ヴィクトリヤ | 2,074,343 | 2,534,179 | 4,608,522 | 858,786 | 1,123,431 | 1,982,217 |
| クィンスランド | 515,322 | 720,874 | 1,236,196 | 928,056 | 469,417 | 1,397,473 |
| 南オーストラリヤ | 680,608 | 1,076,229 | 1.756,837 | 1,262,298 | 2,889,250 | 4,151,548 |
| 西オーストラリヤ | 740,710 | 332,847 | 1,073,557 | 943,436 | 119,522 | 1,062,958 |
| タスマニヤ | 92,018 | 543,898 | 635,916 | 200,785 | 938,202 | 1,138,987 |
| 直轄北部地域 | 4,964 | 26,424 | 31,388 | 182 | 3,484 | 3,666 |
| 合計 | 6.399,460 | 9,076,873 | 15,476,333 | 6,231,158 | 8,951,687 | 15,182,845 |





# 第六章　道　路

下足の儘で生活する歐米風な生活には何うしても道路の鋪裝化が不可缺なものである。搗てゝ加へて生活程度の高い濠洲では、ラジオの普及に次いで自動車は一般化し日常生活の必需品となつてゐるから、自動車道路の發達は驚嘆する程である。事實汽車電車の交通網の疎な南の大陸濠洲では何處へ行くにしても自動車が非常に役立ちその必要は市街を離れるに從ひ加速度に痛感せられるのである。

從つて自動車の普及と表裏して自動車道路も津々浦々に迄發達し自動車道路の完備には官民共に多大の努力と費用を拂つて居る。

先づ大都會の舊市內道路網は縱橫に走つて居るが道幅は廣狹多樣であり統一がない。之は市制實施當時の指導者に達見の士が居なかつたせゐであらう。舊市內の商店街ではシドニー、メルボルン共に市電が中央を走り左右に自動車路を、その兩側に一段高く人道を設けてゐる。唯銀座邊りと違ふ點は各商店の軒が人道一杯に突き出て居て看板をぶらさげたり日除や雨除の役目を盡してゐる事である。シドニー異變の一つに所謂 One way Traffic 街があり、ピット、キャースレイの繁華街は道幅が狹いので電車自動車の通行は一方向のみと定められてゐて、ピット街は南行のみキャースレイ街は北行となつてゐる。またシドニー、メルボルン市の中心地で交通量の多い道幅の狹い街は全て One way Traffic の規定を設け、自動車交通事故の防止に努めて居る。

シドニー市ピット街ワン・ウエー・トラフィック（一方通行）に注意ありたい。

Pacific Highway, シドニー・メルボルン間には海岸コースにより鋪裝路は美ましい位よく完備維持されてゐる。路面は約二五—三〇呎の車道で中央には約三吋幅の白線や黃線が引かれて左側通行を明示して居る。

濠洲での旅行は汽車、汽船、飛行機以外に自動車による事が非常に多く、卑近な例では五〇〇哩に亙るシドニー、メルボルン間でも Highway に沿つて一泊二日で自動車旅行をする者が多い。ホテル止宿の場合、自動車はホテルのガレーヂに入れるのが普通である。

この様に自動車の普及と道路の發達は相互に密接な關係があるから各州政府は道路の建設維持費の財源を自動車登錄稅、罰金、起債、國庫收入の一部から捻出してゐる外にガソリンの販賣を通じて通行稅を徵收して居る。一九三八年末に於けるニュー・サウス・ウェールス州通行稅はガソリン一ガロンの賣値一志九片に對して四ペンスを州政府、三ペンス半を聯邦政府通行稅として算入して居たが戰後民需用ガソリン配給の大削減により通行稅からの財源は著減してゐる有樣である。濠洲に於ける自動車の普及狀態については一九三八年六月三十日現在の統計によると自動車、自動自轉車併せて合計八五六、八二八臺に上り一〇〇人當り一二・四三臺の割合となつてゐる。この中自家用車は五三四、九六三臺、商用車は二四一、七五一臺、自動自轉車は八〇、一一四臺の內譯となつて居る。

濠洲人にとつての享樂の一つは土曜日曜日等に自動車を驅つて家族總出で遠乘りに出掛ける事であり、モータードライブはスポーツ化して居る有樣であるが、戰時下ガソリン資源の乏しい濠洲は軍需の增大と相俟つて民需用ガソリンの配給統制を强行したので自家用車の乘廻しも出來なくなり、汽車電車の利用客は日增しに多くなつてゐる。

乍餘談、自家用車は一般に黑、茶、臙脂、クリーム色等一色のものが多いのに反し、タクシーは黃と黑、赤と黑といふ風に混色のものもあれば近時 Private Taxi といつて外觀私用車と同樣なものが街頭に進出して居る。日本內地のタクシーは乘客のある時には Room Light をつけてゐるが、濠洲では正反對で乘客のある場合に消燈する習慣があり助手の同車も殆んど見受けられない。

また自動車の發達は自動車事故を伴ひ死傷者の數は增加する一方で、人口增加率の微々たる濠洲にとつては交通事故による死亡は一大關心事となつてゐる。之は濠洲人氣質が何事によらずスリルを味ふ事に一種の興味を持つて居ること並に自動車操縱免許證が簡單な實地試驗でとれる事に起因して居る。從つて市內は別として素人の樣な者が五〇—六〇哩の高速度で自動車を走らすのだから危險率も比較的に多いのである。

參考迄に一九三九年六月三十日現在に於ける州別自動車登錄數を次に揭載しよう。





近郊に出ると電車の走る幹線道路は市內より道幅が廣く道路そのものに餘裕がある樣に感ぜられる。一般道路は何處へ行つても車道を中央に左右軒並みに一段高く人道を造つてゐるが、人里離れるに從ひ車道一本で人道は消えてゐる。

大陸主要幹線道路としては Highway がありこれは日本內地の國道に當る。シドニー、ブリスベンを結ぶ。Prince's Highway 內陸コースに Hume Highway があ

## 第219表　自動車登錄數

| 州別 | 自動車 | 商用自動車 | 自動自轉車 | 合計數 | 人口千人當り |
|---|---|---|---|---|---|
| ニュー・サウス・ウェルス | 217,361 | 77,503 | 24,151 | 319,015 | 116.7 |
| ヴィクトリヤ | 153,391 | 81,766 | 26,698 | 261,855 | 139.7 |
| クィンスランド | 76,654 | 43,341 | 8,168 | 128,163 | 127.3 |
| 南オーストラリヤ | 56,983 | 24,554 | 9,219 | 90,756 | 152.7 |
| 西オーストラリヤ | 38,039 | 24,441 | 7,199 | 69,679 | 150.6 |
| タスマニヤ | 17,668 | 5,036 | 3,656 | 26,360 | 111.3 |
| 直轄北部地域 | 404 | 966 | 56 | 1,426 | 243.9 |
| 直轄首都地域 | 1,771 | 418 | 90 | 2,279 | 194.7 |
| 合計 | 562,271 | 258,025 | 79,237 | 899,533 | 129.9 |

次に路面電車は舊市內を縱橫に走つてゐるが一步繁華街を出ると市電は未發達の域を脫しない。都市に於ける路面電車の經營は各州政府或は市經營のものが大部分であつてニュー・サウス・ウェールス州、ヴィクトリヤ州、西オーストラリヤ州の路面電車は州營のもの、クィンスランド州、南オーストラリヤ州のものは市營である。之等路面電車は軌道によるものが殆んど全部でこの外に一部無軌道電車がシドニー、アデレードにある。

メルボルン市名物の一つに一一・〇五哩の路線を走る所謂 Cable Car が時流の變遷に超然として小賣百貨店の立ち並ぶ Bourke 街を南北に通つてゐた。之は軌道中央部の地下に Wire をはめ込みこの Wire が始終回轉してゐて運轉手が Wire をキャッチすると電車が走るのである。この歷史的遺物も遂に一昨年取除かれてしまつた。

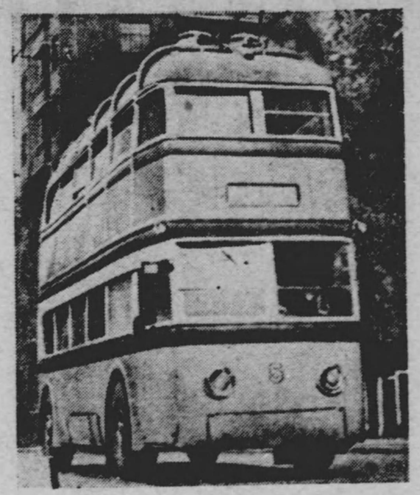
大都市近郊地域に於ける路面電車は既述の如く未發達であるから郊外住宅地の發展擴大につれて乘合自動車の發達が年々顯著となつて來て居る。最近流行の（Double Deckers Bus）二階





附大型赤バスがシドニー、メルボルン其他大都市にバス網を作つて居り利用客も多い。

日本內地と異つて一般に電車、バスの車掌は何れも男子でバスガールは乘つてゐないから女子の職業でない樣だ。また田舍を走る乘合バスでは運轉手は車掌兼用で多忙だが、會社運營上並に人手の不足から考へれば之も一石二鳥式なのであらう。



ダブル・デッカース・バス

## 第七章　航　空

濠洲に於ける大空への憧れは今を遡る約五十年前に始つて居る。當時シドニー在住の Laurence Hargraves は獨逸人科學者である Otto Lilienthal 氏と相談の擧句所謂 Box Kite といふ一種の滑空機を造つて夫れに乘つて空へ飛上る事に成功したのであつた。其後一九〇三年に至つて發動機を備へた最初の飛行機が Wright 兄弟によつて試みられたが、之は不成功に終り試驗飛行で成功したのは六年後の一九〇九年で祝賀飛行が主要都市で催されるといふ熱狂振りであつた。

降つて一九一〇年九月に於てヴィクトリヤ州ミアミアの J. R. Duigan は自ら飛行機を組立て飛行に成功したといふ記錄が殘つてゐる。無論この飛行機の製作に當つては發動機は歐洲から輸入したものであるが、其他の部分品一切は濠洲産材料を使用したものであつた。今尙彼の功績を讃へる意味に於てこの飛行機は Australian War Museum に保存されてゐる。

爾來濠洲航空界の發達は聯邦政府による航空知識の普及奬勵と相伴つて長足の進歩を遂げて居る。尤も濠洲の如き廣袤涯なき大陸にあつては、數百哩離れた各地方間との連絡は未發達の鐵道に依存する譯には行かず、又時間がかゝるので結局航空機による各地方との接觸が最も效果的であると考へられる。

一九三九年六月三十日現在に於ける濠洲民間航空の發達狀況については、運航會社は一五社に上り其定期航空網は週三回のシドニー・ダーウィン・シンガポール線を初めとして全濠洲海岸線一圓に張られてゐると共に、アデレード・ダーウィン間、ブリスベン・ダーウィン間を繼ぐ內陸空路がある。またシドニーを中心とする各州首都間の定期飛行は相當頻繁に行はれてをり、シドニー・メルボルン、シドニー・ブリスベン間は毎日二回、メルボルン・アデレード間は一日一回、アデレード・パース間は隔日毎となつてゐる。是等の定期飛行による就航總哩數はニューギニアを經てダーウィン、シドニーに入り込んで居る蘭印航空會社のコースを通算すれば、實に全長二九、五〇五哩に達し一週間の翔破哩數は一七二、九二八哩、一箇年にして八、九九二、二五六哩に達してゐる。

更に汎米航空會社によつてハワイからカントン島並にヌメアを經て新西蘭のオークランドへのクリッパー空路が出來たので、シドニー・オークランドを結ぶトランスタスマン航空會社が設立され、米國、新西蘭、濠洲間の强力な空

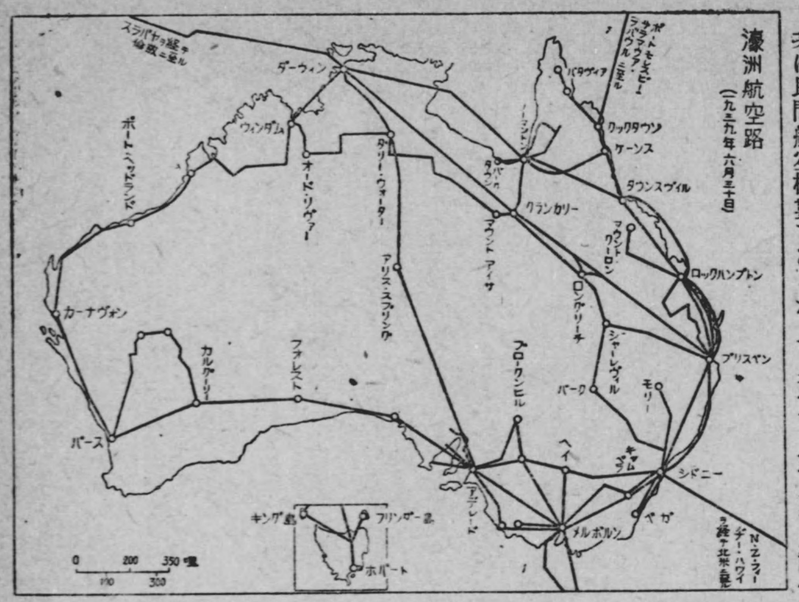




リンクが形成されてゐる。

次は民間航空機數であるが、一九三七―三八年度調べでは登錄飛行機數は二八六臺、操縱士免許者は一般人の九三七名、職業とせる者三二三名となつてゐる。また飛行場數は國營のもの七四箇所、民營のもの一九四箇所あり、不時着陸場は一五七箇所となつてゐる。

濠洲航空路（一九三九年六月三十日）




使用機としてはシンガポール、ハワイからの大飛行艇を初め米國製のロックヒード双發旅客機ダグラスDC2、DC3やスチンソン二發動機付等の最近型旅客機が主なるものでエアガールが便乘してアメリカ風のサーヴィスを提供して居る。更に民間航空路の發達と相俟つてラジオビーコンやローレンツ式盲目着陸裝置をブリスベン、アデレード間に設備する外、世界的に電波干渉の多い濠洲中北部に高周波方向探知局を十七箇所アデレード・パース間に設け大いに地上設備の完成にも政府の民間航空部は意を拂つて居る。

また國土が廣大であるから都市は分散的であり人里離れた奥地で開發にいそしむ人には急病人が發生しても醫者を呼ぶ